

# 静岡県立美術館年報

## 平成22年度

ANNUAL REPORT OF  
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART  
2010

# 静岡県立美術館年報 平成22年度

ANNUAL REPORT OF  
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART  
2010



# 目次

使命・重点目標・評価指標	4	学校連携普及事業（美術館教室）	54
平成22年度 美術館の評価活動	5	【重点目標 2】 講座・講演会等を充実します。	
【館長公約 A】 人々の感性を磨き、生活に変化をもたらすような魅力的な展覧会を開催します。		講演会	62
【重点目標 1】 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します。		美術講座	63
展覧会活動 展覧会一覧	8	対外活動	66
観覧者数一覧、年度別観覧者数	9	【重点目標 3】 地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します。	
（企画展）		美術館ボランティア・広報サポーター	69
伊藤若冲－アナザーワールド－展	10	友の会活動	71
トリノ・エジプト展	12	【館長公約 C】 戦略的な広報を展開し、情報発信に努めます。	
ロボットと美術	13	【重点目標 1】 広報戦略を策定し、広報の質を高めます。	
出会えます。あなたの愛する風景	16	広報活動（ホームページ）	75
帰ってきた江戸絵画 ニューオーリンズ		美術館ニュース「アマリリス」	76
ギター・コレクション展	17	【重点目標 2】 観光などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます。	
（その他）		新たな広報チャンネルの開拓	77
第20回富嶽ピエンナーレ展	18	【重点目標 3】 ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします。	
【重点目標 2】 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します。		ロダン館展示・イベント	78
（調査研究活動）		【館長公約 D】 施設の改修を推進し、美術館のアメニティを高めていきます。	
紀要の発行	19	【重点目標 1】 館内施設を充実し、満足度を高めます。	
研究活動	20	施設利用状況（年度別）	79
研究会	21	県民ギャラリー利用状況	80
各種資料整理	24	【重点目標 2】 周辺環境やアクセス環境の向上を進めます。	
博物館実習	25	来館者のアクセス満足度	81
【重点目標 3】 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します。		■付帯資料	
収蔵品展	27	平成22年度主要記事	82
移動美術展	28	（展覧会出品目録）	
平成22年度 新収蔵品	30	伊藤若冲－アナザーワールド－展	84
収蔵点数一覧	33	トリノ・エジプト展	88
図書資料の収集・整理	35	ロボットと美術	93
館蔵品の貸し出し	36	出会えます。あなたの愛する風景	97
美術作品の補修	39	帰ってきた江戸絵画 ニューオーリンズ	
保存活動	40	ギター・コレクション展	101
【館長公約 B】 地域や学校教育との連携を深め、質の高い教育・普及活動を展開します。		収蔵品展	105
【重点目標 1】 質の高い教育・普及プログラムを開発します。		移動美術展	108
（一般向け）		（管理運営）	
ギャラリーツアー	42	関連法規	112
実技・鑑賞講座	43	組織・名簿	120
（子ども向け）		歳入・歳出決算	121
実技・体験	48	建築・設備概要	122
夏休み子どもワークショップ	51	利用案内	128
		奥付	130

# 使命・重点目標・評価指標

(平成20年度～平成22年度)

## 使命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのためにコレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

館長公約	重点目標	評価指標
A 人々の感性を磨き、生活に変化をもたらすような魅力的な展覧会を開催します	1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	1 展覧会の観覧者数 2 自主企画・企画参加型展覧会の回数（レベル別） 3 作品やテーマに興味を持った人の割合 4 展覧会における新規来館者数の割合 5 展覧会に対する外部評価(レビュー) 【定性】 6 調査研究の発表件数（種類別） 7 内部セミナー・研究会・研修の回数 8 大学等と連携した取組件数 9 インターンシップ受入人数 10 調査研究に関する外部評価(レビュー) 【定性】
	2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	11 収蔵品展の観覧者数 12 収蔵品の公開件数（貸出し含む） 13 作品購入件数・購入価格 14 作品寄贈件数・評価価格 15 公開または貸出した展覧会における作品の位置付け等に関する学芸員レポート 【定性】
	3 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	16 学校教育と連携した取組数 17 鑑賞系プログラム数 18 コレクションを活用したプログラム数 19 教育・普及プログラムに関する美術館職員のレポート 【定性】
B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い教育・普及活動を展開します	1 質の高い教育・普及プログラムを開発します	20 講演会等の開催回数 21 学芸員のフロアレクチャー等の数 22 地域住民等と連携した取組件数 23 館内空間を生かした催事の件数・参加者数 24 地域住民等と連携した取組に関する美術館職員のレポート 【定性】
	2 講座・講演会等を充実します	25 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合 26 ホームページのアクセス数 27 ホームページの満足度
	3 地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します	28 取材の件数 29 広報手法における新たな取組状況に関する美術館職員のレポート 【定性】
C 戦略的な広報を展開し、情報発信に努めます	1 広報戦略を策定し、広報の質を高めます	30 ロダン館の入館者数
	2 観光などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます	31 美術館利用者数（計） 32 鑑賞環境に対する満足度
	3 ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします	33 レストラン・カフェ利用者の満足度 34 ミュージアムショップ利用者の満足度
D 施設の改修を推進し、美術館のアメニティを高めていきます	1 館内施設を充実し、満足度を高めます	35 来館者のアクセス満足度
	2 周辺環境やアクセス環境の向上を進めます	

## 平成22年度 美術館の評価活動

### ■総括

本年度は、本館リニューアルオープンに加え、懸案である当館の観光ルート化に取り組むべく、静岡県舞台芸術センター（SPAC）との共催による「ロダンと詩の朗読」を2回実施した。また以下に示す通り、3つの取組方針を掲げ事業に取り組んだ。

全体的な成果として、美術館利用者数が、目標の359,600人を超え、459,489人に達したことが挙げられる。内訳を見ると、展覧会の来館者数が、目標の195,600人を超え、266,786人に達し、充実した作品鑑賞の機会を提供することができた。一方、収蔵品展は、目標の17,000人に及ばず、12,526人とどまり、コレクション活用の方法に課題を残す結果となった。

個別に見ると、(1)「展覧会の充実、多様な連携」については、千葉市美術館と共同企画した「伊藤若冲ーアナザーワールドー展」において、若冲の知られざる水墨画の魅力を紹介したことで、54,937人（対見込：21,000人）の方々にご覧いただくことができた。また青森県立美術館、島根県立石見美術館と共同企画した「ロボットと美術」展においては、美術と科学技術における人体表現を考察する新機軸を打ち立てることができたことで、県外からもこれまでより多くの来館者を迎えることができた。

(2)「収蔵品展の充実」については、フランソワ・ブーシェの油彩画作品の基金購入を機に、「あなたの愛する風景」展と題した企画展を開催し、西洋画、日本画、日本洋画、現代の写真に至るまで、当館コレクションの多様性とその魅力を紹介することができた。またそれぞれの収蔵品展についても、担当学芸員がテーマ性をもって構成し、充実した展示となった。

(3)「戦略的な広報及びロダン館の観光ルート化」については、冒頭でも述べたが、静岡県舞台芸術センター（SPAC）との共催により、ロダン館での詩の朗読を2回実施したのに加えて、ロダン作品を人工照明で見せる「夕暮れロダンツアー」や静岡音楽館AOIとの共催による「ロダン賞コンサート」を実施するなど、ロダン館の観光化に向けた戦略的な広報に取り組んだところである。

### ■前史

平成13年度より、館内にワーキンググループを設け、佐々木亨氏（北海道大学大学院教授）の助言のもと、ベンチマークス（評価指標）の策定に取り組み、それに基づく利用者の満足度調査を行った。平成14年度には、ベンチマークスの改定作業をしながら、利用者ア

ンケート調査等を行い、諸業務における現状値を測定、それに伴う業務改善に向けた取組を行った。

それらの成果を踏まえ、平成15年度には、「静岡県立美術館評価委員会」が設置され、2年間にわたる美術館・県庁との共同作業を経て、平成17年3月に「提言：評価と経営の確立に向けて」という最終報告が出された。その提言を受けて、平成17年4月より、ミュージアム・ナビ（使命・戦略計画の達成度を指標で測定し、改善を行うツール）の運用を始めた。平成18年度には、平成17年度の活動に関する自己評価をとりまとめ、第三者評価委員会の総括を受けるシステムが稼働し始めた。

### ■平成22年度の活動

本年度も引き続き、ミュージアム・ナビによる自己点検評価とともに、外部委員による研究評価活動を受けた。それぞれに概要は以下の通りである。

#### (1) ミュージアム・ナビによる自己点検評価

使命・戦略計画の達成度を指標（定量的・定性的）によって測定し自己点検を行うことで業務改善に取り組む。

自己点検の拠り所となるのは、来館者に対するアンケート調査である。統計的に有意なサンプル数を確保するとともに、項目・選択肢等についても細かな改訂を加え、有効なデータを集めている。平成22年度は、以下の活動を行った。

#### 1 アンケート調査結果の集計と分析

- A. 展覧会観覧者アンケート（3本）
- B. 教育・普及プログラム参加者アンケート（実技系・イベント系）
- C. 付帯施設（レストラン、ミュージアム・ミュージアムショップ）
- D. 美術館ホームページによるアンケート

#### 2 グループ・インタビュー

#### (2) 研究活動評価委員会

ミュージアム・ナビの中で、展覧会及び学芸員の調査研究に関わる定性的評価を行う。利用者アンケートによる調査では把握しきれない学術面での達成について、各分野の専門家に評価・コメントを依頼する。

## ■静岡県立美術館研究活動評価委員

(【 】内は専門分野)

- 坂本 満 【西洋絵画・日本洋画】／金沢美術工芸大学客員教授・(前)うらわ美術館館長
- 潮江 宏三 【西洋絵画・現代美術】／京都市立芸術大学教授
- 山梨絵美子 【日本洋画】／東京文化財研究所企画情報部近現代視覚芸術研究室長
- 榭原 悟 【日本画】／群馬県立女子大学教授
- 金原 宏行 【教育普及・日本画】／常葉学園大学教授

## ■開催記録

平成22年4月18日、20日

・「伊藤若冲－アナザーワールド－展」視察及び評価

平成22年6月29日

- ・平成21年度研究活動の評価・総括
- ・平成22年度の研究評価活動についての提言及びスケジュールについて
- ・「トリノ・エジプト展」視察

平成22年10月7日

・「ロボットと美術」展視察及び評価

平成22年12月7日

・「あなたの愛する風景」展視察及び評価

○静岡県立美術館研究紀要第26号(平成23年3月31日刊行)掲載論文についての評価

## ■静岡県立美術館研究活動評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館(以下「美術館」という。)の展覧会事業及び専門分野に関わる刊行物等の評価を行うため、静岡県立美術館研究活動評価委員(以下「委員」という。)を置く。

(職務)

第2条 委員は次に掲げる事項について別紙評価の基準により、様式1の業務評価書を作成する。

- (1) 美術館が行う展覧会事業及び普及事業
- (2) 学芸員が執筆する専門分野に関する論文及び刊行物
- (3) その他美術及び教育普及に関する専門的事項

(組織)

第3条 委員は5名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要があるときは、館長は臨時委員を委嘱することができる。

(委嘱)

第4条 委員は美術及び教育普及に関する専門的知識

を有する者の中から館長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成15年5月1日から施行する。

## ■評価基準

### 1) 展覧会

1. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ(新たな価値基準の提示)、多様な資料(写真や二次資料等)の積極的な活用、館藏品やそれに関わる資料等の活用、地域作家の調査・研究(記録・整理を含む)等。
2. 企画者(学芸員)の研究面での充実度…学芸員の日頃の取り組みや研究成果を活かした内容。学術に対する貢献度等。
3. 出品作品の充実度…諸々の制約の中で、出来る限り企画内容に即した作品を出品できたか。
4. 鑑賞者への判り易さ…企画内容・展示、キャプションの解説は、鑑賞者にとってわかり易いものか。
5. その他…特に評価に値する事柄。

### 2) 展覧会カタログ／学芸員のエッセイ

1. 鑑賞者への普及・啓蒙…企画内容を補完し、鑑賞者への理解を促す。
2. 企画者(学芸員)の研究面での充実度…研究成果が活かされたか。学術に対する貢献度。
3. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ(新たな価値基準の提示)、資料的な価値等。
4. その他…特に評価に値する事柄。

### 3) 研究紀要／館藏品に言及あるいは館の作品収集テーマに直結して記述した館外の刊行物

1. 内容の先駆性・独自性…他にはない先駆的な内容。
2. 研究の充実度…研究成果が活かされたか。学術への貢献度。
3. 学会へのインパクト…研究内容が及ぼす学会への影響。

- 
4. 資料的な価値…入念なデータの調査・蓄積が出来ているか。
  5. その他…特に評価に値する事柄。

4) 教育・普及プログラム

1. 企画内容の充実度…作家、作品に対するアプローチ。作品の魅力を伝え、身近に感じてもらえる工夫等。
2. その他…特に評価に値する事柄。



【館長公約 A】人々の感性を磨き、生活に変化をもたらすような魅力的な展覧会を開催します。

【重点目標 1】新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します。

■展覧会活動 展覧会一覧

企 画 展							収 蔵 品 展
1	2	3	4	5	6	7	
4 APRIL	4/1(木)～4/9(金) 1～6室閉室						4/1(木)～5/16(日) New コレ しずおか ～新収蔵品と 静岡ゆかりの美術～
	4/10(土)～5/16(日) 伊藤若冲－アナザーワールド－展						
5 MAY	5/17(月)～5/24(月) 館内整備のため休館						5/25(火)～7/19 (月・祝)
6 JUNE	6/12(土)～8/22(日)						富士山の絵画 2010
	トリノ・エジプト展 －イタリアが愛した美の遺産－						
7 JULY							7/21(木)～9/12(日) 親子で楽しむ日本画 水のある風景
8 AUGUST	8/31(火)～9/12(日)						9/14(火)～11/7(日) 大きい絵 ～大画面の魅力～
	第50回記念 静岡県芸術祭						
9 SEPTEMBER	9/18(土)～11/7(日)						11/9(火)～1/30(日) 静物と人物 ～近代から現代まで～
	ロボットと美術 ～機械×身体のビジュアルイメージ～						
10 OCTOBER	11/16(火)～12/23 (木・祝)						12/27(月)～1/1(土) 年末年始休館
	出会えます。 あなたの愛する風景						
11 NOVEMBER	12/2(日)～1/30(日)						2/1(火)～3/31(木) イマジネーションの彼方へ －神話・空想・物語 の西洋画－
	第20回 富嶽ビエンナーレ展						
12 DECEMBER	2/5(土)～3/27(日)						
	帰ってきた江戸絵画 ニューオーリンズ ギッター・コレクション展						
1 JANUARY							
2 FEBRUARY							
3 MARCH							

## ■観覧者数一覧

展 覧 会		会 期		観覧者 見込数	観 覧 者 実 績 数						
		期 間	日数		一 般	高校・大学	小・中学	70歳以上	招待	実績数	対見込
企 画 展	伊藤若冲 -アナザーワールド-展	4/10~5/16	日 33	人 21,000	人 35,951	人 2,996	人 2,223	人 6,570	人 7,197	人 54,937	% 261.6
	トリノ・エジプト展	6/12~8/22	62	83,000	96,223	6,377	16,747	8,402	11,606	139,355	167.9
	ロボットと美術	9/18~11/7	44	15,600	8,175	2,074	2,942	508	2,498	16,197	103.8
	出会えます。 あなたの愛する風景	11/16~12/23	33	13,600	4,464	564	1,190	691	1,508	8,417	61.9
	帰ってきた江戸絵画 ニューオーリンズ ギッター・コレクション展	2/5~3/27	44	17,800	7,136	806	848	1,455	2,710	12,955	72.8
	計		216	151,000	151,949	12,817	23,950	17,626	25,519	231,861	153.6
収 蔵 品 展		4/1~3/31	304	17,000	6,541	(注) 2,941	-	1,583	1,461	12,526	73.7
合 計				168,000	158,490	15,758	23,950	19,209	26,980	244,387	145.5
第50回記念 静岡県芸術祭		8/31~9/12	12	10,000	-	-	-	-	5,729	5,729	57.3
第20回 富嶽ビエンナーレ展		1/2~1/30	26	14,000	4,499	184	211	1,461	7,736	14,091	100.7
総 合 計				192,000	162,989	15,942	24,161	20,670	40,445	264,207	137.6
移動美術展	川根本町	11/11~11/14	4	600	-	-	-	-	-	636	106.0
	島田市	1/15~2/27	38	3,000	-	-	-	-	-	1,943	64.8

(注) 収蔵品展観覧者の「高校・大学」には、「小・中学生」が含まれている。

## ■年度別観覧者数

(単位：人)

年 度	観覧者数	年 度	観覧者数
昭和61年度	345,746	平成11年度	107,977
昭和62年度	174,031	平成12年度	146,833
昭和63年度	214,156	平成13年度	207,340
平成元年度	229,258	平成14年度	170,390
平成2年度	233,904	平成15年度	184,095
平成3年度	190,361	平成16年度	146,706
平成4年度	173,665	平成17年度	129,768
平成5年度	218,921	平成18年度	222,608
平成6年度	410,182	平成19年度	184,535
平成7年度	245,028	平成20年度	190,669
平成8年度	178,701	平成21年度	101,792
平成9年度	127,299	平成22年度	264,207
平成10年度	153,099	累 計	4,951,271

## 伊藤若冲—アナザーワールド—展

主催：静岡県立美術館、静岡朝日テレビ  
後援：日本経済新聞社、中日新聞東海本社、朝日新聞静岡総局  
協賛：静岡ガス、静岡県信用金庫協会、セキスイハイム東海  
会期：平成22年4月10日（土）～5月16日（日）

### ■概要

伊藤若冲（1716-1800）は、京都国立博物館での没後200年展以降様々なメディアで取り上げられ、一般の美術愛好家にも広くその名を知られる存在となった。

一方で、その作品に関しては華麗な着色画を中心として語られることが多く、遺作の大部分を占める水墨画については未だ必ずしも正当な評価を得ているとは言えない状況にある。しかし、晩年に至るまで生涯描き続けた水墨の作品には若冲の独特の造形感覚が遺憾なく発揮されており、彼のもう一つの魅力をかたち作っている。

本展覧会では、若冲の水墨の作品を中心に、関連する着色の作品をも含めて構成した。展示は原則として制作年代順となるようにし、画業の全体を通覧できるよう配慮した。加えて、河村若芝・鶴亭らの黄檗絵画の作品によってその水墨表現の前史を示し、より広い文脈から若冲水墨画の世界に迫ることを目指した。

### ■関連事業

- 特別講演会（場所：当館講堂 14：00～15：30）  
4月11日（日）「伊藤若冲の多彩な絵画世界」  
小林 忠氏（学習院大学教授、千葉市美術館館長）  
  
5月8日（土）「若冲における墨と色」  
佐藤康宏氏（東京大学教授）
- 美術講座（場所：当館講堂 14：00～15：30）  
4月17日（土）「若冲水墨画の魅力」  
福士雄也（当館学芸員）
- 学芸員によるフロアレクチャー（場所：当館展示室、各日14：00～15：00）  
4月18日（日）、4月29日（木・祝）、5月15日（土）

### ■図録

30.0×22.7cm 342ページ

・構成  
ご挨拶  
小林 忠「伊藤若冲の多彩な絵画世界」  
図版

- 第1章 若冲前史
- 第2章 初期作－模索の時代
- 第3章 着色画と水墨画
- 第4章 晩年期－多様な展開

伊藤紫織「『唐画』としての伊藤若冲」

福士雄也「伊藤若冲をめぐる二、三の問題－印章分析による作品編年の試論を中心に－」

石上充代「『白象群獣図』の造形的特質について－明度の反転に関する考察」

作品解説

印章一覧

落款

略年譜

主要参考文献

作品目録

List of Works

Summary

### ■関連記事

- ・福士雄也「『樹花鳥獣図屏風』の魅力」『集』42号 集出版社 2009.10
- ・伊藤紫織「若冲の多彩な世界」『集』42号 集出版社 2009.10
- ・福士雄也「若冲作品の構図の秘密に迫る」『美術の窓』29（1）2010.1
- ・佐藤康宏「若冲との遭遇」『電通報』2月1日
- ・（旅行企画）『美術館散歩倶楽部』第50号（2/1発行）クラブツーリズム
- ・（展覧会紹介記事）『りるぶ』3月15日号 自由民主党
- ・（展覧会紹介記事）『月刊 書道会』4月号 藤樹社
- ・（展覧会紹介記事）『小原流插花』4月号 財団法人小原流
- ・（展覧会紹介記事）『YL』4月号 クレアル・ジャパン
- ・（展覧会紹介記事）『ぴあ中部版』4月15日号
- ・（展覧会紹介記事）『エクラ』5月号 集英社
- ・福士雄也「着色画とは異なる世界」『新美術新聞』4月11日号
- ・（新聞連載）福士雄也「一昨年、驚きの発見」朝日

- 新聞静岡県版 2010.4.6
- ・(新聞連載) 福士雄也「晩年期の最高傑作」朝日新聞静岡県版 2010.4.7
  - ・(新聞連載) 福士雄也「方眼の数は10万個」朝日新聞静岡県版 2010.4.8
  - ・(新聞連載) 福士雄也「生涯肉食をせず」朝日新聞静岡県版 2010.4.9
  - ・(新聞連載) 福士雄也「大根が「釈迦」涅槃図」朝日新聞静岡県版 2010.4.10
  - ・「斬新で独創的150点」中日新聞 2010.4.10
  - ・(1万人目達成) 中日新聞 2010.4.21
  - ・「若冲屏風」は本人の作？」朝日新聞(全国版) 2010.5.1
  - ・(3万人目達成) 中日新聞、朝日新聞 2010.5.4

■出品目録

p.84～p.87を参照



▲チラシ

## トリノ・エジプト展

**主催**：静岡県立美術館、朝日新聞社、東映、テレビ静岡、フジテレビジョン

**後援**：外務省、文化庁、イタリア大使館、静岡県教育委員会、静岡市教育委員会、浜松市教育委員会、静岡リビング新聞社、K-MIX

**協賛**：静岡銀行、大塚製薬、大日本印刷

**協力**：ニッセイ同和損害保険、日本通運、日本貨物航空

**出品協力**：トリノ・古代エジプト博物館財団

**会期**：平成22年6月12日（土）～8月22日（日）

**休館日**：毎週月曜日（7月19日（月）は開館し、翌20日（火）に休館）

北イタリアのトリノには、古代エジプト美術では世界屈指の「トリノ・エジプト博物館」がある。そのコレクションの優秀さは、ロンドンの大英博物館、パリのルーヴル美術館などと並び称されるほどである。本展は、同館のコレクションをまとめて紹介する日本で初めての試みである。

約120点を出品した本展では、アカデミー賞受賞美術監督ダンテ・フェレッティによる、現地トリノの照明と鏡を用いた「彫像ギャラリー」の演出を取り入れ、2メートル級の石像作品の持つ威容をお伝えすることが出来た。

展覧会終了後、《オシリス神をかたどった王の巨像頭部》が破損するという痛ましい事故が起きたが、関係者の努力により、既に作品は修復された。

### ■カタログ

30.6×23.0cm 212ページ

本文

トリノ・エジプト博物館の歴史／エレニ・ヴァシリカ  
ディール・アル＝マディーナの職人の町／近藤二郎  
グラビア

彫像ギャラリー

トリノ紀行

第1章 トリノ・エジプト博物館

第2章 彫像ギャラリー

第3章 祈りの軌跡

第4章 死者の旅立ち

第5章 再生への扉

図解01

ヒエログリフ

図解02

ミイラ作り

図解03

古代エジプトの神々

古代エジプト年表

古代エジプト地図

用語解説

主要参考文献

出品リスト

### ■出品目録

p.88～p.92を参照



▲チラシ

## ロボットと美術

### 機械×身体のビジュアルイメージ

**主催：**静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送  
**助成：**財団法人 地域創造  
**協賛：**静岡模型教材協同組合、株式会社タミヤ  
**協力：**株式会社キャラアニ  
**会期：**平成22年9月18日（土）～11月7日（日）

#### ■趣旨・概要

わが国においては、産業や医療の現場から漫画・アニメ等のフィクションに至るまで、社会のあらゆる場面でロボットが活躍している。ロボットたちは、諸芸術や大衆文化における身体表現と結びつき、独自の展開を遂げてきた。本展は、ロボット誕生から今日までの歴史を振り返り、科学技術と文化との結びつきを検証しようという企画であった。

ロボットという概念は、カレル・チャペックの戯曲『R.U.R.』（1920）によって初めて世に出た。折しもこの1920年代という時代は、美術におけるキュビズムやデザインにおけるアールデコといった、工業技術の進展にインスパイアされた新たな美意識がもてはやされた時代でもあった。有機的な人造人間として着想されたロボットは、20世紀初頭の社会風潮に乗ってたちまち機械の人間へと変化し、欧米の文化を華やかに彩ることとなった。

この風潮は同時代の日本にも速やかに波及した。1924年には築地小劇場によって『R.U.R.』が上演され、1928年には東洋初のロボットとされる「學天則」が博覧会に出品されている。その他、ロボットそのものや機械の人間のようなモチーフを描いた絵画なども多く誕生するに至った。

戦後のロボットは、とりわけ日本の大衆文化においては不可欠の存在となった。ロボットをモチーフにした漫画やアニメは娯楽作品としてだけでなく、ヒューマニズムや、時に反体制的なテーマも扱う深く重厚な物語にまで発展した。このようなロボットのイメージは、現代の様々な分野における研究者やクリエイターに大きな影響を与えている。

本展は、「ロボットを題材に、科学技術と芸術、そしてわれわれの身体観の相互的な結びつきを明らかにする試み」と銘打ち、イタリアのキュビズム彫刻や、それらに影響を受けたわが国大正期新興美術の絵画、あるいはSFアニメ・雑誌のビジュアル、さらには大学で研究されているロボットや人間の身体性をテーマにした現代アート、PCソフトなどを紹介し、オリジナル短編アニメの制作も敢行した。

広報においては展覧会ホームページの開設は勿論の

こと、それとリンクしたブログ、展覧会ツイッターの運営といったネット展開を重視、さらに同時期に開催された「静岡ホビーフェア」での広報なども行い、新規ファン層の開拓を実現した。

展覧会終了後、「2010年 美連協大賞奨励賞」（美術館連絡協議会）受賞、「4氏の選ぶ展覧会ベスト4 [選者:中原佑介氏]」選定（『読売新聞』2010年12月16日付）など一定の評価を得た。また、2011年には企画者一同が第50回SF大会にゲストとして招待されるなど、その後もいくぶんの余波を与えている。

なお当展は、鳥根県立石見美術館、青森県立美術館とによる共同企画展であり、3館を巡回した。青森県立美術館：7月10日（土）～8月29日（日）、鳥根県立石見美術館：11月20日（土）～2011年1月10日（月・祝）

#### ■会期中イベント

- ・講演会「ロボガレージ実技レクチャー」  
9月18日（土）11：00～12：00 当館エントランスホールにて  
講師：高橋智隆氏（ロボガレージ）
- ・シンポジウム「ロボ美のできるまで、そしてこれから」  
9月18日（土）14：00～16：00 当館エントランスホールにて  
川西由里氏（鳥根県立石見美術館主任学芸員）、  
工藤健志氏（青森県立美術館学芸主幹）、村上 敬  
（当館上席学芸員）
- ・講演会「機械と生命のあいだ - ロボットの“いのち”をどのように展示する？」  
9月20日（月・祝）14：00～16：00 当館講堂にて  
講師：瀬名秀明氏（作家）
- ・ワークショップ「マンモスロボットと美術10」  
10月2日（土）午前の部 10：15～12：15、午後の部 13：15～15：15 当館実技室にて  
協力：(株)タミヤ
- ・ワークショップ「ペーパーロボットをつくってジオラマあそび！」  
10月30日（土）午前の部 10：15～12：15、午後の部 13：30～15：30 当館実技室にて
- ・フロアレクチャー  
10月31日（日）14：00～14：45 当館展示室にて  
講師：村上 敬（当館上席学芸員）

■関連記事

村上 敬「ロボットと美術1 機械の迫力 彫刻に」  
『静岡新聞』平成22年9月13日 夕刊  
村上 敬「ロボットと美術2 芸術家たちを刺激」『静岡新聞』9月14日 夕刊  
村上 敬「ロボットと美術3 科学、夢の象徴」『静岡新聞』9月15日 夕刊  
村上 敬「ロボットと美術4 心持つ機械の苦悩」『静岡新聞』9月16日 夕刊  
村上 敬「ロボットと美術5 人格得た“歌姫”」『静岡新聞』9月17日 夕刊  
「ロボット実演に歓声 県立美術館 開発者が魅力語る」『静岡新聞』9月19日  
「大自在」『静岡新聞』9月21日  
「人とロボかわり紹介 県立美術館 SF作家瀬名さん講演」『静岡新聞』9月21日  
「マガジン・レーダー EVENT」『SFマガジン』2010年11月号 9月22日発行 p.8  
住友文彦「ロボットと美術展 自分の似姿を求めて…」『中央公論』2010年11月号 10月10日発行 p.224  
宝玉石彦「身体と機械に寄せる心情 ロボットと美術

展」『日本経済新聞』10月13日  
「紙ロボ製作 親子で夢中 県立美術館」『静岡新聞』10月31日  
「箱根・彫刻の森から 県立美術館に“出張”」『サンケイ新聞』11月6日  
「4氏の選ぶ展覧会ベスト4 [選者:中原佑介氏]」『読売新聞』12月16日

■カタログ

「ロボットと美術」展実行委員会編  
発行：株式会社講談社、発行日：平成22年7月10日、  
印刷：図書印刷株式会社、デザイン：宗利淳一デザイン／高橋 賢、仕様：A4版 160ページ、ISBN：978-4-06-216390-3  
内容：

テキスト

座談会「ロボット」と「美術」をめぐって（川西由里＋工藤健志＋村上 敬）、「成り出でよ、科学と藝術の交流で」（井上晴樹）、「“未来への夢”の結晶・相澤次郎が遺したコドモたち」（テクノタク飯塚）、「ロボットの“いのち”をどのように展示する？」（瀬名秀明）、「ロボットアニメは夢の未来を描けるのか」（山本 寛）、「機械の女性たちーロボットの性別をめぐって」（川西由里）、「ロボット」をめぐる断想（工藤健志）、「人間とロボットの間に「不気味の谷」はあるのだろうか？」（村上 敬）

出展作品ほか図版、掲載作品一覧、参考年表、ペーパークラフト

■オリジナルアニメ

仕様

DVD 3分50秒 片面・2層ディスク 画面サイズ



▲チラシ



▲オリジナルアニメ

---

16：9 MPEG 2 Color Dolby Digital

スタッフ

原案：トリメガ（川西由里・工藤健志・村上 敬）、  
監督：ロマのフ比嘉、脚本：湯浅弘章、キャラクター  
原案：D.K.、キャラクターデザイン：田中誠輝、メ  
カニカルデザイン：寺岡賢司、声の出演：神田朱未、  
アニメーション制作：株式会社アスリード・有限会  
社スタジオアールエフ・青二プロダクション、製作：  
株式会社キャラアニ、「ロボットと美術」展実行委  
員会、音楽プロデュース：神前 暁  
作曲：MoNAKA

■出品目録

p.93～ p.96を参照



## 出会えます。あなたの愛する風景

主催：静岡県立美術館、静岡第一テレビ  
協賛：しずおか信用金庫  
会期：2010年11月16日（火）～12月23日（木・祝）  
休館日：毎週月曜日

静岡県立美術館の全コレクションの中から、「あなた」と「愛」をキーワードに選抜した作品による展覧会。「あなた」とは、作家と鑑賞者との両方を意味する。作家が愛した風景との出会いが、鑑賞者の愛する作品となりますようにという願いを込め、当館所蔵品と寄託品による、西洋画・日本画・日本洋画・現代美術の全ジャンルから構成された。

なお、今年度購入したフランソワ・ブーシェの油彩画2点をお披露目するとともに、これを記念し、ブーシェと他の18世紀フランスのロココの作家たちによる特別展示室も設けた。

### ■関連イベント

#### □トークイベント

11月21日（日）14：00～15：30

北井一夫（写真家）×下田賢司（コレクター）

#### □特別講演会

11月23日（火・祝）14：00～15：30

「桃源郷の詩と絵画」芳賀 徹（当館館長）

#### □美術講座

11月27日（土）14：00～15：30

「フランソワ・ブーシェと悦楽の風景」小針由紀隆  
（当館学芸部長）

#### □学芸員によるフロア・レクチャー

11月28日（日）、12月5日（日）14：00～15：00

### ■出品目録

p.97～ p.100を参照



▲チラシ

## 帰ってきた江戸絵画 ニューオーリンズ ギッター・コレクション展

主催：静岡県立美術館、NHK静岡放送局、中日新聞東海本社

会期：平成23年2月5日（土）～3月27日（日）

休館日：毎週月曜日 ただし、3月21日（月・祝）は開館、翌22日（火）は休館

アメリカ・ニューオーリンズのギッター・コレクションは、個性溢れる日本美術コレクションのひとつとして知られている。本展では、ギッター・イエレン財団の所蔵する日本美術コレクションの中から、江戸絵画を中心とする優品を選び、日本で初めて本格的にその全容を紹介した。アメリカ人の見た日本美術という視点から、「若冲と奇想の画家たち」「琳派の多彩」「白隠と禅の書画」「自然との親しみ」「理想の山水」「楽しげな人生」という6つのセクションに分けて構成された。若冲や蕭白の卓越した画力、琳派の潇洒なデザイン、禅画のユーモア溢れる画風と豊かなイマジネーション、そして山水画、花鳥画、浮世絵に見られる自然や日常生活へのあたたかなまなざしなど、江戸絵画の奥深さに気づかせてくれる貴重な機会となった。

なお、会期中に東日本大震災が発生したが展示作品に被害はなかった。ただし、震災後、観覧者数が激減し予想数に達することができなかった。

### ■関連事業

- ・特別講演会 2月12日（土）14：00～／当館講堂  
「ハリケーンから守られた日本絵画 ギッターコレクション」  
講師／小林 忠氏（学習院大学教授・千葉市美術館館長）
- ・学芸員によるフロアレクチャー  
2月20日（日）・3月13日（日）14：00～／展示室  
講師／飯田 真（当館学芸課長）

### ■関連記事

- ・2月4日 飯田 真「ギッターコレクション展紹介」（中日新聞）
- ・3月2日～4日 飯田 真「作品紹介」（3回連載・中日新聞）

### ■カタログ

- ・29.7×22.7cm 200ページ
- ・総論  
「お帰りなさい ギッター・コレクション」  
小林 忠
- ・図版
- ・エッセイ  
「宗達の鴨と加茂」河野元昭  
「戦後遺産」としての禅画－ギッター・コレクションの意味」  
「水墨画と創られた自己」ユキオ・リビット  
「江戸の華－浮世絵」田辺昌子
- ・作品解説、出品リスト

### ■出品目録

p.101～ p.104を参照



▲チラシ

## 第20回富嶽ビエンナーレ展

主催：静岡新聞社・SBS静岡放送、静岡県立美術館

会期：平成23年1月2日（日）～1月30日（日）

休館日：月曜日、1月11日（火）

※ただし1月3日（月）・1月10日（月）は開館

開館時間：午前10時～午後5時30分

※展示室への入室は午後5時まで

会場：静岡県立美術館 2階展示室及び1階県民ギャラリー

観覧料：一般 600円（400円）、  
高校生・大学生・70歳以上 300円（200円）  
中学生以下 無料

※（ ）内は前売及び20名以上の団体料金

### ■カタログ

23.9×25.4cm、62ページ

富嶽ビエンナーレ展は、広く創作活動を通じて顕著な業績を上げ、将来ともに活躍が期待される芸術家を発掘し、奨励する公募展です。出身、在住、国籍を問わず広く作品を募集し、優れた作品を結集することにより、更なる芸術文化の向上を図るものです。部門は、平面作品・立体作品《日本画、油彩画、水彩画、版画、工芸、彫刻・造形》からなります。

第20回富嶽ビエンナーレ展の審査会は11月29日、30日の両日、県立美術館で開かれた。全国38都道府県から寄せられた応募作品は全526点。内訳は日本画46点、油彩画208点、水彩画87点、版画24点、工芸97点、彫刻・造形64点で、172点が県外からの出品であった。前回の応募と比べると、油彩画が8点、水彩画が13点増えたのに対し、彫刻・造形が24点減ったという状況であった。

大賞には、福元修一「帰郷」、準大賞には、静岡県天竜林業高等学校「更竜男」、山本智之「始まりは終わりの始まり」、優秀賞には、志賀絵梨子「花の岸」、杉山英雄「希望に満ちた中学生」が決まった。佳作には、村上力「平櫛 田中」、石田克「ダイスキ」、崎山隆之「扁壺『聴涛』」、井浦千砂「太白」、湊智瑛「進」、宮崎昌子「あき. おもい.」、真鍋修「此处ではないどこかへ」、中村葉子「1956ともちゃんのタイムトラベル」の8点が決めた。

### ■表彰式

平成23年1月15日（土）14：00～ 静岡県立美術館講堂

## 紀要の発行

当館では、美術館建設準備室時代の昭和58年度に第1号を刊行して以来、ほぼ毎年1回のペースで紀要を刊行してきた。

刊行の目的は、美術館活動の基盤となる学芸員の研究成果を広く公開し、館藏品を中心とした美術作品の研究の進展に寄与することである。研究対象は主として館藏品であるが、各学芸員の研究意欲に従い、広く美術及び美術館をとりまく諸問題まで扱う。

成果品は、全国の研究機関、研究者等へ配布した。

第26号

■版 型 29.7×21.0cm

■頁 数 46頁

■刊行日 平成23年3月31日

### ■内容

#### ・口絵図版

児島善三郎《箱根》昭和12（1937）年頃 当館蔵  
ゼバルト・バーナム『ヘラクレスの事績』（12枚組）  
当館蔵

#### ・論文

泰井 良

児島善三郎《箱根》についての考察

p.13 - p.20

南 美幸

ゼバルト・バーナム『ヘラクレスの事績』について

p.23 - p.40

#### ・各論文英文レジュメ



▲表紙

## 研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたもの（論文・口頭発表）を記載する。ただし、一般の新聞・雑誌などへの寄稿や、図録等の作品解説などは除いている。

### ◆小針由紀隆

- ・「研究ノート・フランソワ・ブーシェ〈洗濯女〉の描写をめぐる一考察」『アマリリス』No.100（静岡県立美術館ニュース／平成23年1月）

### ◆飯田 真

- ・「研究ノート・新収蔵作品《富士三保松原図屏風》について」『アマリリス』No.101（静岡県立美術館ニュース／平成23年4月）

### ◆南 美幸

- ・「ゼバルト・ベーハム『ヘラクレスの事績』について」『静岡県立美術館紀要』第26号（平成23年3月）

### ◆堀切正人

- ・「石田徹也とその時代」『石田徹也全作品集』（求龍堂／平成22年5月）
- ・『宮芳平自伝』編集・注釈・解説（求龍堂／平成22年4月）

### ◆新田建史

- ・「静岡県立美術館の地震対策」『J.P.ゲッティ美術館、国立西洋美術館共催国際シンポジウム報告書「美術館・博物館コレクションの地震対策」』（国立西洋美術館／平成23年2月）

### ◆川谷承子

- ・「小谷元彦と日本の彫刻－「SP」シリーズ以降の小谷について思うこと」『小谷元彦展 幽体の知覚』展図録（美術出版社／平成22年12月）

### ◆村上 敬

- ・「人間とロボットの間には「不気味の谷」はあるのだろうか？」『ロボットと美術－機械×身体のリビウアルイメージ展図録』（ロボットと美術展実行委員会編・講談社／平成22年7月）
- ・「研究ノート・「不気味の谷」をめぐる」『アマリリス』No.98（静岡県立美術館ニュース／平成22年7月）

### ◆泰井 良

- ・「児島善三郎《箱根》についての考察」『静岡県立美術館紀要』第26号（平成23年3月）
- ・「前田守一の版画世界」『前田守一展』図録（フェルケール博物館／平成23年3月）

### ◆石上充代

- ・「《白象群獣図》の造形的特質について－明度の反転に関する考察」『伊藤若冲－アナザーワールド－展』図録（千葉市美術館・静岡県立美術館／平成22年4月）
- ・「研究ノート・橋本雅邦《三井寺》における先駆性について－描法と主題から」『アマリリス』No.99（静岡県立美術館ニュース／平成22年10月）

### ◆福士雄也

- ・「研究ノート・「狩野派の世界2009」展余録－戯画としての鍾馗図－」『アマリリス』No.97（静岡県立美術館ニュース／平成22年4月）
- ・「伊藤若冲をめぐる二、三の問題－印章分析による作品編年の試論を中心に－」『伊藤若冲－アナザーワールド－展』図録（千葉市美術館・静岡県立美術館／平成22年4月）
- ・「伊藤若冲に関する史料について」『鹿島美術研究』年報別冊27号（平成22年11月）

## 研究会

平成22年度に開催した研究会の題目と要旨は以下のとおりである。この研究会は準備室時代から始まり、ほぼ月1回のペースで現在まで実施されている。発表者である学芸課職員は自由にテーマを設定できるが、当館における展覧会企画や館藏品研究に関わる発表も多い。発表時間は約40分で、発表後は館長および同僚たちとの質疑応答を行う。20数年続いているこの研究会は、当館での調査研究、展覧会企画等の基礎を形成し、ここから有益な示唆を得ることも少なくない。

### 5月

#### お猿電車とミュージアムのアトラクションについて 村上 敬

戦後の上野動物園に「お猿電車」という人気アトラクションがあった。この仕掛け人の一人に、相澤次郎という民間のロボット研究者がいた。22年度開催の展覧会「ロボットと美術」の調査過程で浮かび上がった、ロボット研究者とミュージアムとのこの意外な関係を通じて、ミュージアムとアトラクションについて考えてみた。

1948年、相澤次郎はロボットが運転するミニチュア列車を走らせれば誘客に結びつくに違いない、と動物園に提案した。動物園では、運転手をロボットではなく知能の高い猿にし、提案を実行に移した。猿が実際にレバーを操作して電車を動かすというこの画期的なアトラクションは大人気を博し、1949年度には66万人余りの乗車数を記録する。しかしその後、大量の乗客を効果的にさばくため、猿は車両に繋いでおくだけのお飾りにして電車自体の運転は人間が行いはじめると、人気は徐々に下降を始めた。猿が再び操縦桿を握ることにより、人気を持ち直すが、今度は外国の動物園関係者からの「猿の虐待に当たるのではないか」という指摘や、パンダ飼育の開始に伴う園内の過剰な混雑などもあり、うやむやのうちに、廃止されてしまった。

この案件は、動物園というミュージアムのアトラクションを通じて、「そもそもアトラクションの目的と園のミッションとの関わりはどうだったのか」「意思決定が外圧に左右されがちなのはそこが曖昧だからではないか」「(動物のクオリティ・オブ・ライフを考えれば)もっと議論の可能性はあったのに、うやむやのうちに幕引きとってしまうのはいかがなものか」といった、ミュージアム共通の意思決定プロセスの問題を考えさせられる示唆に富んだものであった。

### 6月

#### 速水御舟《鍋島の皿に柘榴》—御舟における大正期静物画の展開

##### 石上充代

速水御舟の静物画《鍋島の皿に柘榴》について、その制作背景を探るとともに、御舟が大正期に描いた静物画の展開を整理し、その中における位置づけを明らかにした。

### 7月

#### 小谷元彦に関する考察

##### 川谷承子

小谷元彦が2007年にスタートさせたS P (スカルプチャー・プロジェクト) シリーズは、「現在は、死んでいる。」と作家が考える「彫刻」というメディアの再生と破壊を目指そうとする試みであった。当館所蔵の《SP1 'Beginning'》では、彫刻の表面の質感や触覚性に執拗なまでにこだわる表現により、日本の仏像や江戸時代の置物や細工といった工芸への関心をうかがわせ、2009年に発表された《SP4 the specter》では、「騎馬」などの彫刻の通俗的モチーフを選び、死んでいるのに生きながらえている、いわばゾンビのような分野としての人体彫刻を、仏像など日本の近代以前の表現にまで立ち返って再解釈してみせた。研究会では、日本の古典を参照しつつ、彫刻の根幹に立脚点を置いて、内側から彫刻というメディアそのものを変形、再編しようとする、S Pシリーズ以降の小谷作品の特徴を読み解きながら、制作行為の本質について考察した。

### 9月

#### 個人作家研究の実際と課題 —洋画家・宮芳平の場合— 堀切正人

洋画家、宮芳平研究を例に、個人作家研究の実際と課題について事例報告した。作家遺族から地方美術館の学芸員に対して遺作の調査、寄贈の打診がなされたのを発端とし、膨大な遺作や資料の整理、リスト作成、年譜作成、史的位置づけ、展覧会開催や出版などの顕彰作業と研究が進む。それぞれの段階において、遺族をはじめとした人間関係の構築や、基礎調査のための人員および時間の確保、個人情報扱い、そして美術館を取り巻く政治性などの問題が発現する。地域作家の発掘、顕彰作業は有意義なことであるが、基礎調査、基礎研究の重要性と、それに反して人、予算、時間の不足が課題となる。必要となるのは、学術的思索よりも、考古学的労働と人間関係であり、それらは、地方

美術館学芸員のモチベーションや働きに大きく依存している。

## 10月

### フランソワ・ブーシェと悦楽の風景―「洗濯女」の観点からの一考察

小針由紀隆

平成22年度に当館で購入したブーシェ作《石橋のある風景》と《水車のある風景》を研究対象にした。これら2点は1764年に対形式で制作され、朝と夕の長閑な田舎の風景を描いている。地図の上で「どこ」と指し示すことのできないブーシェの心のなかにある風景で、ルイ15世の宮廷で公務に励む作家が思い描いた悦楽境とも考えられる。発表では、ブーシェによるいくつかの対作品を分析する一方で、画中に登場する洗濯女に着目した。18世紀から19世紀末にいたる洗濯女モチーフの変遷をたどり、ブーシェの2作品の特質を浮かび上がらせた。

## 11月

### 《富士三保松原図屏風》について

飯田 真

平成22年度、はごろもフーズ株式会社より寄贈申し出のあった《富士三保松原図屏風》に関する研究発表。同作は室町期の制作と考えられるもので、富士山と三保松原を組み合わせ描いた現存最古の屏風作品。描かれたモチーフの詳細について確認するとともに、本作の制作背景を考察するために、同時代に描かれた水墨画作品や《富士参詣曼荼羅》、後に展開する名所風俗図における富士三保松原図屏風の図様を紹介し、本作の位置づけを試みた。富士山と三保松原を屏風に組み合わせることについては、図様の点で初発性があり、後の展開の上で貴重な作例であることを指摘した。

## 12月

### 父から子へ ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージとフランチェスコ・ピラネージ

新田建史

リドルフィーノ・ヴェヌーティという18世紀の学者が書いた『古代ローマ地誌の入念にして簡潔な記述 *Accurata, e succinta descrizione topografica delle antichità di Roma*』第2版(1803)の第2図《ジャーノ門》は、フランチェスコ・ピラネージの描いたものだが、これは父である版画家、ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージの同名作品(WE229)をほぼ同一構成で用い

ているものである。これら2点に始まり、他の作品ともども比較検討することで、ジョヴァンニ・バッティスタとフランチェスコとの、殊に質感描写の際に顕著な描線の差異を指摘した。

## 1月

### セバルト・ベーハム《ヘラクレスの事績》についての考察

南 美幸

今年度購入した版画連作に関する継続考察。昨年度も同様のテーマで基礎的調査を報告した。2度目となる今回は、作者が参照したと思われるマンテーニャ、カラーリオらイタリア・ルネサンスの具体的作例を挙げつつ、ベーハムのイメージ・ソースを探り、その特質をさらに追及する内容となった。なお、本発表は、今年度の「研究紀要」にまとめた。

## 2月

### 美術館における作品鑑賞活動の可能性について～鑑賞教育の実践報告

鈴木雅道

本年度は、12月に120名余の参加者を集めて、第2回鑑賞指導者研修会(教員・学芸員・教員志望学生対象)を開催した。テーマは、当館との連携を図ってきた学校の事例報告から、今後の課題や新規連携形態などを模索することにあつた。その中で、言語能力の育成と多くの博物館が開かれた環境を整えることの二点が重要であることを確認することができた。そこで、これまでの鑑賞教育の実践を踏まえ、親子で対話しながら作品鑑賞をするためのガイドブックの作成、レブリカの教材化、先生や大学との共同研究に取り組むべく、出張美術講座を中心に学校や地域との連携を積み重ねてきた。次年度に向け、鑑賞教育を担う人材育成にもなお一層力を注ぐためにインターンの積極的な導入と教員研修(当館受入れ時)のカリキュラム作成についても再考する必要があると考えている。

### 平成22年度 粘土教室・絵の具教室について アンケート報告

伴野 潤

本年度行われた様々な教育普及プログラム内容を紹介するとともに、年間70日(140回)行われた粘土・絵の具教室について園・学校団体からのアンケートの集計結果を伝え、次年度に向けての取り組みのもとにした。

園児・児童にとって貴重な体験や経験につながっていることがアンケート集計からわかり、約6割が毎年恒例のリピーターとなっているが、園・学校に送付した「美術館教室のしおり」の広報効果や教師間での紹介、子どもたちの興味関心から参加を決める学校も多いことがわかった。

今後も、園・学校の要望や児童の実態にあわせて柔軟に対応できるように安全面、設備面での充実や、内容の工夫、年齢差や発達段階に応じた配慮、スタッフ・ボランティアの協力と共通理解を図っていくことが必要だと感じた。

### 3月

#### 児島善三郎《箱根》についての考察

泰井 良

児島善三郎《箱根》（昭和12（1937）年頃 油彩、キャンバス 90.7×115.2cm 静岡県立美術館蔵）は、簡略化された造形と華麗な色彩による装飾的表現、とりわけ力強い描線と骨格による構成によって、桃山障壁画などからの影響を指摘される国分寺時代（昭和11年～26年）を代表する作品である。本作には、児島の言う「日本人の油彩画」への追求が見られるとともに、自然と向き合うことで得られる独自の造形と色彩が示されている。

本発表では、児島が主張した「新日本主義」をキーワードとして、当館蔵《箱根》について考察するとともに、本作とは対照的に写実へと回帰する《国分寺雪景》など、昭和15（1940）年以降の作品についても言及し、児島の絵画制作とその時代背景を探った。



## 各種資料整理

### ■作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行われており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

- (1) 作家（現代）人名別ファイル
- (2) 館藏品資料
- (3) 出品作家資料
- (4) 館藏品収集に関わる資料

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている。

### ■館藏品等のフィルム・デジタル画像作成整理

#### (1) 館藏品のフィルム

新収藏品については、年度内にまとめて美術品写真の専門家による大型カメラでの写真撮影を行っている。4×5インチまたはブローニー判のカラーポジを写真原板として、受入番号順フォルダに入れ、整理収納している。経年変化で劣化したものは、予算の範囲内で適宜再撮影を実施している。

昨今のデジタル写真主流化の流れを受け、ポジフィルムデュープが困難かつ高価になっている。デジタルデータは利用至便なものであり、市場原理に従ってそちらに資源を注力せざるを得ないのも理解出来る。だが銀塩写真も文化である。またデジタルベースに比べ情報量ははるかに多い上、メディアとしてタフでもある。長いスパンで考えるなら、保存費用は安価でもある。将来これらの資源が利用出来なくなるような事態に陥らないよう、関係業界の節度ある対応や文化政策上の配慮を望みたい。

#### (2) 館藏品のデジタル画像

コンピューターで利用出来るように、平成7年度から館藏品を撮影した4×5インチまたはブローニー判フィルムのフォトCD化を進めてきた。

平成16年度からは、新収藏品およびフィルムが劣化した作品の再撮影の機会に、美術品写真の専門家に委託し、デジタルカメラによる直接撮影も行っている。作成または撮影されたデジタル画像は、課内メインPCに保存され、ウェブ上での公開や各種広報物の作成、講演会や研究会等に活用されている。デジタル画像が作成されていない館藏品もまだあり、それらの遡及撮影も懸案となっている。

#### (3) その他

館藏品の他、寄託品、展覧会出品作品、調査作品についても、様々な形で写真撮影あるいは収集され、個別に整理されている。

### ■美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料の整理は、ボランティアによる資料整理グループが行っている。

### ■展覧会資料の整理

企画展等の文書及び資料については、各企画展毎に整理収納されている。

### ■コンピューターによる各種データ管理

館藏品データベースや図書データ等のコンピューター化は市販のデータベースソフト「桐」を使用して進められている。

#### (1) 館藏品

館藏品の基本データと履歴データが入力されている。デジタル画像は主な作品については揃っているが、未作成の作品については順次作成を進めている。

履歴データは伝来、修復歴、展覧会出品歴、収藏品展展示歴、文献掲載歴の5種のデータファイルで構成され、館藏品受入番号をキーに基本データのファイルとリンク、画像ファイルとリンクしている。新たに発生する履歴データは日常業務と連携し、蓄積することを目指しているが、見落とし等によるデータの濃淡が散見され、問題となっている。

#### (2) 図書

図書データはデジタル化され、来館者による検索もPC上で行うことになっているが、ウェブ上での公開はまだ不可能である。新規図書は、図書担当職員によってデータベース登録が行われている。

## 博物館実習

当館は、静岡県唯一の県立博物館施設であることから、開館当初より博物館実習の場と機会を提供してきた。実習生の受入には、次の3つを条件とし、本年度は9大学15名の実習生を受け入れた。

- (1) 県内出身者もしくは県内の大学に在籍していること。
- (2) 美学美術史学、または美術教育・制作・政策等を専攻し、美術館で実習を行う合理的な理由があること。
- (3) 大学の推薦を受けていること。

当館の博物館実習は、実習生に直に美術館での経験の機会を提供するのみならず、社会の中での美術館の役割を理解し、将来の美術館界を支える一員としての素養を身につけてもらうことを目指している。カリキュラムは見学・講義・実習からなり、それぞれを当館学芸課および総務課の職員が担当した。

本年度は昨年度に引き続いて「社会に支持される美術館とは」という総合テーマを設定し、現在の日本の美術館に期待されている社会の要請を、実習を通じて学生に考えてもらうことを目指した。このテーマに沿って、事前レポートの提出・発表および実習後の成果をまとめた事後レポートの提出を義務づけ、学習効果の意識化と定着を図った。

### ■実習内容

#### □講義

- (1) 静岡県立美術館の概要：他館と比較した場合の特徴や個性についての総論（飯田）
- (2) コレクションの形成とその活用の工夫：美術館の核となるコレクション形成の考え方とそれを紹介する収蔵品展の思想と実践について（小針）
- (3) 文化財の管理・保全：作品の管理保全についての総論と当館での活動の実際（新田）
- (4) 美術館における教育普及活動とボランティア活動：美術館における教育普及活動の総論と当館におけるその実例、並びに美術館におけるボランティア活動と当館におけるその運営・実際を紹介（堀切）
- (5) 展覧会が出来るまで①<風景ルル>：現存作家との共同作業を伴う独自企画展の実際を紹介（川谷）
- (6) 展覧会が出来るまで②<ロボットと美術>：国内独自企画展覧会の運営と実際を紹介（村上）
- (7) 博物館評価と文化政策の基礎：博物館評価活動についての本質と総論（泰井）

- (8) 学校教育と美術館：学校連携事業や実技系の教育普及活動についてその狙いと実例を紹介（鈴木）
- (9) 地域と美術館：地域と美術館との連携にまつわる実例を紹介（石上）

#### □実習

- (1) 作品取扱い実習：日本画、油彩・版画について作品の物理的特性についての説明と実際の取扱研修（西洋画班、日本画班）
- (2) 来館者対応実習：企画展各所における来館者案内・誘導等に関する実習（石上）

#### □演習

- (1) 課題発表と課題制作：事前課題のプレゼンテーション及び事後課題作成準備（石上）
- (2) ART！実習：ロダン館における教育普及企画「ART！」の見学及び運営補助（普及スタッフ）

#### □見学

- (1) 施設見学：収蔵庫・展示室以外の美術館裏方を含む各部の構造や役割について（古橋）
- (2) 収蔵庫見学：収蔵庫内の施設や環境について（南）

### ■カリキュラム

- (1) 10：00～10：50
- (2) 11：00～11：50
- (3) 13：00～13：50
- (4) 14：00～14：50
- (5) 15：00～15：50
- (6) 16：00～16：50

#### 8月9日（月）

- (1) オリエンテーション（石上）
- (2) 県立美術館の概要（飯田）
- (3) ～ (5) 課題発表（石上）
- (6) 課題制作・実習ノート整理

#### 8月10日（火）

- (1) 施設見学（古橋）
- (2) コレクションの形成とその活用の工夫（小針）
- (3) 収蔵庫見学（南）
- (4) ～ (5) 作品取扱い実習（西洋画班、日本画班）
- (6) 課題制作・実習ノート整理

#### 8月11日（水）

- (1) 文化財の管理・保全（新田）
- (2) 美術館における教育普及活動とボランティア活動（堀切）

- 
- (3) 展覧会ができるまで①<風景ルルル> (川谷)
  - (4) 展覧会ができるまで②<ロボットと美術> (村上)
  - (5) 展覧会見学 (石上)
  - (6) 課題制作・実習ノート整理

8月12日 (木)

- (1) 来館者対応実習 (石上)
- (2) 博物館評価と文化政策の基礎 (泰井)
- (3) 収蔵庫内実習① (学芸課)
- (4) 収蔵庫内実習② (学芸課)
- (5) 意見交換 (新田、石上)
- (6) 課題制作・実習ノート整理

8月13日 (金)

- (1) 学校教育と美術館 (鈴木)
- (2) 地域と美術館 (石上)
- (3) ~ (5) ART ! 実習 (普及担当)
- (6) 課題制作・実習ノート整理

## 収蔵品展

新収蔵品展を含め、当館の収蔵品を幅広くご覧いただくため、現代美術や日本画、日本洋画、西洋絵画等、ジャンルごとにテーマを設定して展示を構成した。

本館1階にあるエントランスの名品コーナーでは、常時3点の作品を無料でご覧いただいている。そのうち、1点は、富士山を描いた絵画を展示することとしている。

本年度の収蔵品展は、以下の通りである。

### ■平成22年度収蔵品展

4月1日（木）～5月16日（日）

リニューアルオープン記念収蔵品展

New コレ しずおか

～新収蔵品と静岡ゆかりの美術～

5月25日（火）～7月19日（月・祝）

富士山の絵画2010

7月21日（水）～9月12日（日）

親子で楽しむ日本画 水のある風景

9月14日（火）～11月7日（日）

大きい絵 ～大画面の魅力～

－草間彌生、岡田謙三、田中敦子など－

11月9日（火）～1月30日（日）

静物と人物 ～近代から現代まで～

2月1日（火）～3月31日（木）

イマジネーションの彼方へ

－神話・空想・物語の西洋画

### ■出品目録

p.105～ p.107を参照

## 移動美術展

### 川根本町移動美術展

「心にしみる風景—富士山と静岡ゆかりの作家たち」

会場：川根本町文化会館

会期：平成22年11月11日（木）～11月14日（日）

主催：静岡県立美術館、川根本町教育委員会

観覧料：無料

今年度の移動美術展第一弾は、川根本町を会場として開催した。この地の豊かな自然にちなみ、また当館が風景画コレクションに力を注いでいることを踏まえて、“心にしみる風景”をテーマとし、富士山を描いた作品及び静岡ゆかりの作家の作品により構成した。富士山といえば静岡の人々にはなじみ深い山だが、その美しい姿や語り継がれる霊性は、古来画家の心を惹きつけ、作品として結実してきた。本展では、浮世絵、日本画、洋画など多ジャンルに及ぶ富士図を通して、その多様な姿をご覧いただいた。静岡ゆかりの作家としては、県内の出身または居住したことのある近現代の作家を対象とし、北川民次、曾宮一念、中村岳陵、山口源、石田徹也らの作品を紹介した。

紅葉の季節は川根本町の観光最盛期でもあり、静岡の自然とそこに暮らした人々が生み出した豊かな世界を、秋の川根の美しさとともに多くの方にご堪能いただくことができた。

#### 会期中イベント

- ・目と耳で楽しむピアノコンサート  
11月13日（土）、14日（日） 随時
- ・学芸員によるギャラリートーク  
11月13日（土）、14日（日）  
各日11：00～／14：00～

#### ■出品目録

p.108～ p.109を参照



▲チラシ

## 島田市博物館移動美術展

「静岡県立美術館コレクション  
日本絵画の400年～狩野派から現代絵画  
まで～」

会場：島田市博物館

会期：平成23年1月15日（土）～2月27日（日）

主催：静岡県立美術館、島田市博物館

観覧料：300円（20名以上の団体 240円）、  
中学生以下無料

島田市博物館を会場とした移動美術展は平成16年度にも開催実績があるが、通常の移動美術展では保存上の観点から出品が難しい作品も展示可能な施設であるため、出品内容の充実を図ることができ、前回の展示は好評を博した。これを踏まえ、本年再び両館の共同企画として標題展覧会を開催する運びとなったものである。

「狩野派の世界」、「文人画」、「近代の絵画と静岡ゆかりの画家」、「近現代の絵画」の4章仕立てとし、静岡と縁の深い狩野派の名品や、遠州南画の充実を伝える作品群、また北川民次をはじめとする静岡ゆかりの作家の作品など、県立美術館のコレクションから選りすぐりの数々を一堂に展示。江戸初期から近代、現代にいたるまでの多様な作品を通して、今日につながる日本の絵画の伝統とその魅力を再発見していただく機会とした。

本展開催を契機として、最寄り校である静岡大学附属島田中学校において日本画に関する出張美術講座（同校道越教諭との共同授業、計3回）を実施した。今後の継続的な連携活動につながる事業であり、教育普及分野における移動美術展の意義を再認識する機会となった。

### 会期中イベント

- ・博物館講座「静岡の狩野派と文人画」  
2月6日（日）13：30～15：00  
講師 石上充代（静岡県立美術館 主任学芸員）
- ・学芸員によるフロアレクチャー  
1月23日（日）14：00～  
講師 石上充代  
2月20日（日）14：00～  
講師 泰井良（静岡県立美術館 主任学芸員）  
2月23日（水）12：50～13：45  
※静岡大学附属島田中学校を対象とする特別版  
講師 石上充代

### ■出品目録

p.109～ p.111を参照



▲チラシ

## 平成22年度 新収蔵品




当館は、以下に挙げる5項目を収集方針としている。

- ①17世紀以降、日本と西洋で制作された風景画の収集に努める。
- ②ロダンを中心とした内外の近代以降の彫刻作品の収集に努める。
- ③20世紀以降の美術の動向を示す美術作品の収集に努める。
- ④静岡県ゆかりの作家、作品の収集に努める。
- ⑤富士山をモチーフにした作品の収集に努める。

No	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
1	日本画		富士三保松原 図屏風	16世紀中頃 (室町時代)	紙本金地着色、 六曲一双屏風	各137.5× 329.4	はごろも フーズ株式 会社寄贈  富士山と三保松原を組み 合わせて描く屏風作品と しては現存最古の作例。 右隻に白一色の富士、左 隻から右隻にかけ三保松 原を大きく配し、左隻中 央奥に清見寺、左端に清 水湊・木橋のかかる巴川 を描く。 
2	油彩	フランソワ・ ブーシェ	石橋のある風 景		キャンヴァス、 油彩	56.0×80.0	購入 
3	油彩	フランソワ・ ブーシェ	水車のある風 景		キャンヴァス、 油彩	61.0×78.8	購入 
4	油彩	原勝郎	風景	1930 (昭和5)	キャンヴァス、 油彩	73.0×92.0	購入  本作は、1930年のサロン・ デ・ザンデバンダン出品作。 同じく原の作品《バガテ ル公園、パリ》に比べて、 画面はより構成的となっ ているが、色調及びマチ エールは、彼の典型的な 作風に通じるものである。 

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
5	油彩	長岡宏	雑草'81-A	1981 (昭和56)	キャンヴァス、 アクリル	182.3×227.5	長岡宏氏寄贈  作者は、長く静岡大学で教鞭を執った本県在住作家。1970年代から隆盛したスーパーリアリズムの手法にシンメトリーの構図を取り入れ、独自の画風を確立した。
6	版画	ゼバルト・ペー ハム	ヘラクレスの 事績 (12枚組)	1542-48年	紙、エングレー ヴィング		購入  古代ギリシア神話の英雄ヘラクレスに取材した全12枚の連作版画。作者は16世紀ドイツの小型版画の巨匠として知られる。
6-1			ヘラクレスと ケンタウロス			4.9×7.7	
6-2			ヘラクレスと ネメアのライ オン			5.2×7.7	
6-3			ヘラクレスと ヒュドラ			5.2×7.7	
6-4			ヘラクレスと ガザの柱			4.8×7.0	
6-5			ヘラクレスと カクス			4.8×6.9	
6-6			ヘラクレスと アンタイオス			4.7×7.0	
6-7			ヘラクレスと ケルペロス			5.1×7.6	



No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
6-8			ヘラクレスと トロイア人			5.2×7.7	
6-9			ヘラクレスと ネッソス			5.0×7.7	
6-10			ヘラクレスと イオレ			5.1×7.7	
6-11			ネッソスの衣 服をヘラクレ スに届けるリ カス			5.2×7.7	
6-12			ヘラクレスの 死			5.3×7.8	
7	日本画	伊藤若冲ほか諸 家	縮地妙詮帖	1778 (安永7)	跋 画帖一冊	各9.0×9.0	購入
<p>大坂の服部永錫が制作を依頼し蒐集した書画帖で、全59葉から成る。木村兼叟堂はじめ当代きつての人士55名が関与しており、資料的価値も高い。成立時期の早い寄合画帖としても貴重である。</p>							
							
							

■収蔵点数一覧（平成22年度末現在）

購入作品数

（百万円）

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計	
											点数	金額
55						5					5	74
56	14	14	4	7	58		3	1			101	287
57	9	5	3		3	2					22	563
58	10	6	2	1	60		1				80	483
59	3	10			27		2				42	597
60	7	10	2		5		11				35	669
61	4	4	1		16		2				27	240
62	3	6			85		2				96	242
63	5	3			1		7				16	499
元	5	2			3		3		33		46	392
2	2	1		3	43		5		13		67	598
3	1	8	2		268		9				288	675
4	3	4			4		12				23	768
5	5	3	2		68		13			3	94	557
6	8	8	1		27		1			4	49	395
7	4	8	1	1	152						166	397
8	3	2	4							4	13	137
9	5	4	1		2						12	146
10	5	4	1		52						62	120
11	4	3	2		37						46	88
12	1	3	2							1	7	46
13	2	1	1		9		1				14	39
14	3	4	1		9						17	45
15	7	2									9	52
16	3	2			60		1				66	56
17	2				22					7	31	41
18			2				2				4	6
19		1								1	2	30
20	1	1			1						3	13
21	1										1	20
22	1	1			1						3	12
合計	点数	121	120	32	12	1013	7	75	1	46	20	1447
	金額	1,676	2,829	311	68	359	80	2,811	3	8	142	8,287

## 寄贈作品数

(作品数)

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計
55	71					271					342
56		19	1	50							70
57	2	1		10		62	1				76
58	17	8	1	9	176	1					212
59					1						1
60	4	1				6		2			13
61		6		2	16		1	5			30
62	75	1			1			1			78
63	4	1	1								6
元	1	1		3							5
2	1	1	1		2		1		10		16
3	3		1		3		2				9
4	2		2	1	1						6
5											0
6					1						1
7											0
8	3			1	1						5
9	3	5			4						12
10			4		17						21
11		2			1						3
12	1			15						38	54
13		5									5
14	2				6						8
15		1	7								8
16											0
17		3									3
18	9				1						10
19		23									23
20	3	7	1	2	4				1	14	32
21		5			11		3			1	20
22	1	1									2
計	202	91	19	93	246	340	8	8	11	53	1,071

管理換作品数 9 (H23.3.31現在)

## 図書資料の収集・整理

### ■収集

平成22年度の新たな受入により、当館蔵書は82,924冊となった。その累計内訳は、刊行図書37,726冊、美術雑誌20,624冊、美術館等刊行物24,574冊である（データのデジタル化による冊数表記の改定については、平成18年度年報を参照されたい）。

また、各地の美術館等との図書交換（海外含む）により、展覧会図録の収集も継続して進んでいる。

### ■分類・整理

平成22年度に行った作業は、以下のとおりである。

#### ①図書の受入

収集図書を分類表に則って分類した後、コンピューターに入力、配架した。

#### ②分類表の改定

必要に応じて分類表の部分改定を行った。

#### ③誤分類の訂正

分類に誤りのあった受入図書に関しては、データを訂正し、配架場所を改めた。

#### ④定期刊行物の受入

美術雑誌等の定期刊行物に関しても、コンピューターに入力後、配架した。

### ■閲覧

当館には、来館者の図書閲覧利用のため、座席数16席の閲覧室があり、約千冊の美術図書および美術雑誌、当館刊行物等を開架して、自由に閲覧できるようになっている。受付は当館ボランティアが行っている。平成18年度より、閲覧室に2台のパソコンを設置し、デジタル図書データを用いた図書検索ができるようになった。利用者は、閲覧希望図書をパソコンで検索し、申込用紙に必要事項を記入して受付に提示すれば、閉架図書も閲覧可能である。

平成22年度の利用者は3,902人で、昨年度より186人増加した。

## 館蔵品の貸し出し

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
1	高島達四郎	エトルタ	石橋財団ブリヂストン美術館、(財)ひろしま美術館	「セーヌの流れに沿って」展	ブリヂストン美術館 (10/30-12/23)	2010/10/20- 2011/3/9
2	清水登之	セーヌ河畔	石橋財団ブリヂストン美術館、(財)ひろしま美術館	「セーヌの流れに沿って」展	ブリヂストン美術館 (10/30-12/23)	2010/10/20- 2011/3/9
3	ヨーハン・バルトールト・ヨンキント	オンフルール近郊の街道	石橋財団ブリヂストン美術館、(財)ひろしま美術館	「セーヌの流れに沿って」展	ひろしま美術館 (2011/1/3-2/27)	2010/12/24- 2011/3/9
4	高島達四郎	エトルタ	石橋財団ブリヂストン美術館、(財)ひろしま美術館	「セーヌの流れに沿って」展	ひろしま美術館 (2011/1/3-2/27)	2010/10/20- 2011/3/9
5	清水登之	セーヌ河畔	石橋財団ブリヂストン美術館、(財)ひろしま美術館	「セーヌの流れに沿って」展	ひろしま美術館 (2011/1/3-2/27)	2010/10/20- 2011/3/9
6	初期狩野派	四季花鳥図屏風	奈良県立美術館	「海をわたってきた花と鳥～花鳥画を中心に見た中国・朝鮮半島の美術と日本美術」展	奈良県立美術館 (9/28-11/14)	2010/9/18- 2010/11/24
7	石田幽汀	群鶴図	ふくやま美術館、福山市教育委員会	「黄金美術」展	ふくやま美術館 (10/9-11/28)	2010/9/28- 2010/12/10
8	狩野栄信	桐松鳳凰・月夜葡萄図屏風	ふくやま美術館、福山市教育委員会	「黄金美術」展	ふくやま美術館 (10/9-11/28)	2010/9/28- 2010/12/10
9	横山大観	群青富士	ふくやま美術館、福山市教育委員会	「黄金美術」展	ふくやま美術館 (10/9-11/28)	2010/9/28- 2010/12/10
10	平山郁夫	黄河(宵)	奈良県立万葉文化館、平山郁夫美術館、平山郁夫シルクロード美術館	「平山郁夫展」	奈良県立万葉文化館 (4/17-5/30)	2010/4/7- 2010/9/1
11	平山郁夫	黄河(宵)	奈良県立万葉文化館、平山郁夫美術館、平山郁夫シルクロード美術館	「平山郁夫展」	平山郁夫美術館 (6/2-7/14)	2010/4/7- 2010/9/1
12	平山郁夫	黄河(宵)	奈良県立万葉文化館、平山郁夫美術館、平山郁夫シルクロード美術館	「平山郁夫展」	平山郁夫シルクロード美術館 (7/18-8/22)	2010/4/7- 2010/9/1
13	谷文晁	連山春色図	鳥取県立博物館	「揚谷と元旦」	鳥取県立博物館 (5/22-6/20)	2010/5/12- 2010/6/30
14	円山応挙	木賊兎図	鳥取県立博物館	「揚谷と元旦」	鳥取県立博物館 (5/22-6/20)	2010/5/12- 2010/6/30
15	島田元旦	秋江独釣図	鳥取県立博物館	「揚谷と元旦」	鳥取県立博物館 (5/22-6/20)	2010/5/12- 2010/6/30
16	伊藤若冲	樹下鳥獸図屏風	千葉市美術館	「伊藤若冲-アナザーワールド-」展	千葉市美術館 (5/22-6/27)	2010/5/18- 2010/7/16
17	伊藤若冲	花鳥蔬菜図押絵貼屏風	千葉市美術館	「伊藤若冲-アナザーワールド-」展	千葉市美術館 (5/22-6/27)	2010/5/18- 2010/7/16
18	伊藤若冲	白象群獸図	千葉市美術館	「伊藤若冲-アナザーワールド-」展	千葉市美術館 (5/22-6/27)	2010/5/18- 2010/7/16
19	伊藤若冲	雛に双鶏図	千葉市美術館	「伊藤若冲-アナザーワールド-」展	千葉市美術館 (5/22-6/27)	2010/5/18- 2010/7/16
20	平山郁夫	祇園祭	平山郁夫美術館、香川県立ミュージアム	「平山郁夫展 日本の伝統美をたずねて」	香川県立ミュージアム (4/10-5/16)	2010/2/19- 2010/5/26
21	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川	ルーアン美術館	「印象主義の都市：ルーアンのモネ、ピサロ、ゴーギャン」	ルーアン美術館 (6/4-9/26)	2010/5/25- 2010/10/6
22	東山魁夷	秋富士	市川市	「東山魁夷《晩鐘》《光昏》とその時代」	市川市東山魁夷記念館 (10/29-12/5)	2010/10/19- 2010/12/15
23	円山応挙	竹雀図	三井記念美術館	「円山応挙-空間の創造」	三井記念美術館 (10/9-11/28)	2010/9/29- 2010/12/85
24	徳川慶喜	風景	常葉美術館、菊川市、菊川市教育委員会	「初代県知事・関口隆吉展」	常葉美術館 (5/22-7/4)	2010/5/17- 2010/7/14
25	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女	コンプレッソ・デル・ヴィットリアーノ	「ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ：永遠の田園、近代の都市」	コンプレッソ・デル・ヴィットリアーノ (10/8-2011/2/20)	2010/9/28- 2011/2/28

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
26	小谷元彦	SP1'Beginning'(The Whorl of Lanugo 01)	森美術館	「小谷元彦」展	森美術館 (11/27-2011/2/27)	2010/11/17- 2011/3/9
27	小谷元彦	SP1'Beginning'(The Whorl of Lanugo 02)	森美術館	「小谷元彦」展	森美術館 (11/27-2011/2/27)	2010/11/17- 2011/3/9
28	小谷元彦	SP1'Beginning'(The Whorl of Lanugo 03)	森美術館	「小谷元彦」展	森美術館 (11/27-2011/2/27)	2010/11/17- 2011/3/9
29	狩野惟信	富嶽十二ヶ月図巻	和泉市教育委員会、 (財)和泉市文化振興財団	「数の美術-数えて楽しむ 東アジアの美術」展	和泉市久保惣記念美術館 (10/10-11/28)	2010/9/30- 2010/12/8
30	狩野栄信	百猿図	和泉市教育委員会、 (財)和泉市文化振興財団	「数の美術-数えて楽しむ 東アジアの美術」展	和泉市久保惣記念美術館 (10/10-11/28)	2010/9/30- 2010/12/8
31	アレクサン ダー・アー キベンコ	《化粧する女》習作	青森県立美術館、静岡県立 美術館、鳥根県立石見美術 館	「ロボットと美術」展	青森県立美術館 (7/10-8/29)	2010/6/30- 2011/1/20
32	アレクサン ダー・アー キベンコ	《化粧する女》習作	青森県立美術館、静岡県立 美術館、鳥根県立石見美術 館	「ロボットと美術」展	静岡県立美術館 (9/18-11/7)	2010/6/30- 2011/1/20
33	アレクサン ダー・アー キベンコ	《化粧する女》習作	青森県立美術館、静岡県立 美術館、鳥根県立石見美術 館	「ロボットと美術」展	鳥根県立石見美術館 (11/20-2011/1/10)	2010/6/30- 2011/1/20
34	コンスタン ティン・ブ ランクーシ	ポガニー嬢Ⅱ	青森県立美術館、静岡県立 美術館、鳥根県立石見美術 館	「ロボットと美術」展	静岡県立美術館 (9/18-11/7)	2010/9/8- 2010/11/17
35		富士曼荼羅図	滋賀県立近代美術館、NHK 大津放送局、NHKプラネット 近畿	「白洲正子 神と仏、自然 への祈り」展	滋賀県立近代美術館 (10/19-11/21)	2010/10/9- 2010/12/1
36		富士浅間曼荼羅図	愛媛展実行委員会	「白洲正子 神と仏、自然 への祈り」展	愛媛県美術館 (2011/1/29-3/6)	2011/1/19- 2011/5/18
37		富士浅間曼荼羅図	(財)せたがや文化財団、 世田谷美術館、NHK、NHK プロモーション	「白洲正子 神と仏、自然 への祈り」展	世田谷美術館 (2011/3/19-5/8)	2011/1/19- 2011/5/18
38	横山大観	日出処日本	鳥根県立石見美術館	「神々のすがた 古事記と 近代美術」展	鳥根県立石見美術館 (9/17-11/7)	2010/9/7- 2010/11/17
39	鈴木松年	日本武尊・素戔鳴尊	鳥根県立石見美術館	「神々のすがた 古事記と 近代美術」展	鳥根県立石見美術館 (9/17-11/7)	2010/9/7- 2010/11/17
40	平山郁夫	祇園祭	企業文化交流委員会、ホテ ルオークラ東京	「第16回 秘蔵の名品ア ートコレクション展」	ホテルオークラ東京ア スコットホール (8/4-8/29)	2010/7/28- 2010/9/10
41	辻晉堂	東山にて	鳥取県立博物館、読売新聞社、 美術館連絡協議会	「生誕100年 彫刻家 辻 晉堂」展	鳥取県立博物館 (11/27-2011/1/10)	2010/10/27- 2011/4/20
42	辻晉堂	東山にて	神奈川県立近代美術館、読売 新聞社、美術館連絡協議会	「生誕100年 彫刻家 辻 晉堂」展	神奈川県立近代美術館 (2011/1/29-3/27)	2010/10/27- 2011/4/20
43	徳川慶喜	風景	静岡市、静岡市美術館、NHK 静岡放送局、NHKプラネット 中部	「家康と慶喜-徳川家と静 岡」展	静岡市美術館 (12/11-2011/1/30)	2010/12/1- 2011/2/9
44	川村清雄	巨岩海浜図	静岡市、静岡市美術館、NHK 静岡放送局、NHKプラネット 中部	「家康と慶喜-徳川家と静 岡」展	静岡市美術館 (12/11-2011/1/30)	2010/12/1- 2011/2/9
45	川村清雄	波	静岡市、静岡市美術館、NHK 静岡放送局、NHKプラネット 中部	「家康と慶喜-徳川家と静 岡」展	静岡市美術館 (12/11-2011/1/30)	2010/12/1- 2011/2/9
46	川村清雄	海底に遺る日清勇士 の髑髏	静岡市、静岡市美術館、NHK 静岡放送局、NHKプラネット 中部	「家康と慶喜-徳川家と静 岡」展	静岡市美術館 (12/11-2011/1/30)	2010/12/1- 2011/2/9
47	小西真奈	浄土2	神奈川県立近代美術館	「プライマリー・フィール ドⅡ」展	神奈川県立近代美術館 (12/4-2011/1/23)	2010/11/24- 2011/2/2
48	柳澤紀子	水邊の庭Ⅳ	柳澤紀子	「柳澤紀子 夢の地面」展	武蔵野美術大学/gFAL/ FAL (11/18-12/18)	2010/11/10- 2010/12/24

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
49	柳澤紀子	水邊の庭V	柳澤紀子	「柳澤紀子 夢の地面」展	武蔵野美術大学/gFAL/ FAL (11/18-12/18)	2010/11/10- 2010/12/24
50	伝狩野光信	源氏物語図屏風	静岡市、静岡市美術館、NHK 静岡放送局、NHKプラネット 中部	「家康と慶喜－徳川家と静岡」展	静岡市美術館 (12/11-2011/1/30)	2010/12/1- 2011/2/9
51	長沢蘆雪	牡丹孔雀図	MIHO MUSEUM	「長沢芦雪－奇は新なり」 展	MIHO MUSEUM (2011/3/12-6/5)	2011/2/21- 2011/4/6
52	長沢蘆雪	赤壁図屏風	MIHO MUSEUM	「長沢芦雪－奇は新なり」 展	MIHO MUSEUM (2011/3/12-6/5)	2011/2/21- 2011/6/16
53	長沢蘆雪	鶴亀図屏風	MIHO MUSEUM	「長沢芦雪－奇は新なり」 展	MIHO MUSEUM (2011/3/12-6/5)	2011/2/21- 2011/6/16

## 美術作品の補修

### 平成22年度の修復作品

- ・原 勝郎《風景》画面補修、額装改善
- ・石田徹也《市場》パネル補強
- ・秋野不矩《ウダヤギリⅡ》装丁調整
- ・秋野不矩《ブラーミンの家》装丁調整
- ・平山郁夫《楼蘭遺跡全景》収納状態調整

### 彫刻作品の保守点検業務

- 1 彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品のうち、柳原義達《道標・鳩》、佐藤忠良《みどり》、船越保武《杏》の洗浄（陰イオン系洗剤使用）とワックス塗布を行った。この作業は、現在の色調と撥水性を維持し、着色層の劣化と発錆を防止することを目的とする。なお、掛井五郎《蝶》は、作品の特性上陰イオン系洗剤による洗浄のみを実施した。
- 2 彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品の内ジョージ・リッキー作《四つの旋回する斜線菱形Ⅱ》は、グリスを交換した。



## 保存活動

美術作品の保存と公開とを両立させる作品の保全活動は、美術館の持つ重要な機能の一つである。

当館ではIPM（Integrated Pest Management、総合的有害生物管理）と呼ばれる考え方に基づく環境管理を推進していく方針であり、大規模燻蒸に極力頼らず環境の改善によって、有害生物が施設内で問題を生じさせるのを防ごうとしている。この方法は、当館のような環境では、困難な側面を持つ。これは当館が周囲を緑に囲まれており、気候が温暖で、人間にとってのみならず、文化財害虫や菌類にとっても非常に住み心地の良い環境にあるからである。

人間を含む生物全般、そして作品への影響を勘案すれば、薬剤の使用は少ないのが望ましいのだが、IPMという管理方法を、欧米の美術館とは異なる温暖湿潤な環境の美術館にどのようにして実現していくのかを探っているのが、当館の現状である。

作品保全活動に必要なのは、これら有害生物の管理だけではない。

例えば、現在のハロゲンを用いた白熱灯のスポットライトは、いずれ何らかの代替光源に変更される見通しであるが、少なくとも今年度末現在、LEDによる資料への劣化実験結果は公表されておらず、紫外線がほぼ出ていないことが分かっているのみである。また今年度末には、東北大地震が発生し、尊い人命が数多く失われ、文化財もまた被災した。東海東南海地震への備えは、当館にとって喫緊の課題である。

これらについても、必要な対策を講じていく予定である。

### 展示室等殺虫

展示室、荷解室、県民ギャラリー等のピレスロイド（エンペントリン）炭酸製剤による殺虫処理は例年通り行った。当館の場合、展示室や執務室への文化財害虫の侵入を食い止めるよう、幾つかの措置を講じてはいるが、全面的な害虫の遮断は、現状では不可能であり、ここからさらなる収蔵庫への害虫侵入の可能性を考えれば、薬剤使用はやむを得ないと判断されるためである。ピレスロイド（エンペントリン）炭酸製剤には害虫の忌避効果が若干ながら期待出来るのも、この薬剤による殺虫処理を継続している理由である。

虫菌害が発生した場合に備えての燻蒸用薬剤は、殺菌・殺卵仕様の場合には主成分が酸化エチレンの薬品、（商品名エキヒュームS）、殺虫仕様の場合には主成分がフッ化スルフルルの薬品（商品名ヴァイケーン）が適切かと考えている。

収蔵庫等で大規模な虫菌害が発生した場合にも、当該箇所全域を大規模燻蒸することは、極力避ける方針である。特にエキヒュームを用いる場合、資料への吸着が強く、ガスの開放を入念に行う必要があることから、この薬剤の使用を検討する場合には、必要と危険とが十分に勘案されなくてはならない。

ガス燻蒸は個別作品に留め、清掃や環境の改善で可能な限り対応することを目指したい。

### 環境調査、環境改善

有害生物管理には、環境の調査が非常に重要である。

当館では平成12（2000）年度より外部の委託業者による施設の環境調査を、年3～4回行ってきた。今年度は調査回数は3回に絞り、調査項目を害虫の生息状況、そしてヒノキチオールや酢酸、ギ酸の測定とした。

環境改善として、屋外に通じるドアや、展示室とバックヤードをつなぐドア等、館内各所にブラシヤスパーサーを追加した。これまでは搬入口シャッターやエントランス等にものみ設置し、歩行性害虫の侵入阻止を期待していたものだが、建物内部での移動阻止と、展示室の気密向上も併せて意図している。

1994年に開館したロダン館は、屋根のガラス目地やキール部分の劣化が進んでおり、台風等の強風を伴う強い雨の際、雨漏りが観察されることがあるようになってしまっている。作品の保全に悪いことは当然であり、今後の改修を実施したい。

### 普及活動

環境維持のためには、施設に携わる者全員の参加が欠かせない。環境をチェックする目が多い程、より多くの情報を集積することが出来るからである。館内職員に対しては、研修等の機会に保存活動への協力を呼び掛けている。また博物館実習の中に「作品の保全について」や「収蔵庫内実習」を組み込むことで、当館の環境保全への努力について、美術館外部にも理解を求める試みが行われている。

### 収蔵庫改修

収蔵品が増加するにつれ、収蔵庫のスペースは少なくなり、環境の維持は難しくなりつつある。ラックに適切に配置出来ない作品が、箱に入って壁面に立てかけられることで、空気の流れが悪くなり、空気環境は悪化する。

今年度は額装作品用の絵画ラック、屏風ラックを改修し、同一スペースの収納可能点数を増加させた。こ

れにより、作品の保管状況は大幅に向上した。

この改修によって空気の流れは変わっているはずであり、今後は不適切な淀みや温湿度分布の不均一が生じないように、留意する必要がある。

### 主な保存活動の経過

- 5月20日（木）  
    ブンガノン殺虫実施
- 8月30日（月）  
    外部業者環境調査第1回目
- 9月21日（火）、22日（水）  
    プロムナード彫刻メンテナンス
- 11月29日（月）  
    外部業者環境調査第2回目
- 12月25日（土）  
    収蔵庫改修作業準備のため、作品の一時保管場所候補となるエリアの温湿度安定化の対策に着手
- 1月27日（木）  
    収蔵庫工事前に、第2、3収蔵庫空気環境調査。アンモニア、酢酸、ギ酸、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒドを調査
- 2月6日（日）～8日（火）  
    本館収蔵庫改修に伴う作品移動
- 2月11日（金）  
    本館収蔵庫改修開始
- 2月21日（月）  
    館内各所のドアスパーサー設置開始
- 3月11日（金）  
    東日本大震災発生、静岡県中部は震度4との速報
- 3月14日（月）  
    外部業者環境調査第3回目
- 3月末日  
    本館収蔵庫改修工事終了、作品原状復帰

(一般向け)

## ギャラリーツアー

開館時から昨年度まで行われてきた展示作品の解説活動「ギャラリートーク」を、ボランティアを新体制で再スタートさせるのを機に、今年度より対話形式の「ギャラリーツアー」へと変更した。

### 1. 「ギャラリーツアー」の定義

作品を前にして対話をしながら展示室を案内する。来館者に静岡県立美術館のコレクションの魅力を伝えるとともに、美術作品を鑑賞することのおもしろさや楽しさを分かち合う。

### 2. ボランティア 展示室グループ・ギャラリーツアー班の役割

収蔵品展、ロダン館のギャラリーツアーのガイドを行う。

話し手が作品を解説する従来のギャラリートークのスタイルから、双方向的に対話しながら鑑賞するスタイルへ変更。作品の魅力を「伝える」のではなく「分かち合う」ことを目的とする。

### 3. ギャラリーツアー登録ボランティア

11名(22年度4月現在)

### 4. 勉強会・実施日

月例活動日：第1水曜日(13:30~15:30)

第3土曜日(13:30~16:30)

企画展開幕後の最初の休館日：学芸員による研修

### 5. ギャラリーツアー本番までの流れ

- ①作品の画像をスクリーンに投影しながら、ボランティア同士でディスカッションを行う。
- ②展覧会開幕後、展示室で実作品を前にボランティア同士でディスカッションを行う。
- ③学芸員による研修会に参加
- ④ツアーで取り上げる作品について、各自自主学習を行う。
- ⑤模擬ツアー(予行演習)
- ⑥本番ツアー

### 6. 22年度 ギャラリーツアー実施実績

(参加者来館者 計194名)

7月17日「富士山の絵画2010」(6名)

8月21日「親子で楽しむ日本画 水のある風景」(10名)

7月17日、8月21日 ロダン館 夏のギャラリーツアー(64名)

10月16日「大きい絵~大画面の魅力」(7名)

12月4、11、19日「出会えます あなたの愛する風景」(41名)

12月18日、1月15日「静物と人物 ~近代から現代まで」(12名)

2月19日、3月19日「イマジネーションの彼方へー 神話・空想・物語の西洋画」(44名)

2月19日、3月19日 ロダン館 冬のギャラリーツアー(10名)

## 実技・鑑賞講座

### ■技法セミナー

技法セミナーは、第一線で活躍するアーティストや芸術分野を支える専門家に実技指導や講座を依頼して、来館者の参加のみならず当館学芸員の研修にも資することを目的としている。

#### 〈伊藤若冲－アナザーワールド－展〉関連普及事業 「日本画修理体感週間」

株墨仁堂との連携により、当館収蔵品《今昔ものがたり 伊勢図》(松岡映丘)の修理を一般来館者に公開し、装こう師の技と修理の最先端を間近で見学できるよう企画した。

日 時：4月6日(火)～17日(土)

講 師：株墨仁堂

場 所：当館実技室

参加者：2,186名



#### 「古文書補修講座」

古文書に空いた穴などを補修する方法を学ぶ講座。紙の種類や原料、接着に使う糊の作り方などの講義を聞いたあと、紙本の修復を行った。

日 時：4月10日(土)

講 師：株墨仁堂

場 所：当館講座室

参加者：38名

#### 「ミニチュア屏風をつくろう」

屏風の構造や歴史について講義を受けたあと、六曲一双屏風のミニチュアを製作(紙兆番)した。

日 時：4月17日(土)

講 師：株墨仁堂

場 所：当館講座室

参加者：14名

#### 「下貼紙解体実習」

当館収蔵品である《武蔵野図屏風》の骨部についていた下貼紙をはがす実習であった。本物の屏風に触れられ、史的資料の価値があるかもしれない下貼紙を手にとることができることであって応募だけでなく、見学者も多かった。

日 時：4月18日(日)

講 師：株墨仁堂

場 所：当館実技室

参加者：6名



### ■実技講座

実技講座は①鑑賞することで表現を豊かにし、制作することで観る目を養う②講師の作品に対する想いを聞き、様々な作品を鑑賞することで制作する楽しみを深めることをめざし、展覧会に合わせ実施している。

#### 〈トリノ・エジプト展〉関連普及事業

##### 「ヒエログリフを石に彫る！」

当館オリジナルのヒエログリフ五十音対照表を作成(監修：村治笙子氏(古代エジプト文字研究家))し、参加者が氏名や好きな言葉を珪藻土レンガ(エジプトに多い石灰岩に近い質感)にニードル等で彫るという内容で行った。古代文字への興味と展覧会の人気に後押しされ、講座自体も好評をえた。

日 時：7月30日(金)

監 修：村治笙子(古代エジプト文字研究家)

場 所：当館実技室  
参加者数：120名



〈ロボットと美術展〉関連普及事業  
「マンモスロボットと美術10」

展覧会共催企業より、子供向けの可動ロボット組み立てキットを提供してもらい、それを組み立てた上でミニチュアの街を闊歩させる講座であった。

日 時：10月2日（土）  
協 力：㈱タミヤ  
場 所：当館実技室  
参加者：41名

彫刻論「粘土で頭像制作」

彫刻家登坂秀雄氏（静岡市在住）を講師に招き、当館ロダン館を中心に作品解説をしたあと、モデルを観察しながら頭像を制作するというものであった。登坂氏は、当館所蔵《アポロンの首》（エミール＝アントワヌ・ブールデル）が大変優れた作品であることを強調されるとともに、人体の骨格解説や粘土制作の手順など初心者でもわかりやすい丁寧な指導が印象的であった。



日 時：10月16日（土）～17日（日）  
講 師：登坂秀雄（彫刻家）  
場 所：当館実技室  
参加者：10名

日本画「琳派の魅力を探りながら」

日本画家鈴木強氏（静岡市出身）を講師に招き、金箔を作品の要素にした作品作りを学んだ。鈴木氏は琳派に大きく影響を受けており、箔地に動物や植物をコミカルに描いた作品を多数発表している。箔の貼り方一つで作品が大きく変化することを知り、参加者からは感嘆の声があがった。



日 時：3月12日（土）～13日（日）  
講 師：鈴木 強（日本画家）  
場 所：当館実技室  
参加者：21名

## ■実技入門講座

初心者を対象にして、版画（四種類）と日本画を学ぶ講座を用意した。作品の完成度よりも、技法や道具・溶剤の使用法を学ぶことで、一人で制作できる素地を身に付けることを目的にしている。

### 日本画



日 時：5月4日（火・祝）～5日（水・祝）  
講 師：日下 文（日本画家・当館インストラクター）  
場 所：当館実技室  
参加者：15名

### シルクスクリーン



日 時：7月18日（日）～19日（月・祝）  
講 師：北川 純（Tシャツアーティスト）  
場 所：当館実技室  
参加者：25名

### 木版画



日 時：9月18日（土）・19日（日）・26日（日）  
講 師：藤田 泉（版画家・当館インストラクター）  
場 所：当館実技室  
参加者：4名

### リトグラフ



日 時：11月6日（土）・7日（日）・14日（日）  
講 師：柳本一英（版画家・当館インストラクター）  
場 所：当館実技室  
参加者：4名

## 銅版画（メゾチント）



日 時：1月8日（土）～9日（日）  
講 師：柳本一英（版画家・当館インストラクター）  
場 所：当館実技室  
参加者：11名

### ■創作週間

創作週間は高校生以上の個人を対象に、実技室および設備、用具を開放することで、利用者の自主的・自発的な創作活動を支援するものである。

大型プレス機を使い、エッチング、リトグラフ等、自宅ではできない版画に取り組んだり、デッサン、水彩画、日本画といった制作活動を利用者同士アドバイスし合って取り組んだりしていた。

特に利用者が多い日本画、木版画、銅版画については、曜日固定でインストラクターを配し、利用者への指導、相談、助言をお願いした。その結果、微減傾向にあった利用者は、インストラクター在室日を中心に増加してきた。

開室日数：63日  
開室時間：10：00～16：30  
インストラクター：日下 文（日本画家）  
藤田 泉（木版画家）  
柳本一英（銅版画家）  
利用者数：317名



### ■ロダン館デッサン会

ロダン館デッサン会は、当館所蔵のロダン作品を描く機会として、毎月2日間、金・土曜日に実施している。デッサンすることで、普段の鑑賞では気づかなかったロダン彫刻の造形的な魅力を発見し、作品を身近に感じることができる活動として定着している。また本年度は、「ロダン館デッサン会スペシャル」として、素描や鑑賞からレリーフ作品の塑造や石こう取りを行う発展的な講座も開催した。

実施日数：24日  
実施時間：10：00～15：30  
インストラクター：岡村あさ乃  
佐野成美（当館実技室担当）  
参加者数：427名



### ■ロダン館デッサン会スペシャル

ロダン館デッサン会の発展形として、素描や鑑賞をもとに、高さ2メートルほどの《地獄の門》を粘土で作ったり、うさぎをみながら石膏直付け制作を行ったり複数の講座を開催した。

#### 「《地獄の門》を粘土で作る」

日 時：2月11日（金・祝）

インストラクター：当館実技室担当

参加者数：2名

#### 「石膏直付け制作～うさぎを作る」

日 時：2月12日（土）～13日（日）

インストラクター：当館実技室担当

参加者数：10名



### ■ミュージアムコンサート

ロダン館普及事業として、ロダン館内を会場に演奏会やコンサートを行うというものである。

#### ＜ロダンと朗読とピアノの午後＞

日 時：9月13日（月）

演奏者：仲道祐子、奥野晃士、石川萌水

観客数：117名

#### ＜ロダンと朗読とチェロの午後＞

日 時：12月16日（木）

演奏者：大岡 淳、奥野晃士、長谷川陽子

観客数：150名

#### ＜夕暮れロダンツアー＞

高校生（県立清水南高等学校芸術科生徒）のクラシック演奏を聞いた後、学芸員の解説を聞きながらロダン彫刻を観覧した。

日 時：2月5日（土）

演奏者：県立清水南高等学校芸術科音楽専攻7名

観客数：150名

#### ＜ロダン賞コンサート＞

コンテスト優秀演奏者によるコンサートを開催した。

日 時：2月27日（日）

演奏者：沼野朱音、小田裕之

観客数：200名



## (子ども向け)

### 実技・体験

#### ■粘土開放日

粘土開放日は、実技室と実技室にある1tを越える粘土を提供し、親子で楽しく創作活動や粘土あそびをしてもらうプログラムである。

親子で楽しみながら取り組んでもらうようにするため、こちらで細かい指示は出さず、会話も含めて楽しんでもらうことに重点をおいている。

後に記載する美術館教室の粘土教室で来館した園児・児童が、今度は親子で参加しているというケースも多い。リピーターも増加傾向にあるため、毎回配布用具やサンプル作品を変えたり、展覧会内容を紹介したりして、マンネリ化を防止している。新規の参加者は、人づてに聞いて魅力を感じた方、HP、チラシを見た方など、広く周知されるようになってきたことがうかがえる。

今年度は各回80名の定員を設け、これまで以上にのびのびと活動できるようにした。



実施日数：12日（1日3回で36回実施）

実施時間：午前の部① 10：10～11：30

午前の部② 11：30～12：50

午後の部 14：00～15：20

インストラクター：内海健夫（美術作家）

助手：志村将史、吉村友利

場所：当館実技室

参加者数：2,103名

#### ■絵の具開放日

絵の具開放日は、親子で自由に楽しく絵を描いてもらうプログラムで、今年で5年目を迎えた。

基本は屋外で行うプログラム（雨天時は室内でのプログラム）であり、今年度は、屋外で6日（12回）、天候不順により室内で2日（4回）実施した。

屋外のプログラムは広い石畳にハケを使い、体を思い切り動かしながらの制作で、やっているうちに足の裏に絵の具が付き、それがスタンプ遊びになり、さらにはボディペインティングへと発展していった。

室内のプログラムは吊したビニールクロスに絵を描いてもらうようにし、顔をくっつけて輪郭、目、鼻、口を親子で描きあったり、高い所は親に持ち上げてもらって描いたり、描くことは勿論、コミュニケーションを楽しむ姿が見られた。

こちらも美術館教室で来館した子どもの親子連れ、リピーター、新規参加者の内訳等、粘土開放日と同様、長年行ってきた粘土開放日と肩を並べるようなプログラムになってきている。

また粘土開放日と同様、より広々としたスペースで楽しんでもらうこと、安全面等を考え、室内の場合は各回80名程度、屋外の場合は各回150名程度の定員を設けた。

実施日数：8日（午前・午後で16回）

実施時間：午前の部 10：15～12：00

午後の部 13：30～15：15

インストラクター：志村将史（イラストレーター）

助手：吉村友利、岡田友里香

場所：屋外展示テラス（雨天時は当館実技室）

参加者数：1,346名



#### ■工作アトリエ

工作アトリエは、粘土開放日の延長線上に位置づけられるプログラムで、粘土だけでなく、木材、ダンボール、石膏などさまざまな素材を用い、彫刻、立体造形の面白さを発見、体験するプログラムである。

対象は大人から小学生としながらも、親子を中心として企画・開催した。

午前、午後各1回のプログラムで、インストラクターは、教育普及スタッフが順番で務め、年間を通じて参加者募集をしていたので、リピーターが増加したにも関わらず、飽きられることなく充実した活動が保障できた。

実施日数：6日

実施時間：午前の部 10：15～12：15

午後の部 13：15～15：15

インストラクター：当館教育普及スタッフ

助手：吉村友利

場所：当館実技室及び美術館周辺

参加者数：233名

実施日	内 容	人数
4月24日	若冲の絵の中の生き物に変身！	AM 19人
		PM 14人
6月26日	エジプト古代文字を彫る！	AM 38人
		PM 25人
8月7日	ウォーターサプライズ ～お水でビックリ～	AM 29人
		PM 15人
10月30日	ペーパーロボットをつくってジオラマで遊ぼう	AM 29人
		PM 22人
12月4日	冬の景色を楽しもう！	AM 15人
		PM 0人
2月26日	ビニール袋来襲！	AM 23人
		PM 4人
年間6日（計12回実施）		233人



### ■色彩アトリエ

色彩アトリエは、絵の具開放日の延長線上に位置づけられるプログラムで、さまざまな技法体験から色彩の持つ魅力を発見していこうというものである。

対象は工作アトリエと同様、大人から子どもとし、親子を中心とした参加者が多く見られた。

午前、午後同じ内容を実施したにもかかわらず、違った参加者の反応が見られたり、作品にもそれが表れたりとして、参加者は勿論、美術館スタッフもインストラクターも新しい発見があるものになっている。

実施日数：10日（午前・午後で20回）

実施時間：午前の部 10：15～12：15

午後の部 13：30～15：30

インストラクター：持塚三樹（画家）

助手：志村将史

場所：当館実技室及び美術館周辺

参加者数：139名

実施日	内 容	人数
7月3日	なにができるかな？	AM 20人
		PM 21人
9月11日	絵の具をつくろう	AM 20人
		PM 15人
11月27日	たんとぺたぺた	AM 14人
		PM 10人
1月22日	どこでもスクラッチ	AM 8人
		PM 6人
3月5日	でてくるかいが	AM 10人
		PM 15人
年間5日（計10回実施）		139人



### ■色彩アトリエスペシャル

当館所蔵品《樹花鳥獸図屏風》（伊藤若冲）の屏風が特別展示される時期に行うようにしているワークショップで、5回目を迎えた。「升目描き」の一マスを9×9センチの厚紙に置き換えて着色し、約9倍に

拡大するような作業となる。出来上がった作品は、エントランス床面に並べ、約9×6メートルの巨大絵（屏風一扇）となる。とはいえ、絵の具を作った段階で微妙に色が違ったり、グループごとに手法が違ったりと、参加者たちのプレーストーミングが一番の醍醐味かもしれない。



バーで、自主企画のワークショップを創作するイベントである。一般来館者にも飛入りで参加してもらう参加型ワークショップを目指している。今回は、ロダン館内に糸を張って装飾を施すインスタレーションを行った。

日 時：企画日 7月11日（日）  
製作日 8月10日（火）～15日（日）  
公開日 8月15日（日）～29日（日）  
インストラクター：堀切正人（当館上席学芸員）  
場 所：当館実技室、ロダン館  
参加者数：34名



日 時：5月2日（日）、3日（月・祝）  
インストラクター：持塚三樹（画家）  
助 手：志村将史  
場 所：当館実技室、エントランス  
参加者数：52名

#### ■出張実技講座

<トリノ・エジプト展>関連イベントとして、県内三箇所、美術講座とセットで開催した。内容は古代エジプト文字を書いたり、石に彫ったりする実技講座であった。

日 時：7月3日（土）、7月24日（土）、8月7日（土）  
インストラクター：鈴木雅道（当館普及スタッフ）  
場 所：富士市、磐田市、藤枝市  
参加者：71名

#### ■ART！

Art Room for Teen'sの略を名称とした。中学生から大学生までのティーンエイジャーを中心に構成したメン

## 夏休み子どもワークショップ

夏休み子どもワークショップは、小学生を対象に、夏休みという比較的来館しやすい時期を選び、作品や作家との関わりの中で創造・鑑賞の喜びを感じてもらうためのプログラムであり、夏休みに開催される展覧会の関連イベントとして実施している。

今年は〈トリノ・エジプト展〉ということもあり、古代エジプト文字や数々の古代神をモチーフにして工作を行うとともに、最寄駅であるJR草薙駅前商店街に工作物を展示させてもらうなど、地域との連携を実現することができた。

統一タイトルを「エジプトであそびゃーも」とし、さらに三種類のワークショップを開催した。〈草薙商店街を飾るウ～ノ！〉では、商店街の6軒に、エジプト関連の工作物を作って飾らせてもらった。交渉やお礼についても子供達を同行させ、自分達が主体で開催している気持ちになれるよう配慮した。〈ヒエログリフを彫るドウ～エ！〉は、古代エジプト文字の形象と意味を学習した後、珪藻土レンガに彫った。講師に村治笙子氏を迎え、ワークショップや講座でいつも使用するというキットで遊んだあとでレンガに彫る作業を行った。さらに〈ステラをつくってみトウレ♪〉は、古代エジプトの遺跡から多く発見されたステラ（文字と絵の描いてある石板）を石膏で作るワークショップだった。石板に書くのは古代エジプト文字や好きな動物、ひらがななんでもOK。そう言って始めたところほとんどの子供は、古代エジプト文字を熱心に写していた。

### 〈草薙商店街を飾るウ～ノ！〉

日 時：7月31日（土）～8月3日（火）

ファシリテーター：当館普及スタッフ

場 所：当館実技室、草薙商店街

参加者数：8名



### 〈ヒエログリフを彫るドウ～エ！〉

日 時：8月4日（水）

講 師：村治笙子（古代エジプト文字研究家）

場 所：当館実技室、展示室

参加者数：41名



### 〈ステラをつくってみトウレ♪〉

日 時：8月5日（木）～6日（金）

インストラクター：当館普及スタッフ

場 所：当館実技室、展示室

参加者数：19名



### ■ちょこっと体験

「伊藤若冲－アナザーワールド－展」関連イベントとして、金砂子蒔き体験週間を設けた。これまで事前予約制の実技イベントが多い中、誰でも15分程度で作品が完成し、しかも予約不要という内容に挑戦した試行的なイベントである。

日 時：4月11日（日）～16日（金）

場 所：当館実技室前廊下

参加者：76名



#### ■鑑賞講座

鑑賞講座は、子ども鑑賞講座、親子鑑賞講座、鑑賞講座に分かれ、それぞれ子ども、親子、大人を対象とし、展覧会担当の学芸員と展示室での対話を通して作品鑑賞を行っていくプログラムとして開催している。本年度は、4回実施した。

#### <Newコレしずおか展>「親子鑑賞講座」

同展覧会では、収蔵品をメインにし、多種多様なジャンルと形態の作品群を紹介する冒険的な収蔵品展であった。中でも県民ギャラリーには、斬新な現代アート作品を多数展示され、子供達が驚きと関心に沸き立つ姿が見られた。

日 時：5月5日（水・祝）

インストラクター：川谷承子（当館上席学芸員）  
伴野 潤（当館学芸員）  
鈴木雅道（当館学芸課主査）

場 所：県民ギャラリー

参加者数：23名



#### <トリノ・エジプト展>「ファミリー鑑賞会」

夜間開館の時間帯に、夕食と展覧会観覧をセットにした鑑賞講座である。ヒエログリフのクイズラリーをしたり、フロアレクチャーを聞いてもらったり、充実した鑑賞体験の後に、夕食を摂るというメニューが人気であった。

日 時：6月26日（土）、7月10日（土）、8月14日（土）

インストラクター：伴野 潤（当館学芸員）

鈴木雅道（当館学芸課主査）

場 所：当館実技室、展示室

参加者数：97名

#### <2010富士山の絵画展>

##### 「親子で学ぼう 富士山世界遺産」

本県世界遺産推進課との共催事業であった。

日 時：7月18日（日）

講 師：石上充代（当館学芸員）

場 所：展示室

参加者数：45名

#### <水のある風景展>「親子鑑賞講座」

当館収蔵品展（日本画）を親子で楽しんでもらうために、①親が子に対話型鑑賞をするためのガイドブックを作成し、展覧会場で配布。②出品作品に登場する動物や人物を拡大してパネルにし、会場内に釣って演出した。

日 時：9月12日（日）

講 師：石上充代（当館学芸員）

場 所：展示室

参加者数：10名

## ■第2回鑑賞教育指導者研修会

平成21年度に第1回目を開催した。学校連携を目的にした研修会である。第1回は、当館の取り組みやレプリカについて知ってもらうことが目的であったが、本年度は実際に出張美術講座等で連携をした事例を先生方に発表してもらい、今後の可能性や問題点について協議することを目的として開催した。



日 時：12月12日（日）

場 所：当館、静岡県立中央図書館会議室

参加者数：124名

## ■高校生によるギャラリートーク

第2回鑑賞教育指導者研修会にあわせて、高校生によるギャラリートークを実施した。これは一昨年度から実施しているもので、高校生が展示室内で一般来館者に対し、作品の感想や自分なりの見方を紹介・対話するというものであり、学芸員のフロアレクチャーやボランティアによるギャラリートークとは一線を画す。

日 時：12月12日（日）

参加者：36名（浜松学芸高校・浜松江之島高校生徒）

## 学校連携普及事業（美術館教室）

美術館教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象とした教育普及プログラムで、実技や鑑賞、職場体験、総合的な学習の時間における取り組みなど、美術館で実施できるさまざまな学習活動を、学芸員やエデュケーショナルスタッフがお手伝いするものである。

粘土教室、絵の具教室は、県内の保育園、幼稚園、学校に周知されるようになり、年々参加希望団体が増加している。できるかぎり多くの団体に参加していただくため、学年をほぼ同じくする複数の園や学校の合同実施とした。

また、今後の取り組みとして、出張美術講座や授業協力等、美術館と学校との連携に重点をおいた普及を充実させていきたい。

### ■粘土教室

粘土教室は、幼児、児童、生徒を対象に、水粘土を使用し、体感的な活動から創作活動へと繋げていくプログラムである。



インストラクター：志村将史氏（イラストレーター）

助手：吉村友利氏、岡田友里香氏

場所：当館実技室

人数：6,226名

月日	団体名：学年	人数
4月22日	聖母保育園年長・中	55

4月22日	足久保保育園年長	18
	あゆみ第2保育園年長	39
4月27日	わらべ幼稚園年長	26
	有度北保育園年長	33
	広野保育園年長	28
4月28日	隣人会保育園年長	35
	北安東保育園年長・中	49
	リリー幼稚園年中	24
5月11日	有度西保育園年長	25
	矢部保育園年長	24
	由比入山保育園年少・中・長	19
	ふじみ幼稚園年長	76
5月14日	田町幼稚園	102
	サレジオ幼稚園	62
	竜南保育園	32
5月25日	丸子幼稚園年少	28
	静大付属小学校3・4年	83
5月28日	清水三保保育園年長	34
6月15日	麻機幼稚園年長	84
	南部小学校3年	62
6月17日	南幼稚園年中	51
	丸子幼稚園年中	25
	県立静岡視覚特別支援学校小2～6年	14
6月24日	日本平幼稚園年中	89
	清水特別支援学校中学1年	12
6月30日	南幼稚園年中	50
	丸子幼稚園年長	36
	島田市立相賀小学校小3～6年	38
	大谷小学校4年	56
7月6日	清水高部幼稚園年長	46
	清水船越小学校2年	71
7月7日	千代田小学校2年	99
	清水船越小学校2年	36
	清水入江小学校3年	36
7月8日	かえで幼稚園年少～長	76
	静岡南幼稚園年長	77
7月14日	用宗保育園年長	22
	東新田保育園年長	50
	貴庵寺学園リリー保育園年中・長	74
7月15日	こまどり幼稚園年中	28
	ひばり幼児園年少～長	13
	有度十七夜山保育園年長	33
	清水入江小学校3年	76
7月16日	小百合キンダーホーム年少～長	45

7月16日	下川原保育園年長	38
	南部小学校1年	60
8月17日	中島第2児童クラブ	25
	森下児童クラブ	29
	中島第1児童クラブ	43
	有度第2児童クラブ	56
8月18日	瀬名児童クラブ	18
	袖師児童クラブ	65
	西奈南児童クラブ	77
8月19日	高部児童クラブ	57
	長田児童クラブ	25
	田町児童クラブ	25
	豊田児童クラブ	30
8月20日	足久保児童クラブ	34
	飯田東児童クラブ	40
	服織西児童クラブ	9
	富士てんまっ子児童クラブ	52
	学童館「いいとも」	22
8月24日	城北児童クラブ	79
	新通児童クラブ	24
	番町児童クラブ	57
8月25日	掛川工業高校 後藤先生	1
	蒲原東児童クラブ	26
	興津児童クラブ	51
	大里東児童クラブ	29
	新川児童クラブ	52
8月26日	西奈児童クラブ	67
	服織児童クラブ	30
	井宮第2児童クラブ	27
8月27日	清水手をつなぐ会	20
8月4・5・6日	中央特別支援学校	19
9月14日	東源台小学校1年	75
	東源台小学校5年	67
9月15日	東源台小学校1年	36
	清水有度第2小学校	75
9月16日	聖母幼稚園年長	42
	興津北保育園年長	32
	東源台小学校5年	33
10月1日	清水不二見小学校2年	73
	美和小学校2年	16
	梅ヶ島保育園(親子)	21
	南部特別支援学校	
10月5日	中村町保育園年中・長	91
10月6日	竜南小学校1年	56

10月6日	清水有度第2小学校1年	75
10月7日	賤機南小学校特別支援学級1～6年	20
	瀬名川保育園年長	51
10月8日	竜南小学校1年	57
	さくら幼稚園年長	65
10月14日	賤機中小学校小1～3年	43
10月26日	長沼保育園年長	36
	月影保育園年小～長	50
	あけぼの保育園年長	46
10月28日	蒲原聖母幼稚園年小～長	50
	上土保育園年長	37
	登呂保育園年長	44
11月2日	小黒保育園年中・長	35
	曙保育園年中・長	38
	清水折戸保育園年長	22
	駒越保育園年長	23
11月4日	北沼上小学校1・2年	12
	大谷小学校1年	55
	船原幼稚園年長	64
11月16日	中田小学校2年	82
	ゆりかご保育園年中	13
11月17日	こぐま保育園年小～長	70
	静岡聴覚特別支援学校幼学部3～5年	25
11月18日	中田小学校2年	42
	大谷小学校3年	66
11月24日	パプテスト幼稚園年小～長	31
	若竹幼稚園年長	26
	清水船越小学校4年	75
11月30日	東豊田小学校2年	66
	清水船越小学校4年	37
12月1日	東豊田小学校2年	64
	服織保育園年長	34
	蒲原西部保育園年少～長	26
	有度第二小学校2年	74
2月9日	東源台小学校2年	33
	有度第二小学校2年	82
	静岡南部小学校5年	75
2月22日	麻機幼稚園年中	64
	島田伊久美小学校1～6年	29
2月23日	清水辻保育園年中	35
	リリー幼稚園年少	25
2月24日	中田保育園年長	52
	富士川第2小学校6年	52
2月25日	島田第五小学校社会見学5年	51



3月2日	水落保育園年中～長	71
3月3日	清水小学校3年	69
	東源台小学校2年	66
3月9日	八幡保育園年長	28
3月10日	浜田小学校2年	45
合計人数		6226
合計団体数		138

### ■絵の具教室

絵の具教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象としたプログラムで、対象の発達段階に応じ、少しずつ内容を変えて実施している。

幼稚園・保育園児に対しては、スタンプあそびを中心に、学年が上がるにつれ少しずつ難易度をつけているが、全身を使い、楽しく描くことを重視している。

インストラクター：志村将史（イラストレーター）

助手：吉村友利、奈良 敏

場所：当館実技室、屋外展示テラス

人数：2,064名



月 日	団 体 名 : 学 年	人数
4月20日	田町幼稚園年長	100
4月21日	タンボポ保育園年長・中	45
4月30日	籠上中特別支援学級	9
	美和中特別支援学級	4
	静岡南中特別支援学級	5
	長田西中特別支援学級	3
	賤機中学校特別支援学級	2
	ふたば保育園年長・中	76
5月13日	なかはら幼稚園	29
	西奈幼稚園	33
	ゆりかご保育園	15
	船越小学校	76
6月16日	田町保育園年長	31
	清水飯田東保育園	35
	千代田小学校特別支援学級小1～6年	28
6月18日	月影保育園年中・長	30
	清水有度西保育園年中・長	44
	清水船越小学校3年	39
	清水船越小学校特別支援学級	10
6月22日	日本平幼稚園年長	111
	伝馬町小学校6年	46
6月23日	静岡隣人会保育園年中	33
	清水有度北保育園年中	26
	矢部保育園年長	24
6月29日	江尻幼稚園年長	53
	興津梅花幼稚園年長	50
	清水浜田小学校5・6年	80
7月1日	久能小学校1・2年	20
	ふじみ幼稚園年中	52
	あゆみ第2保育園年長	37
7月9日	麻機幼稚園年長	86
	静岡南幼稚園年長	78
7月13日	清水折戸保育園年長	23
	清水駒越保育園年長	22
	相生保育園年長	17
	大里西小学校特別支援学級小2～6年	9
9月28日	うど東保育園年中・長	61
	サレジオ幼稚園年中	60
9月29日	安倍口小養護1～6年	13
9月30日	清水隣保館保育園年長・中	37
	庵原保育園年長	26
	清水不二見小学校2年	37

10月13日	こまどり幼稚園年長	54
	曙保育園年長・中	39
10月27日	新聞杉の子幼稚園	77
	興津北保育園年長	30
11月25日	若竹幼稚園年長	44
12月2日	わらべ幼稚園年中	34
	若竹幼稚園年小	48
3月1日	麻機幼稚園年中	61
3月8日	丸子幼稚園年少	39
合計人数		2064
団体数		52

### ■音のかけらワークショップ



音のかけらワークショップは、当館収蔵品、金沢健一作《音のかけら》を用いたワークショップである。

今年度は特別支援学校利用のみだったが、当館独自の鑑賞系ワークショップとして、今後さらに利用を呼びかけていきたい。

月 日	団 体 名 : 学 年	人数
7月10日	豊田中学校特別支援学級	23
	南部特別支援学校	10
	中央特別支援学校小2年	34
10月20日	中央特別支援病院内学級小1～中3年	12
10月21日	大里西小特別支援学級小2～6年	9
	中央特別支援学校小3年	18
合計人数		106
団体数		6

### ■ロダン館ななふしぎ

ロダン館ななふしぎは、7枚のカードに書かれたクイズを解き、最後に答え合わせをしながら鑑賞を深め

るプログラムである。

クイズは作品のシルエットやキャプションがヒントになっているため、じっくりと鑑賞することが必要になる。



答え合わせでは、単にそれだけを行うのではなく、鑄造の手法、作品のエピソードなどにも触れるように配慮した。また、時間が取れる団体には《カレーの市民》像を前にして『カレーの市民物語紙芝居』を実演したところ、より感慨深く作品に目をやる子供達の姿が見られた。

月 日	団 体 名 : 学 年	人数
4月9日	城内中学校1年	160
	静大付属小学校3・4年	83
	清水船越小学校6年	140
	清水浜田小学校5・6年	80
8月10日	東源台小学校3・4年	69
	三保第2児童クラブ午後ななふしぎ	50
8月29日	御前崎市立浜岡中学校	19
10月1日	高部東小学校6年	137
10月20日	中央特別支援病院内学級小1～中3	25
11月16日	中田小学校2年	82
11月18日	中田小学校2年	42
2月1日	常葉学園大学生	19
2月2日	富士川市立富士川第二小学校5年	59
2月8日	清水三保第一小学校6年	75
2月25日	島田第五小学校社会見学5年	51
合計人数		1091
団体数		15

### ■美術館の秘密をさぐれ

美術館には多くの来館者が訪れるが、美術館のバックヤードや保存・管理といったハード面を意識してご覧になることはあまりない。作品鑑賞と合わせて館全体を楽しんでいただくための工夫や作品を管理、保護するための工夫が随所にみられる。本プログラムはワークシートを使って、美術館を探検し、そうした工夫を見つけ、最後に解説を行うものである。

月日	団体名：学年	人数
5月12日	菊川西中学校	30
	静岡南中学校2年	6
	袖師中学校2年	10
	清水第2中学校	28
8月11日	双葉中学校2年	2
8月24日	静岡東中学校2年	4
	韮山中学校2年	5
	焼津市立豊田中学校1年	2
11月11日	函南町立東中学校	25
11月24日	観山中2年職場体験	2
	中島中2年職場体験	1
合計人数		115
団体数		11

### ■ロダン館スケッチ・デッサン

学校を対象としたロダン館の彫刻作品をスケッチ、デッサンするもので、これにより作品をじっくり見ることへとつなげている。

月日	団体名：学年	人数
6月4日	加藤学園暁秀高校1年	24
	誠恵高校2・3年	47
	常葉菊川高校美術デザイン科	44
7月18日	熱海市多賀中学校1～3年	15
8月11日	大里中美術部	29
9月9日	常葉菊川高校デザイン科1年	43
	静岡北特別支援学校	11
	藤枝市立中学校特別支援RD・ツアー	13
2月6日	沼津西高校2年	18
	静進情報高等専修学校1～2年	33
3月16日	浜松江之島高校	26
合計人数		303
団体数		11

### ■学校向けギャラリー・ツアー

教育普及活動は、美術館の財産すなわち作品を生かした鑑賞系プログラムの充実に力を入れている。

その一環として、当館ボランティア（ギャラリー・トークグループ学校対応班）の方に協力を求め、学校からの求めに応じ、展示室内で子供達の感想や気付きに耳を傾ける取り組みを行った。

粘土教室や絵の具教室に参加した園・学校にも観覧を呼びかけ、ギャラリー・ツアーを実施した。



月日	団体名：学年	人数
4月13日	静岡大学附属中学校2年	167
4月14日	清水第7中学校	288
	加藤学園暁秀高校1年	164
4月24日	安東中学校1～3年	13
	西豊田小学校5年	183
	浜北西高校2年	180
	籠上中学校	155
5月1日	静岡学園中学校1・2年	155
5月12日	西豊田幼稚園年長	64
6月18日	清水船越小学校6年	140
6月22日	伝馬町小学校6年	46
6月29日	清水浜田小学校5・6年	80
7月6日	静岡南部特別支援学校	15
8月10日	清水第7中学校	21
8月29日	御前崎市立浜岡中学校	19
10月1日	高部東小学校6年	137
	県立川根高校1～3年	220
11月16日	中田小学校2年	82
	長田南中学校	283
	藤枝市立中学校特別支援RD・ツアー	13
11月26日	長田西中学校	209

11月26日	清水船越小学校 4年	37
	三島市立錦田小学校 5年	107
	下田市立下田中学校	90
2月1日	浜松市立可美中学校	132
2月1日	牧之原市立相良中学校	199
2月2日	浜松市立庄内中学校	96
2月5日	常葉中車イス福祉体験	45
2月8日	清水三保第一小学校 6年	75
2月9日	東源台小学校 2年	33
	三島市立向山小学校 6年	127
	三島市立南小学校 6年	94
合計人数		3669
団体数		32

### ■職場体験学習

職場体験学習は、今日の少子高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用形態の多様化、あるいはフリーターやニートといった社会問題に対し、しっかりとした勤労観、職業観を身につけ、将来、社会人、職業人として自立できるようにするキャリア教育の一環として実施されている。

当館でも美術館教室・実技プログラムの開催日を中心に受け入れを行った。

主な活動としては、美術館教室での補助活動、ログン館ななふしぎ、美術館の秘密を探れといったプログラムへの参加、ショップやインフォメーション業務の体験などがある。

こうした体験を通して、美術館は単に絵を鑑賞する場所ということにとどまらず、さまざまな活動が行われていること、そこにはいろいろな仕事をする人がいること、また多くの工夫があることを感じ取ってくれていた。

月 日	団 体 名 : 学 年	人数
5月 12・13・14日	静岡南中学校 2年	6
8月5日	双葉中学校 2年	3
8月6日	双葉中学校 2年	2
8月11日	双葉中学校 2年	2
8月 24～26日	静岡東中学校 2年	4
10月29日	富士高校 1年	86
11月 24～26日	観山中 2年	2
	中島中 2年	1
合計人数		106
団体数		8



### ■教員研修

初任者研修や複数年経験者研修、自校で粘土ワークショップ等を指導したい教員を対象として、イベント補助作業や粘土教室の参加・見学を受け入れるとともに、先生方の研究会に参加させていただき講師を務めるなど積極的に取り組んだ。

月 日	団 体 名 : 学 年	人数
4月26日	入江小学校	1
7月27日	科学技術高校	1
7月29日	文化財保護研修	11
8月25日	掛川工業高校 後藤先生	1
11月10日	富士岩松中学校 (出張教員研修会)	22
2月15日	静岡城北高校 柏原先生	1
	北名古屋市長栗島小学校 島野先生	1
合計人数		38
団体数		7

※教員研修会での講師含

### ■出張美術講座

出張美術講座では、美術館職員が学校に出向き、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業（チーム・ティーチング）を行ったり、ログン体操の指導を行った。

また子どもたちのための文化芸術鑑賞推進事業の事前指導のために、同事業参加中学校に赴き、鑑賞マナーや開催展示の見どころ解説などを行った。

特に工事による長期休館期間を出張美術講座重点期間と位置づけ、収蔵品レプリカや教材キットを開発し、実際の講座対応も学芸課全体で取り組むことができた。その周知と学校連携のために、第1回鑑賞指導者研修会を開催し、出張美術講座やレプリカ・教材キットの

紹介から、授業の使用例を掲載した指導案集を作成・配布した。

日 時	学 校 名	人数
4月8日	城内中学校	153
6月15日	静岡大学附属島田中学校	39
6月28日	静岡大学附属島田中学校	225
6月30日	静岡南部特別支援学校	13
7月5日	藤枝市立青島中学校	38
7月9日	美術系進学相談会（グランシップ）高校生	36
8月4日	新居中学校（美術科教員研修講師）	12
8月6日	富士市中学校美術科教員研修講師	9
9月2日	静岡商業高校（展示・インスタレーション指導）	40
9月17日	防火ポスター審査（県庁）	
10月4日	青い海図画コンクール審査（港湾庁舎）	
10月25日	富士市立岩松中学校	70
11月10日	富士市立岩松中学校	35
11月13日	静岡市立長田東小学校	57
11月19日	長田西中学校1年	202
11月24日	城内中学校1年	20
12月1日	富士市立岩松中学校	150
12月8日	長田西中学校2年2組	32
12月13日	長田西中学校2年5・6組	63
12月14日	長田西中学校2年1・4組	62
12月16日	長田西中学校2年3・7組	65
1月6日	富士須津中学校2年	149
1月7日	藤枝大洲中学校	104
	浜松佐久間中学校1～3年	71
	富士川第2中学校2年	70
1月11日	牧之原中学校1年	32
	浜松南陽中学校2年	142
	島田北中学校	47
1月12日	浜松日体中学校	97
	裾野東中学校	139
1月13日	熱海多賀中学校	109
1月14日	富士元吉原中学校	61
	下田稲穂中学校	55
	清水第4中学校	163
1月17日	田子の浦中学校	152
	日大三島中学校	49
1月18日	浜松東陽中学校	93
1月19日	浜松積志中学校萩原分校	64
1月20日	伊東市北中学校	61
	藤枝青島中学校	260

1月21日	富士大淵中学校	134
	浜松舞阪中学校	125
	富士吉原第3中学校	92
1月25日	浜松新津中学校	143
	富士岩松中3年	70
1月28日	富士岩松中3年	105
2月2日	森町立飯田小学校5年	45
2月7日	富士中学校1年	70
2月9日	富士中学校1年	35
2月14日	島田附属中学校1年ウサギワンダーランド	48
2月18日	岩松中学校特別支援	3
3月7日	島田附属中学校1年ウサギワンダーランド	40
3月9日	島田附属中学校1年ウサギワンダーランド	40
3月10日	岩松中学校特別支援	3
3月14日	クラーク高校（地震によるJＲ運休のため中止）	0
3月15日	岩松中学校特別支援（計画停電のため中止）	0
3月17日	進路相談会講演	11
合計人数		4203



さらに教員とともに初期の授業づくりから綿密に打ち合わせた事例や当館収蔵品の移動美術展開催館（佐野美術館、掛川市二の丸美術館）の担当学芸員との合同で出張美術講座を行った事例など、今後に発展させられる取り組みを展開することができた。

#### ■粘土やレプリカ、当館資料の貸し出し

児童・生徒を引率して当館に来るには障害があるが、当館の普及事業を自らの手で実践したいという教員のために、粘土やレプリカ、鑄造ビデオ等資料の貸し出しを行った。

粘土貸出（貸出日、学校名）	
5月14日	金谷高校
6月14日	静大附属特別支援学級
6月24日	蒲原しろがね児童館
7月3日	服織児童館
7月9日	エンゼル幼稚園
7月27日	中央特別支援学校
9月3日	清水入江小学校
9月19日	沼津市立静浦小学校
10月8日	高松北小学校
1月26日	サレジオ幼稚園
レプリカ、教材キット貸出（貸出日、学校名）	
6月15日	附属島田中学校
11月13日	富士市立富士中学校
12月1日	富士市立岩松中学校
	富士吉原第3中学校
12月12日	富士宮第三中学校
2月20日	安倍川中学校
資料提供、授業協力（学校名）	
6月10日	金沢21世紀美術館
6月15日	附属島田中学校
7月2日	佐久市川村吾蔵記念館
10月2日	中央特別支援院内学級
10月15日	富士市立岩松中学校
10月23日	青森県立美術館
10月15日	富士宮市立岩松北小学校3年

【館長公約 B】 地域や学校教育との連携を深め、質の高い教育・普及活動を展開します。

【重点目標 2】 講座・講演会等を充実します。

## 講演会

展覧会のテーマ、内容についての理解を深め、鑑賞の視野を広げるために、多様な分野の専門家を招いて講演会を開催した。

### ■特別講演会

開催日	演 題 ・ 内 容	講 師	場 所	参加者数
4月11日	伊藤若冲－アナザーワールド－展 「伊藤若冲の多彩な絵画世界」	小林 忠氏（学習院大学教授 千葉市美術館館長）	講堂	70人
5月8日	伊藤若冲－アナザーワールド－展 「若冲における墨と色」	佐藤康宏氏（東京大学教授）	講堂	149人
6月19日	トリノ・エジプト展 「古代エジプト美術の魅力」	近藤二郎氏（早稲田大学文学学術院教授）	講堂	208人
9月4日	第50回記念 静岡県芸術祭 「しずおか芸術文化トーク」	金子賢治氏（茨城県陶芸美術館館長）、金原宏行氏（常葉美術館館長）、県内留学生2名	講堂	96人
9月20日	ロボットと美術 「機械と生命のあいだ－ロボットの“いのち”をどのように展示する？」	瀬名秀明氏（作家）	講堂	120人
10月27日	県大生美術館セミナー 「私たちはなぜ芸術を必要とするか」	芳賀 徹（当館館長）	講堂	100人
11月21日	あなたの愛する風景展トークイベント	北井一夫氏（写真家） 下田賢司氏（コレクター）	展示室	30人
2月12日	ギター・コレクション展 「ハリケーンから守られた日本絵画ギター・コレクション」	小林 忠氏（学習院大学教授 千葉市美術館館長）	講堂	80人

## 美術講座

収蔵品の特色や展覧会のテーマ等への理解をはかり、美術に対する関心を高めるため、当館学芸員による講座を開催した。

### ■美術講座

開催日	演題・内容	講師	場所	参加者数
4月17日	伊藤若冲-アナザーワールド-展 「若冲水墨画の魅力」	福士雄也（当館学芸員）	講堂	117人
7月3日 7月24日 8月7日	トリノ・エジプト展「出張美術講座」 （富士市・磐田市・藤枝市）	新田建史（当館学芸員）	富士市富士北ま ちづくりセン ター・藤枝市青 島北公民館・磐 田市南御厨公民 館	77人
7月18日	富士山の絵画2010 「親子で学ぼう 富士山世界遺産」	飯田 真（当館学芸課長）	講座室	45人
7月29日	「文化財の保存について」	新田建史（当館学芸員）	講座室	9人
7月30日	トリノ・エジプト展 「トリノ・エジプト展について」	新田建史（当館学芸員）	講座室	120人
11月27日	あなたの愛する風景 「フランソワ・ブーシェと悦楽の風景」	小針由紀隆（当館学芸部長）	講座室	20人

### ■鑑賞講座

親子やファミリーを対象にした鑑賞講座。要申し込み。

開催日	演題・内容	講師	場所	参加者数
5月5日	New コレ しずおか 「親子鑑賞講座」	川谷承子（当館学芸員） 伴野 潤（当館学芸課主査）	展示室	23人
6月26日 7月10日 8月14日	トリノ・エジプト展関連イベント 「ファミリー鑑賞会」	新田建史（当館学芸員） 鈴木雅道（当館学芸課主査） 伴野 潤（当館学芸課主査）	展示室	97人
7月18日	富士山の絵画2010 「親子で学ぼう 富士山世界遺産」	石上充代（当館学芸員）	展示室	45人
9月12日	水のある風景 「親子鑑賞講座」	石上充代（当館学芸員） 伴野 潤（当館学芸課主査）	展示室	10人

### ■フロアレクチャー

展示室で展覧会のみどころや代表作品について解説するもの。夜会開館日にあわせ行ったトリノ・エジプト展ギャラリートークは各回好評を博した。申込み不要。

開催日	演題・内容	講師	場所	参加者数
4月1日	「New コレ しずおか」展	飯田 真（当館学芸課長）	展示室	70人
4月18日 4月29日 5月15日	「伊藤若冲-アナザーワールド-展」	福士雄也（当館学芸員）	展示室	35人



4月25日	「New コレ しずおか」展	堀切正人（当館学芸員） 泰井 良（当館学芸員） 川谷承子（当館学芸員）	展示室	20人
5月2日	「New コレ しずおか」展	堀切正人（当館学芸員） 泰井 良（当館学芸員） 川谷承子（当館学芸員）	展示室	20人
6月13日	「富士山の絵画2010」展	飯田 真（当館学芸課長）	展示室	15人
7月3日	夜間開館日にあわせたトリノ・エジプト展ギャラリートーク	新田建史（当館学芸員）	展示室	20人
7月10日	夜間開館日にあわせたトリノ・エジプト展ギャラリートーク	新田建史（当館学芸員）	展示室	52人
7月17日	夜間開館日にあわせたトリノ・エジプト展ギャラリートーク	新田建史（当館学芸員）	展示室	49人
7月24日	夜間開館日にあわせたトリノ・エジプト展ギャラリートーク	新田建史（当館学芸員）	展示室	51人
7月31日	夜間開館日にあわせたトリノ・エジプト展ギャラリートーク	新田建史（当館学芸員）	展示室	55人
8月7日	夜間開館日にあわせたトリノ・エジプト展ギャラリートーク	新田建史（当館学芸員）	展示室	52人
8月10日	「トリノ・エジプト展」	新田建史（当館学芸員）	展示室	47人
8月31日	「第50回記念 静岡県芸術祭」	審査員、小針由起隆（当館学芸部長）	展示室	86人
9月12日	「水のある風景」展	石上充代（当館学芸員）	展示室	15人
9月18日	「ロボットと美術」展	村上 敬（当館学芸員） 高橋智隆（ロボットクリエイター）	展示室	120人
10月20日	「大きい絵」展	堀切正人（当館学芸員）	展示室	10人
10月31日	「ロボットと美術」展	村上 敬（当館学芸員）	展示室	20人
11月28日	「あなたの愛する風景」展	石上充代（当館学芸員） 泰井 良（当館学芸員）	展示室	23人
12月5日	「あなたの愛する風景」展	南 美幸（当館学芸員）	展示室	10人
12月12日	「あなたの愛する風景」展	小針由起隆（当館学芸部長）	展示室	30人
1月9日	「静物と人物」展	泰井 良（当館学芸員）	展示室	10人
2月20日	「ギター・コレクション展」	飯田 真（当館学芸課長）	展示室	40人
2月23日	富士三保松原図屏風	飯田 真（当館学芸課長）	展示室	20人
3月6日	「イメージーションの彼方へ」展	南 美幸（当館学芸員）	展示室	7人
3月13日	「ギター・コレクション展」	飯田 真（当館学芸課長）	展示室	40人

### ■講演会シリーズ

「風景」を考える

開催日	演 題 ・ 内 容	講 師	場 所	参加者数
11月23日	桃源郷の詩と絵画	芳賀 徹（当館館長）	講堂	112人

### ■日本画をじかに見る

当館所蔵の日本画作品を、ケースに入れず、直接鑑賞していただくもの。要申し込み。

開催日	演 題 ・ 内 容	講 師	場 所	参加者数
3月20日	日本画をじかに見る	飯田 真（当館学芸課長） 石上充代（当館学芸員）	講座室	45人

### ■移動美術展の講座等

移動美術展会場にて作品を解説するもの。申し込み不要。

開催日	演 題 ・ 内 容	講 師	場 所	参加者数
2月6日	博物館講座「静岡の狩野派と文人画」とフロアレクチャー	石上充代（当館学芸員）	展示室	40人
2月20日	県立美術館コレクション日本画の400年（島田市博物館）	泰井 良（当館学芸員）	展示室	20人
2月23日	フロアレクチャー特別版（島田市博物館）	石上充代（当館学芸員）	展示室	44人

### ■出張美術講座

美術館職員が学校に出向き、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業を行ったり、ロダン体操の指導や教員向けの研修会講師を行うなどした。また、こどもたちのための文化芸術鑑賞推進事業（静岡県主催）の事前学習のため、学芸員が中学校に赴き、美術講座を実施した。年間45回、4,204人。

## 対外活動

館職員の対外活動（講演会・講座など）について記載する。

### <講演会>

小針由紀隆：「MUSEUMと文化」レクチャー

【静岡県立大学】 5/14

「イタリア美術探訪」

【佐野美術館研修講座】 8/5

「20世紀フランス美術と伝統」

【浜松市美術館】 9/23

「世界の文化遺産・イタリアの広場」

【静岡県立大学講義】 12/9

「ウルビーノ公フェデリーコ・ダ・モン

テフェルトロの宮廷芸術をめぐって」

【楢田堂講座Ⅱ・静岡県立大学】 1/10

飯田 真：「富士山の美術」

【沼津市明治史料館】 8/28

「富士山と美術」（富士宮市民カレッジ）

【富士宮市役所】 10/27

南 美幸：静岡県立清水南高等学校講演会 7/12

堀切正人：浜名教育会図工美術研修会 講演

【浜松市立新居中学校】 8/4

「やっぱり彫刻が好き」講演

【アートスペース「路地と人」】 10/17

「画家 宮芳平 柏崎でのあゆみ」講演

【柏崎ふるさと人物館】 11/27

「常葉学園大学造形学部卒業制作展 記

念講演会」講演 2/17

鈴木雅道：富士市中学校美術科教員研修講演

8/6

泰井 良：「前田守一と版画」

【フェルケール博物館】 3/12

石上 充代：「静岡の狩野派と文人画」

【島田市博物館】 2/6

福士雄也：「若沖の水墨画」

【NHK文化センター西宮ガーデンズ教

室】 12/17

「静岡県立美術館の活動－その特色と実

際」

【大阪国際大学】 1/12

### <講座等>

小針由紀隆：出張美術講座

【日体浜松中学校】 1/12

飯田 真：出張美術講座

【藤枝市立青島中学校】 1/20

南 美幸：出張美術講座

【長田西中学校】 11/19

【富士元吉原中学校】 1/14

堀切正人：出張ロダン体操

【静岡市立城内中学校】 4/8

職場インタビュー対応

【常葉学園中学校】 7/2

テレビ番組「Nonfix」石田徹也特番への

対応、指導 7/8

学校団体授業

【浜松市立丸塚中学校】 8/3

文化祭イベント展示指導

【静岡商業】 9/2

出張ロダン体操

【静岡市立長田東小学校】 11/13

出張美術講座

【静岡市立城内中学校】 11/24

【静岡市立長田西中学校】

12/8、13、14、16

【藤枝市立大洲中学校】 1/7

【裾野市立裾野東中学校】 1/12

【静岡市立清水第4中学校】 1/14

【浜松市立舞阪中学校】 1/21

【富士市立岩松中学校】 1/25、28

スタディコミュニティ「リディラバ」

訪問対応 3/5

伴野 潤：出張美術講座

【静岡南部特別支援学校】 6/30

【富士市立岩松中学校】 10/25、11/10

【長田西中学校】 11/19

【富士須津中学校】 1/6

【富士川第2中学校】 1/7

【島田北中学校】 1/11

【富士中学校】 2/7、9

青い海図画コンクール審査

【港湾庁舎】 10/4

新田建史：「美術館の文化財保存修復作業につい

て」講義

【平成22年度文化財体験講座・静岡県教

育委員会主催】 7/29、30

出張実技講座「トリノ・エジプト展」

関連イベント<トリノ・エジプト展を

観る！>（富士市・磐田市・藤枝市）

7/3、24、8/7

鈴木雅道：出張実技講座  
「トリノ・エジプト展」関連イベント  
<エジプト古代文字を石に彫る> (富士市・磐田市・藤枝市) 7/3、24、8/7  
出張美術講座  
【静岡大学附属島田中学校】 6/15、28  
【藤枝市立青島中学校】 7/5  
【富士市立岩松中学校】  
10/25、11/10、12/1  
【浜松市立佐久間中学校】 1/7  
【牧之原市立牧之原中学校】 1/11  
【熱海市立多賀中学校】 1/13  
【下田市立稲穂中学校】 1/14  
【浜松市立積志中学校萩原分校】 1/19  
【伊東市立北中学校】 1/20  
【富士市立大淵中学校】 1/21  
【浜松市立新津中学校】 1/25  
【森町立飯田小学校】 2/2  
【富士市立富士中学校】 2/7  
【富士市立岩松中学校】 2/18、3/10  
美術・デザイン・映像・アニメ・漫画・  
芸術学進学相談会キャリア講座  
7/9 (静岡市)、3/17 (浜松市)  
富士市教育研究会 8/6  
防火ポスター審査【県庁】 9/17  
静岡県博物館協会「地域と博物館」  
シンポジウム発表・パネラー 12/11

川谷承子：美術系進学相談会  
【グランシップ】 7/9

村上敬：出張美術講座  
【浜松南陽中学校】 1/11

泰井良：出張美術講座  
【日大三島中学校】 1/17  
島田移動美術展フロアレクチャー  
2/20

石上充代：川根本町移動美術展フロアレクチャー  
11/13、14  
島田移動美術展フロアレクチャー  
1/23、2/23  
出張美術講座  
【藤枝市立青島中学校】 7/5  
【田子の浦中学校】 1/17  
【浜松東陽中学校】 1/18  
【富士吉原第3中学校】 1/21  
【富士市立富士中学校】 2/9

【静岡大学教育学部附属島田中学校】  
2/14、3/7、9

#### <美術館友の会事業への協力>

(講座講師)

飯田真・石上充代：

「講座：日本画をじかに見る」3/20

(研修旅行同行)

石上充代：「根津美術館・森美術館日帰り旅行」  
5/12

飯田真：「山梨日帰り旅行」11/11

#### <静岡県博物館協会>

当館は同協会の事務局を務め、協会加盟館の協力のもとに以下の事業を行った。

1 役員会・総会の開催 5月28日 (県立美術館)

2 研修会・講習会の実施

(1) 第1回講習会「やって良いこと、悪いことー博物館職員の行動規範ー」

日時：平成22年10月8日(金) 13:30~16:00

会場：浜松市美術館講座室 参加者数：26名

内容：「博物館の倫理規定 (Code of Ethics)」をテーマとして、ワークショップ形式で実施。講師が3つの事例を提示し、グループに分かれた参加者がそれについて議論を行った。

講師：佐々木秀彦氏 (東京都美術館 交流担当係長 学芸員)

(2) 第2回講習会 シンポジウム「まちと博物館ー地域と博物館の連携について考えるー」

日時：平成22年12月11日(土) 13:15~16:30

会場：常葉学園大学 1号館4階 たちばなホール

主催：常葉学園大学・静岡県博物館協会

後援：静岡県教育委員会・静岡市教育委員会・静岡商工会議所・伊豆屋伝八文化振興財団

協力：静岡大学生涯学習教育研究センター・静岡県文化財保存協会・静岡歴博の会

参加者数：100名余

内容：

第1部 地域と博物館

発表Ⅰ 「博物館と地域との連携」に関わる今日的課題

発表Ⅱ エコミュージアムとまると博物館の歩み

第2部 学校と博物館

発表Ⅲ 博物館と地域における生涯学習

発表Ⅳ 静岡県立美術館と学校

第3部 パネル討議

パネリスト（発表者）

日比野秀男、里見親幸、加見光生、鈴木雅道

(3) 第3回講習会 「博物館園のリニューアル」

日時：平成23年3月4日（金） 13：30～16：30

会場：大岡信ことば館 大会議室

内容：

事例発表Ⅰ 三島市郷土資料館リニューアル計画

事例発表Ⅱ 静岡市美術館新規開館

事例発表Ⅲ 静岡市立登呂博物館リニューアル

講演「新潟市美術館の評価と改革について」

金山喜昭氏（法政大学キャリアデザイン学部教授）

3 地域セミナーの開催

・富士市立博物館

「富士山ネットワーク加盟各園の案内マップの作成」

・フェルケール博物館

「特別展「近代を彩った鹿児島美術家たち－鹿児島市立美術館コレクション－」10月9日～11月14日

4 講演会等の共催・後援

（後援）

「第8回 文化財を守る」

日時：平成22年10月9日（土）

主催：財団法人伊豆屋伝八文化振興財団

会場：静岡市井川生涯学習交流館

「第2回 鑑賞指導者研修会」

日時：平成22年12月12日（日）

主催：静岡県立美術館

会場：静岡県立図書館、静岡県立美術館

5 静岡県博物館協会会報（No.65・No.66）の発行

6 静岡県博物館協会研究紀要 第34号の刊行

7 静岡県博物館協会ホームページの保守・運営

8 東海地区博物館連絡協議会総会への参加

日時：平成22年7月16日（金）

場所：横浜情報文化センター

9 広報及び情報交換

随時各館園の情報の交換を行い、連絡協調を図った。

10 事業推進グループによる事業の推進

・事業推進グループ会合 4回開催

7/6、10/8、12/11、3/4

国立西洋美術館美術品評価委員

文科省科学研究費補助金による在外調査

飯田 真：豊橋市美術博物館資料収集委員

静岡市文化財保護審議委員

堀切 正人：磐田市美術作品購入検討委員会委員

浜松市美術館美術資料審査会委員

泰井 良：（財）地域創造・公立美術館活性化事業企

画検討委員会委員

同・公立美術館の「公益性」に関する調

査・研究委員会委員

新潟市美術館の改革と評価に関する委員

会委員

<その他>

小針由紀隆：第50回記念 静岡県芸術祭審査委員

第20回富嶽ビエンナーレ展審査委員

## 美術館ボランティア・広報サポーター

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の1985（昭和60）年から募集と研修を始め、1986（昭和61）年4月の開館と同時に活動を開始した。以来、美術館と観覧者との架け橋となるべく活動を続けている。2009（平成21）年には組織改革と再募集を行い（「静岡県立美術館年報 平成21年度」p.82～p.84を参照）、2010（平成22）4月からは、新体制で活動を再スタートさせた。118名が登録し（平成22年4月1日現在）、次の基本方針のもと、6つのグループに分かれて活動している。

### ■活動目的、方針

美術館ボランティアは、美術館の日々の活動を支え、来館者と美術館、地域と美術館を結ぶ架け橋として活動する。そのために、次の3つの活動方針を定めている。

- (1) 来館者サービス充実
- (2) 美術館運営支援
- (3) 地域連携推進

### ■活動内容、グループ

#### ○全ボランティア共通の業務

当館ボランティアは、それぞれの地域、家庭、職場などで当館の情報を提供したり、宣伝することに務める。美術館の宣伝活動（口コミ）の一翼を担っていただくとともに、美術館と地域とを結びつける役割を果たす。そのために、企画展ごとにその内容を知るためのボランティア研修を行っている。

#### ○各グループの活動

##### ① ご案内グループ

お客様のご案内や図書閲覧室の受付など、来館者対応が主な活動。繁忙期にはエントランスホールにて来館者を出迎え、場所（展示室、実技室、コインロッカーなど）のご案内や、団体客の誘導、身障者補助などを行う。図書閲覧室では、利用者の請求に応じて閉架図書の出し入れを行う。

##### ② 展示室グループ

###### A 学校班

学校等の団体観覧の際、館内誘導や展示室での子どもたちの話し相手などを行う。これまでは、学校団体の観覧に対して館としては事前の数分程度の解説や注意事項の連絡を行うだけで、その後は、自由観覧してもらうことがほとんどであった。しかしそれでは子ども

が飽きてしまうことが多いので、ボランティアが子どもたちと一緒に展示室をまわり、一緒に観覧することで、子どもたちの見る力を引き出す。

###### B ギャラリーツアー班

一般来館者向けに、ボランティアが展示室内において作品解説を行う。ただし一方的な解説形式は当館学芸員の行う様々な講座があるので、それとは異なり、ボランティアと来館者が会話することによって鑑賞を深めていく対話型の鑑賞形式を行う。

##### ③ タッチツアーグループ

目の不自由な方が彫刻を触って鑑賞するプログラム「タッチ・ツアー」のガイド役を行う。身障者対応や、彫刻鑑賞についての研修を積み、「タッチ・ツアー」の申込みがあった場合に、参集して活動する。

##### ④ 実技室グループ

実技室で行われる様々なイベントの補助を行う。実技室のイベントは、様々な工作のワークショップなど多種多様であり、その画材や材料などの準備と片付けや、イベント終了後の清掃作業等、労務が多い。人手があると業務がはかどるため、ボランティアのマンパワーがたいへん有益となっている。

##### ⑤ 資料整理グループ

美術にまつわる資料整理に関する活動を行う。当館には、全国の美術館、博物館などからポスター、チラシなどが多数寄せられる。また作家からも個展のダイレクトメールが送られてくる。それらは貴重な美術情報であるので、整理、掲示、閲覧し、一般来館者へ情報提供を行う。また終了後のものについても分類、保管し、将来的にはデータベース化を行うことにより貴重なアーカイブを形成することも目指している。この活動も人手のいる作業なので、ボランティアが活躍している。

##### ⑥ 地域連携・草薙ツアーグループ

“地域と美術館を結ぶ”ことを目的として、様々な活動を自ら企画立案、実施する。美術館周辺地域散策「草薙のんびりツアー」や、美術館前庭にある「杉山彦三郎記念茶畑」の手入れの補助を行う。またその茶葉を活用して、「お茶摘み」イベントや、来館者への呈茶サービスなども行う。

## ■規約、ルールなど

館が定めた「設置要綱」「活動要綱」「活動基本ルール」に基づいて、活動している。報酬、旅費などの支給はない。ただしボランティア保険は館がかけている。ボランティアの自己研修と広報活動のために、展覧会は無料で観覧することができる。また企画展ごとにボランティア対象の内覧会を行っている。

## ■組織

各グループごとに担当職員を割り当て、職員がボランティアを監督、協働しつつ活動している。ボランティア自身による自主的な組織化は、今のところ行っていない。よってボランティア会長や代表などは現在、存在しない。

## ■活動頻度

基本的に一人が月2回以上活動することになっており（応募基準）、実際はグループごとに頻度や時間を定めている。

## ■募集、登録、活動期間

美術館は、より多くの方が美術館ボランティアに参加できるようにするため、原則として3年ごとに美術館ボランティアの募集を行う。ただし、美術館ボランティア募集に係る人数、期間、活動内容、資格その他の基準は、そのつど美術館が定め、募集要項に記載する。

- ・現在の活動期間：平成22年4月1日～平成25年3月31日
- ・次回の募集は、平成24年秋ごろを予定。

## ■広報サポーター

平成13年度に発足した広報サポーターは、平成18年度から「地域サポーター」と改称し活動を行ってきたが、平成21年度にボランティアの組織改革が行われたことに伴い、サポーター制度についても見直しを行った。その結果、従来の「地域サポーター」を平成21年度末に一旦解散し、「口コミによる広報活動」をサポーターの主たる役割と位置づけ、平成22年度から名称を「広報サポーター」とし、新たに募集を行った。（平成22年度末時点「広報サポーター」登録者数 91名）

広報サポーターとは、美術館の展覧会や活動にご理解いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター、チラシ、割引券及び当館

のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。

また、同サポーターは、広報活動のため、いち早く展覧会内容を知っていただくことを目的に、当館ボランティア向けに行っている展覧会内覧会に参加できることとしている。

なお、実際の活動状況を把握するため、年に一度「活動アンケート」の提出を義務付けている。

### 1) 「広報サポーター」に登録すると

- ・展覧会ポスターやチラシ、イベント情報等が随時送られてくる
- ・展覧会のボランティア・プレビューに参加できる
- ・広報サポーター証の発行を受ける

### 2) 「広報サポーター」の活動内容

- ・展覧会やイベントの情報をポスター、チラシ、口コミ等で地域や職場に広める
- ・年に一度、活動内容をアンケートの形で報告する

## 友の会活動

### 1 諸会議

#### (1) 理事会

平成22年5月22日(土) 静岡県立美術館 会議室

- ・役員選任等について
- ・平成21年度事業報告、決算報告
- ・平成22年度事業計画、予算案

#### (2) 評議員会

平成22年5月22日(土) 静岡県立美術館 講座室

- ・役員選任等について
- ・平成21年度事業報告、決算報告
- ・平成22年度事業計画、予算案

#### (3) 事業委員会

静岡県立美術館 会議室 12回開催

#### (4) 会報委員会

静岡県立美術館 会議室 24回開催

#### (5) 25周年事業打合せ

静岡県立美術館 講座室 5回開催

### 2 実技講座

#### (1) 実技講座「水墨画に挑戦」

平成22年6月5日(土)～6日(日) 2日間

静岡県立美術館 実技室

講師 久山一枝(新水墨画協会主宰)

参加人数 21名

#### (2) 実技講座「現代アートって何だろう？」

平成23年3月26日(土)～27日(日) 2日間

静岡県立美術館 実技室

講師 鍋田庸男氏

(美学校造詣基礎工房講師 造形作家)

参加人数 11名

### 3 講演会等の開催

#### (1) 「伝統木版画」よもやま話しと摺りの実演

平成22年9月4日(土)

静岡県立美術館 実技室

講師 浦田周杜氏

参加人数 24名

#### (2) 「日本画をじかに見る」

平成23年3月20日(日)

講師 飯田 真氏、石上充代氏

(静岡県立美術館学芸員)

参加人数 23名

### 4 親睦旅行

#### (1) 「根津美術館と六本木ヒルズ」

日帰りバス旅行の旅

平成22年5月12日(水)

参加人数 45名

同行 石上充代(県立美術館主任学芸員)

#### (2) 「足立美術館・出雲大社・石見銀山を巡る」

山陰二泊旅行

平成22年9月28日(火)～30日(木)

参加人数 20名

#### (3) 「平山郁夫シルクロード美術館・

山梨県立美術館へ」日帰りバス旅行の旅

平成22年11月11日(木)

参加人数 44名

同行 飯田 真(県立美術館学芸課長)

### 5 友の会美術館支援事業

#### (1) 各種実技支援事業

### 6 情報資料の作成と提供

#### (1) 友の会だより「プロムナード」発行

・第72号(7月15日発行)

アトリエ訪問 画家・小川佳夫氏

・第73号(12月15日発行)

アトリエ訪問 彫刻家・石上和弘氏

・第74号(4月1日発行)

アトリエ訪問 彫刻家・福元修一氏

(72号・73号 各1,200部 74号 1,100部)

#### (2) 情報の提供

・美術館ニュース「アマリリス」郵送(年4回)

・各種催事の情報提供

・館内掲示板に「友の会からのお知らせ」を提示

### 7 その他の事業

#### (1) 会員勧誘活動

4月・5月 静岡県立美術館 延べ9日間実施

2月5日・6日 島田市博物館 2日間実施



## ■静岡県立美術館友の会会則

制定 昭和61年5月25日

改正 平成14年6月16日

改正 平成20年2月27日

(名称)

第1条 この会は、「静岡県立美術館友の会」(以下「本会」という。)と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、静岡県立美術館内に置く。

(目的)

第3条 本会は、以下を目的として活動する。

- (1) 静岡県立美術館が実施する各種事業への参加を通じて芸術・文化に親しみ、理解を深めながら生活の質を高める。
- (2) 本会が実施する各種事業への参加を通じて会員相互の理解と親睦を深め、地域の芸術・文化振興に貢献する。
- (3) 静岡県立美術館が実施する各種事業において地域社会との架け橋の役割を担い、地域をパートナーとする経営を標榜する県立美術館との協働を行う。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を実施する。

- (1) 展覧会鑑賞プログラム
- (2) 各種講演会・講座・見学会・コンサート・映画会等の開催・後援
- (3) 会員への各種情報提供
- (4) 会員相互交流のためのプログラム
- (5) 静岡県立美術館との事業協働
- (6) 地域住民・団体等との情報交換・事業協働等
- (7) その他必要な事業

(財務)

第5条 本会の経費は、次に掲げるものをもって充てる。

- (1) 会費
- (2) 事業に伴う収入
- (3) その他の収入

(会員の種類及び特典)

第6条 本会の会員は、特別会員、一般会員、学生・シニア会員、及び賛助会員とする。

- (1) 70歳以上の会員は、特別会員、一般会員のほか、学生・シニア会員を選択することができる。
- (2) 学生(高校生・専門学校生・大学生)は、学生・シニア会員とする。

(3) 会員資格の有効期限内における会員種別の変更は、行わない。

2 会員は、所定の方法により本会が別表1に定める特典を受けることができる。

(会員の資格)

第7条 会員とは、本会の目的に賛同し、所定の入会手続きを行って会費を納入した者をいう。

2 会員資格の有効期限は1年間とする。ただし、会員から退会の申し出が無い限り更に1年延長するものとし、その後も同様とする。

(年会費)

第8条 本会の年会費は、別表2のとおりとする。なお、納入された年会費は、理由の如何を問わず、返還しないものとする。

2 各種講座、見学会等に際しては、参加者は必要に応じて別に実費を負担するものとする。

(届出事項)

第9条 会員は、住所、氏名、電話番号、会費引き落とし用口座等の届出事項に変更があった場合は、速やかに事務局に報告し、所定の手続きを行うこととする。

(会員証)

第10条 本会は、会員資格取得者に対し、会員証を発行する。

2 会員は、会員証を第三者に譲渡又は貸与することはできない。

(会員証の紛失、盗難)

第11条 会員は、会員証を紛失又は盗まれたときは、速やかに事務局にとどけざるものとする。

2 本会は、会員証の紛失、盗難その他の事由により生じた会員本人の不利益又は損害については、一切の責任を負わない。

(退会)

第12条 会員は、申し出によりいつでも退会することができる。

2 前項の規定により退会する場合は、会員資格有効期限の2か月前までに事務局へ申し出ることとする。

(事業年度)

第13条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第14条 本会の事業計画及び収支予算は、会長が作成し、その事業年度の開始前に理事会の承認を得なければならない。

- 2 会長は、前項の事業計画又は収支計画を変更しようとするときは、理事会の承認を得なければならない。ただし、軽微な変更については、この限りではない。

(事業報告及び収支決算)

第15条 本会の事業報告、収支決算は、会長が作成し、監事の監査を経て、その事業年度終了後2ヶ月以内に理事会の承認を得なければならない。

(役員)

第16条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 1人
- (3) 理事 (会長及び副会長を含む) 10人以内
- (4) 評議員 15人以内
- (5) 監事 2人

- 2 理事及び監事は、評議員会において選任する。
- 3 会長及び副会長は、理事の互選により定める。
- 4 評議員は、理事会において選任する。
- 5 理事、評議員及び監事は、相互に兼ねることができない。

(役員職務)

- 第17条 会長は、本会を代表し、事業を統括する。
- 2 副会長は、会長を補佐して事業を掌理し、会長に事故あるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。
  - 3 理事は、理事会を構成し、事業の執行を行う。
  - 4 評議員は、評議員会を構成する。
  - 5 監事は、本会の事業及び会計を監査する。

(役員任期)

第18条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(専門委員会)

第19条 必要に応じ、本会の事業に関する具体的な企画等の検討を目的とした専門委員会を置く。

- 2 専門委員会は、理事及び会員によって構成される。

(事務局)

第20条 本会に事務局を置く。

- 2 事務局に事務局長を置くことができる。
- 3 事務局長は、理事の中から会長が任免する。
- 4 事務局に事務職員を置く。

(顧問)

第21条 本会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、理事会の議決を経て、会長が委嘱する。
- 3 顧問は、本会の事業について助言を行うとともに、理事会に出席して意見を述べることができる。

- 4 顧問の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第22条 本会の会議は、理事会及び評議員会とする。

第23条 理事会は、会長、副会長その他の理事をもって構成する。

- 2 評議員会は、評議員をもって構成する。

(会議の権能)

第24条 理事会は、この会則に別に定めるもののほか、本会の運営に関する重要事項を議決する。

- 2 評議員会は、この会則に別に定めるもののほか、会長の諮問に応じて必要な事項を審議するとともに、必要に応じて本会に関する重要事項に関し、会長に建議することができる。
- 3 理事会において第14条、第15条、第32条及び第33条に規定する事項を議決する場合には、あらかじめ評議員会の意見を聴かななければならない。

(会議の開催)

第25条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたととき。
- (2) 理事の4分の1以上または、監事から開催の請求があったとき。

- 2 評議員会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたととき。
- (2) 評議員の4分の1以上から開催の請求があったとき。

(会議の定足数)

第26条 会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開会することができない。

(会議の議長)

第27条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

- 2 評議員会の議長は、その評議員会において出席した評議員のうちから選任する。

(会議の議決)

第28条 会議の議決は、会議に出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(書面の決議等)

第29条 会議に出席できない理事、または評議員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決することができる。この場合において、前2条及び次条第1項第3号規定の適用については、出席した者とみなす。

第30条 会議の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 会議の日時及び場所
  - (2) 構成員の現在数
  - (3) 会議に出席した理事または評議員氏名
  - (4) 議決事項
  - (5) 議決の経過の概要及びその結果
  - (6) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長のほか、会議に出席した構成員のうちから、当該会議において選任された議事録署名人2人以上が署名押印しなければならない。

(賛助会員)

- 第31条 この会の目的に賛同するものは、賛助会員になることができる。
- 2 賛助会費その他賛助会員について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

(会則の変更)

- 第32条 この会の会則は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得なければ、変更することができない。

(解散)

第33条 この会は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得たときに解散する。

- 2 解散のときに残存する残余財産は、理事会の議決によりその用途を定めるものとする。

(雑則)

第34条 この会則に定めるもののほか、会の運営等に関して必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

附 則

この会則は、昭和61年5月25日より効力を生ずる。

附 則

この変更は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この変更は、平成20年2月27日から施行する。
- 2 この変更後の役員は、第16条第2項、第3項及び4項の規定にかかわらず、変更前の役員が選任されるものとする。ただし、その任期は、第18条の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

別表1 (第6条第2項関係) 会員の特典

特典の種類	会員の種類		
	一般会員	学生・シニア会員	特別会員
1 県立美術館主催の企画展招待券5枚	○	○	○
2 会員証提示により、収蔵品展・ロダン館が、何度でも観覧可能	○	○	○ (同伴4名まで)
3 会員証提示により、県立美術館主催の企画展が、何度でも団体料金で観覧可能	○	○	○ (同伴4名まで)
4 友の会だより「プロムナード」(年3回)、美術館ニュース「アマリス」(年3回)、その他、各種情報を郵送	○	○	○
5 研修旅行(美術館巡り)、各種講座等友の会主催の事業に参加可能	○	○	○ (同伴1名まで)
6 会員証提示により、県立美術館内レストラン「エスタ」の飲食料金が会員本人のみ1割引	○	○	○
7 会員証提示により、県立美術館内のブックショップの利用補助	○	○	○
8 県立美術館主催の企画展オープニングセレモニーご招待			○ (同伴1名まで)

(注) ○印は、特典を受けることができることを示す。

別表2 (第8条関係)

会員区分	年会費
一般会員	(1名) 5,000円
学生・シニア会員 (高校生・専門学校生・大学生) (70才以上)	(1名) 2,500円
特別会員	(1口) 10,000円
賛助会員	申し出のあった額

## 広報活動（ホームページ）

静岡県立美術館では、開館以来、ポスター・チラシ配布や、マスコミなどを通じ、広く館活動の広報を行っているが、近年では類似施設の増加、広報手段の多様化に伴い、入館者増加のために新たな広報展開が必要になってきている。

ここでは、紙媒体を中心にした広報活動とともに、新たな広報メディアとして注目されるホームページの運営について記載する。

### <広報活動>

- ・ 展覧会等のイベント情報のマスコミへの資料提供
- ・ ポスター・チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- ・ 学校に対する学校関係イベント情報の提供
- ・ 県広報課との連携（県民だより、県政番組など）
- ・ ラジオ番組出演での広報活動（FM-Hi、FMしみず）
- ・ 広報サポーターへの情報提供  
（展覧会ごとに、ポスター・チラシを送付、口コミでの広報を依頼）
- ・ 展覧会ごとの共催社（新聞社・テレビ局）、協賛社（JR東海）との連携
- ・ 広告掲載・テレビスポット放映、特集紙面、番組への協力など

### <ホームページ>

<http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

静岡県立美術館ホームページは、平成8年度末に開設され、今年度で14年目を迎えた。年度別のアクセス概数は以下のとおりである。

平成8年度末～9年度（1997）	6,000		
平成10年度（1998）	12,000	累計	18,000
平成11年度（1999）	21,000	累計	39,000
平成12年度（2000）	40,000	累計	79,000
平成13年度（2001）	70,200	累計	149,200
平成14年度（2002）	87,300	累計	236,500
平成15年度（2003）	85,000	累計	321,500
平成16年度（2004）	98,000	累計	419,500
平成17年度（2005）	103,500	累計	523,000
平成18年度（2006）	155,400	累計	678,400
平成19年度（2007）	164,500	累計	842,900
平成20年度（2008）	164,000	累計	1,006,900
平成21年度（2009）	147,225	累計	1,154,125
平成22年度（2010）	353,500	累計	1,507,625

アクセス数はインターネットの普及に伴い年々増加してきたが、今年度に入って一気に前年度比2倍の伸びを見せている。

このことは、インターネットの普及率がますます増え、日常的に気軽に利用する人の数が増えていることを示している。情報発信のツールとしてホームページがより一層その重要度を増してきていることは明らかで、今後も引き続き、魅力あるページ作りが必須であると考えられる。

当館では、コンテンツの充実を図ることにより、魅力あるホームページを提供するよう運営に努めており、平成19年度から21年の間の3年間に、順次大幅リニューアルを行った。平成19年度には表紙およびトップページのデザイン、平成20年度にはロダン館コーナー、平成21年度にはコレクション紹介コーナーをリニューアルした。平成22年度末には、ブログを開設した。来館者と美術館とをつなぐ新たなコミュニケーションツールとして、有効に活用していく予定である。

ワークショップ、講演会などの教育普及活動に関する情報をタイムリーに案内するよう努めているほか、混雑が予想されるイベント（絵の具開放日・粘土開放日など）の受付状況を逐次掲載するなど、決め細やかな情報提供に心がけている。

以前より行っているアンケートについては以下のとおり継続実施した。

#### ・ホームページアンケート

ホームページ改善の資料とするため、WEB上でのアンケートを実施、聴取内容は以下のとおりでメールで回答できる形にした。

1. 当ホームページをどのくらいの頻度でご覧になりますか
2. 当ホームページの情報内容について
3. 当ホームページの更新頻度について
4. 当ホームページのデザインについて
5. 当ホームページの見やすさについて
6. その他、当ホームページに対するご意見、ご要望

各項目、概ね満足度は高いが、字の大きさやデザインなど改善の参考になる意見も寄せられた。

なお、回答者の中からほぼ2ヶ月毎に抽選で5名の方に次回企画展の招待券をプレゼントした。

## 美術館ニュース「アマリリス」

いずれもA4版8ページ、オールカラー

### 第97（春）号 2010年4月1日発行

- p. 1 表紙 ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ《エジプトへの逃避》／南 美幸
- p. 2-3 平成21年度新収蔵品・寄贈作品の紹介／堀切正人
- p. 4 伊藤若冲－アナザーワールド－展／福士雄也
- p. 5 トリノ・エジプト展－イタリアが愛した美の遺産－／新田建史
- p. 6-7 研究ノート 「狩野派の世界2009」展余録－戯画としての鍾馗図－／福士雄也
- p. 7 本の窓 中沢新一著『緑の資本論』／川谷承子
- p. 8 美術館問わず語り 掛川二の丸美術館との教育普及連携事業／鈴木雅道

### 第98（夏）号 2010年7月1日発行

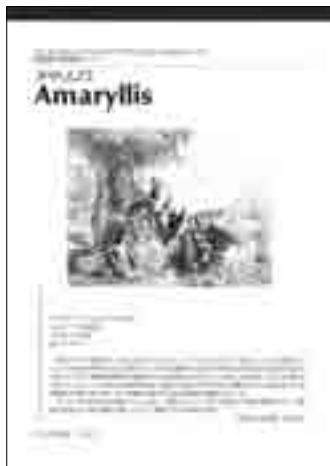
- p. 1 表紙 曾宮一念《自画像》／堀切正人
- p. 2 富士ひとつ埋みのこして－新任の御挨拶－／芳賀 徹
- p. 3 リニューアルオープンしました！／古橋智裕
- p. 4 トリノ・エジプト展－イタリアが愛した美の遺産－／新田建史
- p. 5 第50回記念静岡県芸術祭2010／鈴木雅道  
ロボットと美術～機械×身体のビジュアルイメージ～／村上 敬
- p. 6-7 研究ノート 「不気味の谷」をめぐって／村上 敬
- p. 7 本の窓 ジェフリー・アーチャー著『ゴッホは欺く』／南 美幸
- p. 8 美術館問わず語り 技法セミナー『日本画の修復体感週間』報告／石上充代

### 第99（秋）号 2010年10月1日発行

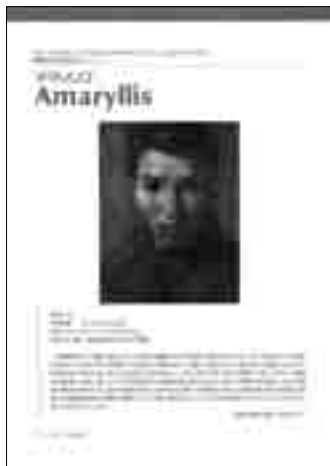
- p. 1 表紙 前田守一《遠近のものさし》／堀切正人
- p. 2 遠くて近かった古代エジプト／芳賀 徹
- p. 3 ボランティア活動のリニューアル／堀切正人
- p. 4 ロボットと美術～機械×身体のビジュアルイメージ～／村上 敬
- p. 5 出会えます。あなたの愛する風景／南 美幸
- p. 6-7 研究ノート 橋本雅邦《三井寺》における先駆性について／石上充代
- p. 7 本の窓 『金沢健一「音のかけら」とワークショップ展（報告書）』／堀切正人
- p. 8 美術館問わず語り 県立美術館と自然／伴野 潤

### 第100（冬）号 2011年1月1日発行

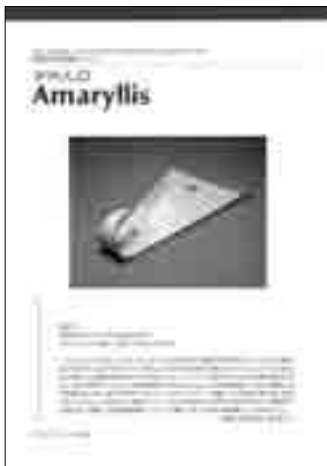
- p. 1 表紙 円山応挙《木賊兎図》／石上充代
- p. 2 『アマリリス』100号の刊行に寄せて／小針由紀隆
- p. 3 実技室だより 新作続々登場！「ART!」、  
「実技入門講座（木版画）」、「実技講座」／鈴木雅道
- p. 4 移動美術展 川根本町、島田市／石上充代
- p. 5 帰ってきた江戸絵画 ニューオーリンズ  
ギッター・コレクション展／飯田 真
- p. 6-7 研究ノート フランソワ・ブーシェの〈洗濯女〉の描写をめぐる－考察／小針由紀隆
- p. 7 本の窓 いせひでこ著『ルリユールおじさん』／新田建史
- p. 8 美術館問わず語り ガンプラプロジェクトに参加して／石川芳弘



第97(春)号



第98(夏)号



第99(秋)号



第100(冬)号

## 新たな広報チャンネルの開拓

若年層が本物の芸術文化に親しむ機会の一層の充実を図るため、県内大学生で組織される任意団体に学生の来館を積極的に働きかけた結果、フリーペーパー誌「静岡時代」に特集として取り上げられた。大学生が美術館の魅力・情報を身近に知る機会を創出できたことで、学生をターゲットにした新たな広報チャンネルが開拓された。

「トリノ・エジプト展」では、共催先のテレビ局へ積極的に働きかけ、近隣県への効果的な広報展開により県外からの来館者を誘致した。「ロボットと美術」展においては、静岡ホビーフェアを主催している静岡市及び静岡市旅館協同組合と連携して共通チラシを作成し、チラシ持参者の相互入場料を割引とするなど、他団体との連携による効果的な広報活動を実施した。静岡ホビーフェア会場内での広報は、展覧会内容に応じた告知が出来たことに加え、県外の多くの来場者に当館の活動と存在を広くアピールする絶好の機会となった。また、今年度からブログによる情報発信を取り入れ、従来のWebサイトとは異なり、不特定多数の人に情報・意見発信ができるなど、新たな広報ツールとして期待できる。

## ロダン館展示・イベント

### ■ミュージアムコンサート

ロダン館普及事業として、ロダン館内を会場にコンサート等を行うものである。

#### 1 ロダンと朗読とピアノの午後 ～初秋の夢のひととき～

財団法人静岡県舞台芸術センター（SPAC）の俳優による夏目漱石の小説『夢十夜』の朗読と、ピアニスト・仲道祐子氏の演奏が競演するイベント。上演後、学芸員によるロダン彫刻の特別解説を行った。

日 時：9月13日（月）

出演者：仲道祐子

奥野晃士（SPAC俳優部）

石井萌水（SPAC俳優部）

演出：大岡 淳（SPAC文芸部）

観客数：117名

#### 2 ロダンと朗読とチェロの午後 ～木枯に真珠の如きまひるかな～

財団法人静岡県舞台芸術センター（SPAC）の俳優による宮澤賢治の小説『セロ弾きのゴーシュ』の朗読と、チェリスト・長谷川陽子氏の演奏が競演するイベント。

日 時：12月16日（木）

出演者：長谷川陽子

奥野晃士（SPAC俳優部）

演出：大岡 淳（SPAC文芸部）

観客数：150名

#### 3 夕暮れロダンツアー

県立清水南高等学校芸術科音楽専攻の生徒によるコンサートの後、学芸員によるロダン彫刻の特別解説と照明を落とし、スポットライトを当てたロダン彫刻の鑑賞を行った。

日 時：2月5日（土）

演奏者：県立清水南高等学校芸術科音楽専攻の学生6名

照明演出：佐藤剛史

観客数：150名

#### 4 ロダン賞コンサート

静岡音楽館AOIとのコラボレーションによる第14回「静岡の名手たち」オーディション合格者、ロダン賞受賞者によるコンサート。

日 時：2月27日（日）

演奏者：沼野朱音

小田裕之

観客数：200名



【館長公約 D】施設の改修を推進し、美術館のアメニティーを高めていきます。

【重点目標 1】館内施設を充実し、満足度を高めます。

## 施設利用状況（年度別）

年度	県民ギャラリー入場者数	講堂入場者数	図書閲覧室利用者数	音声ガイド利用者数	託児室利用者数	
61	93,918	8,005	10,000			
62	95,635	9,911	10,000			
63	112,528	10,346	14,714			
元	98,806	12,474	11,937			
2	101,477	11,432	8,274			
3	91,342	13,755	8,545			
4	109,287	14,442	9,499			
5	95,903	10,927	9,308			
6	108,004	12,060	9,159			
7	73,254	10,717	7,015			
8	109,076	9,487	8,621			
9	87,436	10,615	6,486	4,257		
10	69,099	10,314	6,537	25,624	132	
11	67,159	11,601	6,192	16,773	154	
12	69,553	10,169	5,520	12,619	235	
13	76,882	10,205	5,033	11,210	361	
14	69,974	10,985	4,782	9,659	306	
15	80,499	25,927	4,627	7,544	345	
16	69,209	8,852	4,377	5,970	299	
17	69,357	11,762	4,700	4,904	289	
18	81,657	10,700	5,090	8,891	499	
19	70,217	8,199	5,580	5,253	365	
20	75,238	11,804	5,070	6,189	319	
21	37,253	5,155	3,716	3,677	183	
22	58,211	7,275	3,902	4,504	344	
22年度 月別 内訳	4	0	500	626	500	31
	5	1,540	591	555	544	54
	6	6,012	580	339	470	20
	7	4,895	0	435	705	50
	8	4,867	587	678	918	73
	9	2,552	666	249	318	17
	10	7,106	400	282	293	26
	11	5,924	615	200	156	22
	12	4,832	570	119	114	14
	1	7,558	700	159	135	12
	2	5,136	706	116	140	14
	3	7,789	1,360	144	211	11
	計	2,070,974	277,119	178,684	127,074	3,831



## 県民ギャラリー利用状況

No.	使用開始	使用終了	日数	区分	入料	展覧会等の名称	主催者名	入場者数(人)
1	5/25(火)	6/6(日)	12	A B	無	現代書作家展しずおか	現代書作家展しずおか運営委員会	2,566
2	6/8(火)	6/20(日)	12	A B	無	第37回二科会静岡県支部美術展	二科会静岡県支部	2,330
3	6/22(火)	6/27(日)	6	A B	無	第30回山岳写真の会「白い峰」写真展	山岳写真の会「白い峰」静岡支部	2,225
4	6/29(火)	7/4(日)	6	A B	無	第47回静岡県美術家連盟展	静岡県美術家連盟	1,622
5	7/6(火)	7/19(日)	13	A B	無	第75回静岡県版画協会展	静岡県版画協会	1,744
6	7/22(火)	8/1(日)	12	A B	無	第38回静岡県油彩美術家連盟展	静岡県油彩美術家協会	2,338
7	8/3(火)	8/8(日)	6	A	無	第55回静岡形象派展	形象派美術協会静岡支部	633
8	8/10(火)	8/15(日)	6	A B	無	静岡県写真愛好者秀作展	沖田完治	1,430
9	8/17(火)	8/22(日)	6	A	無	庫流きものギャラリー	三輪民庫	1,188
10	8/17(火)	8/22(日)	6	B	無	第26回千世の会書展	千世の会	1,238
11	9/14(火)	9/20(日)	7	A B	無	第36回静岡県フレミッシュ織展	静岡県フレミッシュ織教室	1,630
12	9/22(火)	9/26(日)	5	A B	無	国展静岡2010展	国展静岡	824
13	9/28(火)	10/11(日)	13	A B	無	ふじのくに米作り展	静岡県教育委員会	1,678
14	10/13(水)	10/17(日)	5	A B	無	第41回独立静岡支部展	独立書人団静岡支部	535
15	10/19(火)	10/24(日)	6	A	無	能面及びデジタルアート展	能面静岡研究会	807
16	10/19(火)	10/24(日)	6	B	無	第19回パソコンアート展示会	パソコンアート協会	889
17	10/26(火)	10/31(日)	6	A B	無	第28回静岡県なつやすみ読書感想画コンクール	静岡新聞社・静岡放送	3,295
18	11/2(火)	11/7(日)	6	A	無	追悼 中條峰雄 回顧展「うるしうるわし漆の世界」	中條良枝	1,420
19	11/2(火)	11/7(日)	6	B	無	静岡墨人三人展	静岡墨人会	873
20	11/9(火)	11/21(日)	12	A B	無	第5回静岡県高等学校美術・工芸展	静岡県教育委員会、静岡県高文連	2,250
21	11/23(火)	12/5(日)	12	A B	無	第36回静岡県工芸美術展	静岡県工芸家協会	2,267
22	12/7(火)	12/12(日)	6	A B	無	第33回静岡県日本画連盟展	静岡県日本画連盟	680
23	12/14(火)	12/19(日)	6	A B	無	第12回滝下千鶴子パッチワーク・パフキルト展	滝下千鶴子	2,750
24	12/21(火)	12/26(日)	6	A B	無	第23回静岡県特別支援学校合同作品展	県高文連特別支援教育専門部	516
25	1/2(日)	1/30(日)	26	A B	有	第20回富嶽ビエンナーレ展	静岡新聞社・静岡放送	7,558
26	2/1(火)	2/13(日)	12	A B	無	第14回静岡県すこやか長寿祭美術展	(財)しずおか健康長寿財団	1,890
27	2/15(火)	2/20(日)	6	A B	無	第30回国際水墨画展	国際水墨画協会	1,112
28	2/22(火)	2/27(日)	6	A	無	駿河家具職人展	静岡木組みの会	1,003
29	2/22(火)	2/27(日)	6	B	無	第29回一基書展	一基会	1,131
30	3/1(火)	3/6(日)	6	A B	無	第32回ジュニア県展	静岡県教育委員会、静岡新聞社・静岡放送	4,253
31	3/8(火)	3/13(日)	6	A B	無	第8回アトリエ・ニケ 子ども造形・デザイン・絵画教室展覧会	大森 恵	955
32	3/15(火)	3/21(月)	7	A B	無	第31回山岳写真の会「白い峰」写真展	山岳写真の会「白い峰」静岡支部	1,445
33	3/23(水)	3/31(木)	8	A B	無	11現代書作家展しずおか	現代書作家展しずおか運営委員会	1,136
計								58,211

## 来館者のアクセス満足度

22年度のアクセス環境の満足度に対するアンケート集計の結果は、自家用車利用者の中で満足と回答した方の比率は72.0%、公共交通機関利用者の中で満足と回答した方の比率は75.8%であった。過去5年間の状況を見ても、概ね2～3割の方が交通アクセスに満足していない、という結果になっている。

このことについて、まず自家用車利用者についての要因だが、企画展ごとの数字を見ると、「あなたの愛する風景」での満足者の比率が67.6%と全体の平均72.0%と比較して低くなっているのがわかる。この展覧会は県外からの観覧者が比較的多い展覧会であったので、このことからすると、県外から自家用車で来館した方の多くが、案内標識の状況等交通アクセスに満足していなかったのではないかと推測することができる。また、敷地内に無料の駐車場があるものの収容台数が約400台と限られているために、週末などに来館者が集中してしまうと、駐車場が満車になり駐車できるまでに時間がかかってしまうという問題がある。このことがアクセスに満足できない要因になっていると思われる。来館者の多い企画展の土、日、休日には隣接する県立大学の職員駐車場を借用し、美術館来館者に充てていきたい。

次に公共交通機関の利用者についてであるが、JRの最寄り駅である草薙駅、または静岡鉄道の最寄り駅である県立美術館前駅から、なだらかな上り坂を上ることになるので、歩いて来館するのはかなりの運動量になり、このあたりがアクセスに満足してもらえない要因でないかと思われる。路線バスを利用してもらえば最寄り駅から所要時間3分～6分、運賃100円で美術館の入口近くまで乗って来ることができるので、このことを電話等で照会があった際には今後も積極的にPRしていきたい。

平成22年度主要記事

4月1日	芳賀徹館長就任 収蔵品展「New コレ しずおか」 (～5月16日)		7日)
6日	技法セミナー「日本画の修復体感週間」 (～18日)	20日	ロボットと美術展講演会「機会と生命のあいだーロボットの“いのち”をどのように展示する？」瀬名秀明(作家)
10日	企画展「伊藤若冲ーアナザーワールドー展」開幕(～5月16日)	10月2日	ロボットと美術展ワークショップ「マンモス・ロボットと美術10」(実技室)
11日	伊藤若冲展特別講演会「伊藤若冲の多彩な絵画世界」小林 忠(学習院大学教授、千葉市美術館館長)	7日	第3回美術館研究活動評価委員会
17日	伊藤若冲展美術講座「若冲水墨画の魅力」福士雄也(当館学芸員)	28日	県大生美術セミナー「私たちはなぜ芸術を必要とするか」芳賀 徹(当館館長)
18日	伊藤若冲展フロアレクチャー(4月18日、29日、5月15日) 第1回美術館研究活動評価委員会	30日	ロボットと美術展ワークショップ「ペーパーロボットをつくってジオラマ遊び」 (実技室)
5月8日	伊藤若冲展特別講演会「若冲における墨と色」佐藤康宏(東京大学教授)	11月9日	収蔵品展「静物と人物」(～1月30日)
17日	展示室整備などのため休館(～24日)	11日	移動美術展(～14日:川根本町文化会館)
25日	収蔵品展「富士山の絵画2010」 (～7月19日)	16日	企画展「出会えます。あなたの愛する風景」開幕(～12月23日)
6月12日	企画展「トリノ・エジプト展」開幕 (～8月22日)	21日	あなたの愛する風景展トークイベント 「北井一夫(写真家)×下田賢司(コレクター)」(第6展示室)
19日	トリノ・エジプト展記念講演会「古代エジプト美術の魅力」近藤二郎(本展監修者、早稲田大学文学学術院教授)	23日	あなたの愛する風景展特別講演会「桃源郷の詩と絵画」芳賀 徹(当館館長)
29日	第2回美術館研究活動評価委員会	27日	あなたの愛する風景展美術講座「フランソワ・ブーシェと悦楽の風景」小針由紀隆(当館学芸部長)
7月3日	「『出張』講演会&実技講座」講演会「トリノ・エジプト展を観る」新田建史(当館上席学芸員)、こどものための実技講座「エジプト古代文字を石に彫る」(7月3日富士市、7月24日磐田市、8月7日藤枝市)	28日	ロダン館臨時休館(～12月1日)
10日	「トリノ・エジプト展」第1回ファミリー鑑賞会	28日	あなたの愛する風景展フロア・レクチャー(11月28日、12月5日)
21日	収蔵品展「水のある風景」(～9月12日)	12月7日	第4回美術館研究活動評価委員会
8月14日	「トリノ・エジプト展」第2回ファミリー鑑賞会	12日	第2回鑑賞指導者研修会(講座室)
31日	「第50回記念 静岡県芸術祭」開幕 (～9月12日) 夏休み子どもワークショップ(～8月6日)	16日	ロダンツアー「ロダンと朗読とチェロの午後～木枯に真珠の如きまひるかな～」
9月13日	ロダンツアー「ロダンと朗読とピアノの午後～初秋のひとつとき～」	1月2日	第20回富嶽ビエンナーレ展開幕(～1月30日)
14日	収蔵品展「大きい絵」(～11月7日)	15日	移動美術展(～2月27日:島田市博物館)
18日	企画展「ロボットと美術」開幕(～11月	2月1日	収蔵品展「イマジネーションの彼方へ」 (～3月31日)
		5日	企画展「ニューオーリンズ ギッター・コレクション展」開幕(～3月27日) 夕暮れロダンツアー開催
		6日	移動美術展博物館講座「静岡の狩野派と文人画」石上充代(当館学芸員) 島田市博物館
		12日	ギッター・コレクション展特別講演会「ハリケーンから守られた日本絵画 ギッター・コレクション」小林 忠(学習院

- 
- 大学教授、千葉市美術館館長)
- 20日 ギッター・コレクション展フロアレク  
チャー（2月20日、3月13日）
- 27日 AOIロダン賞コンサート開催
- 3月20日 ギッター・コレクション展好評企画「日  
本画をじかに見る！」
- 通年 創作週間（通算63日）  
ロダン館デッサン会（通算24日）  
粘土開放日（通算12日、36回）  
絵の具開放日（通算8日、16回）  
工作アトリエ（通算6日、12回）  
色彩アトリエ（通算5日、10回）  
ギャラリーツアー（一般向け32回、学校  
向け33回）

(企画展)

伊藤若冲—アナザーワールド—展

◎…重要文化財

指定	作者	作品名	材質・形状	所蔵	展示期間	
					前期 4/10~25	後期 4/27~5/16
<b>1 若冲前史</b>						
1		十八羅漢図	絹本着色十二幅	正明寺	六幅のみ展示	六幅のみ展示
3	大岡隼人	『欄間図式』	木版墨摺三冊	千葉市美術館		
4	大岡春卜	『画巧潜覧』	木版墨摺六冊	千葉市美術館		
5	大岡春卜	墨花争奇	紙本墨画二卷	個人蔵	上巻のみ展示	下巻のみ展示
6	佚山	花鳥図	絹本着色六曲一双	東京国立博物館	右隻のみ展示	左隻のみ展示
7	葛蛇玉	蛇玉図	紙本墨画一幅	個人蔵		
9	鶴亭	松竹梅図	紙本墨画三幅	個人蔵		
10	鶴亭	墨竹図	絹本墨画一幅	個人蔵		
11	鶴亭	墨竹図	紙本墨画一幅	個人蔵		
12	鶴亭	墨竹図	紙本墨画一幅	個人蔵		
14	鶴亭	松に白鷹図	絹本着色一幅	神戸市立博物館		
20	鶴亭	菊小禽図	紙本淡彩一幅	個人蔵		
22	鶴亭	木蘭図	紙本墨画一幅	個人蔵		
23	鶴亭	墨菊図	紙本墨画一幅	個人蔵		
24	鶴亭	松双鶴図	絹本墨画一幅	個人蔵		
<b>2 初期作品</b>						
25	伊藤若冲	鸚鵡図	絹本着色一幅	草堂禅寺		
26	伊藤若冲	葡萄図	絹本墨画一幅	個人蔵		
27	伊藤若冲	花卉双鶏図	絹本着色一幅	個人蔵		
28	伊藤若冲	隠元豆・玉蜀黍図	紙本墨画双幅	草堂禅寺		
29	伊藤若冲	雪梅雄鶏図	絹本着色一幅	両足院		
30	伊藤若冲	月夜白梅図	絹本着色一幅	個人蔵		
31	伊藤若冲	壳茶翁像	紙本墨画淡彩一幅	個人蔵		
32	伊藤若冲	壳茶翁像	紙本墨画一幅	個人蔵		
33	伊藤若冲	墨竹図	紙本墨画一幅	京都国立博物館		
34	伊藤若冲	拾得および鶏図	紙本墨画三幅対	禅居庵		
35	伊藤若冲	髑髏図	紙本拓版一幅	西圓寺		
36	伊藤若冲	烏賊図	紙本墨画一幅	個人蔵		
37	伊藤若冲	芭蕉葉図	紙本墨画一幅	個人蔵		
38	伊藤若冲	柳下馬図	紙本墨画一幅	個人蔵		
39	伊藤若冲	馬図	紙本墨画一幅	個人蔵		
40	伊藤若冲	橋図	紙本墨画一幅	個人蔵		
41	伊藤若冲	寒山拾得山水図	紙本墨画三幅	個人蔵		
42	伊藤若冲	寒山拾得図	紙本墨画一幅	個人蔵		
43	伊藤若冲	寒山拾得図	紙本墨画双幅	個人蔵		
44	伊藤若冲	寿老人・孔雀・菊図	紙本墨画三幅	千葉市美術館		
45	伊藤若冲	布袋図	紙本墨画一幅	個人蔵		
46	伊藤若冲	布袋図	紙本墨画一幅	個人蔵		
47	伊藤若冲	布袋図	紙本墨画一幅	個人蔵		
48	伊藤若冲	唐子図	紙本墨画一幅	個人蔵		
49	伊藤若冲	雷神図	紙本着色一幅	千葉市美術館		
50	伊藤若冲	梅鶴図	紙本墨画一幅	個人蔵		

指定	作者	作品名	材質・形状	所蔵	展示期間
51	伊藤若冲	鷹図	紙本墨画一幅	滴水軒記念文化振興財団	
52	伊藤若冲	鶏図	紙本墨画一幅	個人蔵	
53	伊藤若冲	双鶴図・霊亀図	紙本墨画一幅	MIHO MUSEUM	
54	伊藤若冲	蟹図	紙本墨画一幅	京都国立博物館	
55	伊藤若冲	花鳥蔬菜図押絵貼屏風	紙本墨画六曲一双	個人蔵	
56	伊藤若冲	花鳥図押絵貼屏風	紙本墨画六曲一双	個人蔵	
57	伊藤若冲	蓮・牡丹図	紙本墨画双幅	個人蔵	
58	伊藤若冲	松竹梅群鶴図	紙本墨画双幅	個人蔵	
59	伊藤若冲	岩上鴛鴦図	紙本墨画一幅	個人蔵	
60	伊藤若冲	岩に牡丹図	紙本墨画一幅	個人蔵	
61	伊藤若冲	海老図	紙本墨画一幅	細見美術館	
63	伊藤若冲	鶏図押絵貼屏風	紙本墨画二曲一隻	黒川古文化研究所	
64	伊藤若冲	払子図	紙本墨画三幅	個人蔵	
65	伊藤若冲	芦葉達磨図	紙本墨画一幅	個人蔵	
66	伊藤若冲	三番叟図	紙本墨画一幅	個人蔵	
67	伊藤若冲	三番叟図	紙本墨画一幅	個人蔵	
68	伊藤若冲	釣瓶燕子花図	紙本墨画一幅	個人蔵	
69	伊藤若冲	海老図	紙本墨画一幅	個人蔵	
70	伊藤若冲	蛙図	紙本墨画一幅	個人蔵	
71	伊藤若冲	柳白鷺図	紙本墨画一幅	個人蔵	
72	伊藤若冲	柳に叭々鳥図	紙本墨画一幅	個人蔵	
73	伊藤若冲	蜃気楼図	紙本墨画一幅	個人蔵	
74	伊藤若冲	粽図	紙本墨画一幅	個人蔵	
75	伊藤若冲	挽茶之図	紙本墨画一幅	個人蔵	
76	伊藤若冲	芭蕉白鶴図	紙本墨画一幅	個人蔵	
77	伊藤若冲	海老図	紙本墨画一幅	個人蔵	
78	伊藤若冲	布袋図	紙本墨画一幅	個人蔵	
79	伊藤若冲	柳下双鶏・豆下双鶏図	紙本墨画双幅	個人蔵	
80	伊藤若冲	隠元豆双鶏図	紙本墨画一幅	個人蔵	
81	諸家	『縮地妙塗』	画帖一冊	個人蔵	

### 3 着色画と水墨画

82	伊藤若冲	牡丹・百合図	絹本着色双幅	慈照寺	
83	伊藤若冲	百合図	紙本淡彩一幅	個人蔵	
84	伊藤若冲	尻兒戯帚図	絹本着色一幅	鹿苑寺	
85	伊藤若冲	狗子図	紙本墨画一幅	個人蔵	
86	狩野養信	等春筆狗子図模本	紙本着色一幅	東京国立博物館	
87	伊藤若冲	鯉図	絹本着色一幅	東京藝術大学	
88	伊藤若冲	鯉図	紙本墨画一幅	個人蔵	
89	伊藤若冲	鯉鯉図	紙本墨画一幅	個人蔵	
90	伊藤若冲	鯉図	紙本墨画一幅	個人蔵	
91	伊藤若冲	旭日松鶴図	絹本着色一幅	滴水軒記念文化振興財団	
92	伊藤若冲	松梅双鶴図	紙本墨画淡彩一幅	個人蔵	
93	伊藤若冲	松上白鶴図	紙本墨画淡彩一幅	東京国立博物館	
94	伊藤若冲	双鶴図	紙本墨画一幅	個人蔵	
95	伊藤若冲	松に鸚鵡図	絹本着色一幅	個人蔵	
96	伊藤若冲	鸚鵡図	絹本着色一幅	千葉市美術館	
97	伊藤若冲	梅に鸚鵡図	紙本墨画一幅	個人蔵	
98	伊藤若冲	竹虎図	紙本墨画一幅	鹿苑寺	

指定	作者	作品名	材質・形状	所蔵	展示期間	
99	伊藤若冲	出山釈迦図	紙本墨画一幅	個人蔵		
100	◎ 伊藤若冲	仙人掌群鶏図	紙本金地着色六面	西福寺		
101	伊藤若冲	群鶏図障壁画 (旧海宝寺障壁画)	紙本墨画九面	京都国立博物館	五面のみ展示	四面のみ展示
102	◎ 伊藤若冲	菜蟲譜	絹本着色一卷	佐野市立吉澤記念美術館		※場面替えあり
103	大岡春卜	『画史会要』	木版墨摺五冊	個人蔵		
104	伊藤若冲	果蔬涅槃図	紙本墨画一幅	京都国立博物館		
105	伊藤若冲	石灯籠図屏風	紙本墨画六曲一双	京都国立博物館		
106	河村若芝	石灯籠図	絹本着色一幅	個人蔵		
107	伊藤若冲	石灯籠図	紙本墨画三幅	個人蔵		
108	伊藤若冲	象と鯨図屏風	紙本墨画六曲一双	MIHO MUSEUM		
109	松本奉時	白象図	紙本墨画一幅	個人蔵		
110	松本奉時	鯨図	紙本墨画一幅	個人蔵		
111	伊藤若冲	樹花鳥獸図屏風	紙本着色六曲一双	静岡県立美術館		
112	伊藤若冲	白象群獸図	紙本着色一幅	個人蔵		
113		白象群獸図付属書付	紙本墨書一枚	個人蔵		
114	伊藤若冲	親犬仔犬図	紙本墨画一幅	万寿院		
115	伊藤若冲	鹿図	紙本墨画一幅	個人蔵		
116	伊藤若冲	鹿図	紙本墨画一幅	個人蔵		
117	伊藤若冲	伏見人形図	紙本着色一幅	個人蔵		
118	伊藤若冲	栗図	紙本墨画一幅	個人蔵		

#### 4 晩年—多様な展開

119	伊藤若冲	『乗興舟』	拓版画巻一卷	千葉市美術館		
120		『乗興舟』 版木	木製一枚	個人蔵		
121	伊藤若冲	『玄圃瑤華』	拓版画譜一帖	個人蔵		
122	伊藤若冲	『素絢帖』	拓版画譜一帖	個人蔵		
123	諸家	『賞春芳帖』	拓版画譜一帖	千葉市美術館		
125	伊藤若冲	椿に白頭図	木版多色摺一枚	個人蔵		
126	伊藤若冲	松に亀図	紙本墨画一幅	個人蔵		
127	伊藤若冲	猿蟹図	紙本墨画一幅	個人蔵		
129	伊藤若冲	菊図	絹本墨画一幅	個人蔵		
130	伊藤若冲	山村積雪図	絹本墨画一幅	個人蔵		
131	伊藤若冲	山水図	紙本墨画一幅	西福寺		
132	伊藤若冲	岩石人家図	紙本墨画一幅	個人蔵		
133	伊藤若冲	漁舟図	紙本墨画一幅	個人蔵		
134	伊藤若冲	鶏図	紙本墨画襖八面、掛軸一幅、屏風二曲一隻	個人蔵	六図のみ展示	五図のみ展示
136	若冲他	『奉時清玩帖』	紙本着色画帖二冊	個人蔵		
137	伊藤若冲	石峯寺図	絹本墨画一幅	京都国立博物館		
138	伊藤若冲	五百羅漢図	紙本墨画一幅	個人蔵		
139	伊藤若冲	虎図	紙本墨画一幅	石峰寺		
140	伊藤若冲	海老図	紙本墨画一幅	千葉市美術館		
141	伊藤若冲	郭子儀	紙本墨画一幅	個人蔵		
142	伊藤若冲	壳茶翁像	紙本墨画一幅	個人蔵		
143	伊藤若冲	群鶏図押絵貼屏風	紙本墨画六曲一双	個人蔵		
144	伊藤若冲	鶏図	紙本墨画九幅	個人蔵	一幅のみ展示	
145	伊藤若冲	花鳥図押絵貼屏風	紙本墨画六曲一双	個人蔵		
146	伊藤若冲	鶴図	紙本墨画一幅	個人蔵		

指定	作者	作品名	材質・形状	所蔵	展示期間
147	伊藤若冲	鶴図	紙本墨画一幅	個人蔵	
148	伊藤若冲	野晒図	紙本墨画一幅	西福寺	
149	伊藤若冲	萬歳図	紙本墨画一幅	個人蔵	
150	伊藤若冲	蓑笠槌図	紙本墨画一幅	個人蔵	
151	伊藤若冲	梅図	紙本墨画一幅	天真院	
152	伊藤若冲	梅図	紙本墨画一幅	個人蔵	
153	伊藤若冲	梅図	紙本墨画一幅	個人蔵	
154	伊藤若冲	大根図	紙本墨画一幅	個人蔵	
155	伊藤若冲	伏見人形図	紙本着色一幅	個人蔵	
156	伊藤若冲	伏見人形図	紙本墨画一幅	個人蔵	
157	伊藤若冲	蔬菜図押絵貼屏風	紙本墨画六曲一双	個人蔵	
158	伊藤若冲	雛に双鶏図	紙本墨画一幅	個人蔵	
159	伊藤若冲	鶴図	紙本墨画一幅	個人蔵	
160	伊藤若冲	鶏図	紙本墨画一幅	個人蔵	
161	伊藤若冲	壳茶翁像	紙本墨画一幅	個人蔵	
162	伊藤若冲	松尾芭蕉像	紙本墨画一幅	個人蔵	
163	伊藤若冲	蒲庵浄英像	絹本墨画一幅	萬福寺	
164	伊藤若冲	群鶏図押絵貼屏風	紙本墨画六曲一双	個人蔵	
165	伊藤若冲	鯉図押絵貼屏風	紙本墨画六曲一隻	個人蔵	
166	伊藤若冲	松図	絹本墨画一幅	個人蔵	
167	伊藤若冲	鶏図	紙本墨画一幅	個人蔵	
168	伊藤若冲	霊亀図	紙本墨画一幅	個人蔵	
169	伊藤若冲	亀図	紙本墨画一幅	鹿苑寺	
170	伊藤若冲	霊亀図	紙本墨画一幅	個人蔵	

・静岡会場の出品リストであるため、千葉会場のみ展示の作品は掲載されていません。(該当作品欠番)



# トリノ・エジプト展

No. 作品名	年代	出土地	材質、技法	寸法(cm、H×W×D)
<b>第1章 トリノ・エジプト博物館</b>				
1 トリノのエジプト・ギャラリー (ロレンツォ・デレアーニ画)	1881年	イタリア・ピエモンテ州	油彩、板に貼られたキャンヴァス	32×47
2 トトメス3世のシリア遠征パピルス	新王国時代、第20王朝(前1186～前1070年頃)	テーベ西岸、ディーール・アル＝マディーナ出土	パピルス	19×57
3 イリネフェルとナクトミンの墓の模型	オリジナルの墓は新王国時代、第19王朝(前1292～前1186年頃)	テーベ西岸、ディーール・アル＝マディーナ出土	木、プラスター	152×145×89
4 アメンヘテプ1世座像	新王国時代、第19王朝(前1292～前1186年頃)	テーベ西岸、ディーール・アル＝マディーナ出土	石灰岩、彩色	65×27×40
5 アメンヘテプ1世とプタハ神を崇拜するフィのステラ	新王国時代、第19王朝(前1292～前1186年頃)	テーベ西岸、ディーール・アル＝マディーナ出土	石灰岩	26×17×4.5
6 イアフメス・ネフェルトイリ王妃に捧げられたステラ	新王国時代、第19王朝(前1292～前1186年頃)	テーベ西岸、ディーール・アル＝マディーナ出土	石灰岩、彩色	13.3×9.7×3
7 神格化された黒いイアフメス・ネフェルトイリ王妃の小像	新王国時代、第19～20王朝(前1292～前1070年頃)	テーベ西岸、ディーール・アル＝マディーナ出土	木、彩色	48×10.8×27
8 神格化されたイアフメス・ネフェルトイリ王妃の小像	新王国時代、第19～20王朝(前1292～前1070年頃)	テーベ西岸、ディーール・アル＝マディーナ出土	片岩	25×4.4×7.8
9 石棺のスケッチのあるオストラコン	新王国時代、第18～20王朝(前1550～前1070年頃)	テーベ西岸、ディーール・アル＝マディーナ出土	石灰岩、黒インク	19.4×13×2.5
10 牡牛のオストラコン	新王国時代、第19～20王朝(前1292～前1070年頃)	テーベ西岸、ディーール・アル＝マディーナ出土	石灰岩、彩色	18.5×11×3
11 メレットセゲル女神を描いたオストラコン	新王国時代、第19王朝(前1292～前1186年頃)	テーベ西岸、ディーール・アル＝マディーナ出土	石灰岩、彩色	12.5×17×3.5
12 敵を打ちすえるラムセス3世のオストラコン	新王国時代、第20王朝、ラムセス治世(前1183～前1152年頃)	テーベ西岸、ディーール・アル＝マディーナ出土	石灰岩、彩色	30.5×23×3
13 鑿	新王国時代、第18～20王朝(前1550～前1070年頃)	テーベ西岸、ディーール・アル＝マディーナ出土	青銅	18×2.5
14 木槌	新王国時代、第18～20王朝(前1550～前1070年頃)	テーベ西岸、ディーール・アル＝マディーナ出土	木	34×12.5 (diam)
15 彫刻家の鑿	新王国時代、第18～20王朝(前1550～前1070年頃)	テーベ西岸、ディーール・アル＝マディーナ出土	青銅、木	14×3 (diam)
16 手斧	新王国時代、第18～20王朝(前1550～前1070年頃)	テーベ西岸、ディーール・アル＝マディーナ出土	木	22.5
17 ピンセット	新王国時代、第18～20王朝(前1550～前1070年頃)	出土地不詳	青銅	15×3
18 手筈	新王国時代、第18～20王朝(前1550～前1070年頃)	テーベ西岸、ディーール・アル＝マディーナ出土	植物繊維	25×4.4×15×4
19 すり鉢とすりこぎ	新王国時代、第18～20王朝(前1550～前1070年頃)	(すり鉢)ゲベレイン、南墓地出土、(すりこぎ)ヘリオポリス、コム出土	(すり鉢)灰色花崗岩、(すりこぎ)灰色花崗岩	14×9.4×2.5、4.5×3 (diam)
20 亜麻布の反物	年代不詳	出土地不詳	亜麻	29 (W)
21 書記のパレット	新王国時代、第18～20王朝(前1550～前1070年頃)	出土地不詳	木	50×6×1
22 筆記用タブレット	新王国時代、第20王朝(前1186～前1070年頃)	出土地不詳	木、黒インク	35×9.5×1
23 コホル容器と化粧棒	新王国時代、第18～20王朝(前1550～前1070年頃)	出土地不詳	(コホル容器)ファイアンス、(化粧棒)青銅	10×7×2、14 (L)
24 王の頭部の未完成のレリーフ	新王国時代、第19王朝(前1292～前1186年頃)	出土地不詳	石灰岩	31×23.3×5.6
25 王の胸像の習作	プトレマイオス時代初期(前4世紀)	出土地不詳	石灰岩、プラスター	17×13.3×9.5
26 ベス神とヒエログリフの習作	プトレマイオス時代初期(前4世紀)	出土地不詳	石灰岩	13.5×11.5×3
27 コブラとハゲワシの習作	プトレマイオス時代初期(前4世紀)	ヘリオポリス、コム出土	石灰岩	16.5×20×2
28 ウズラのヒエログリフの習作	プトレマイオス時代初期(前4世紀)	ヘリオポリス、コム出土	石灰岩	17×14×2.5

No.	作品名	年代	出土地	材質、技法	寸法(cm、H×W×D)
<b>第2章 彫像ギャラリー</b>					
29	アメン神とツタンカーメン王の像	新王国時代、第18王朝、ツタンカーメン王～ホルエムヘブ王治世（前1333～前1292年頃）	テーベ出土	石灰岩	209×90×112
30	オシリス神をかたどった王の巨像頭部	新王国時代、第18王朝、トトメス王治世（前1504～前1492年頃）	テーベ、カルナク出土？	砂岩	149×48×60
31	ライオン頭のセクメト女神立像	新王国時代、第18王朝、アメンヘテプ3世治世（前1388～前1351年頃）	テーベ、アメンヘテプ3世葬祭殿（おそらくムウト神殿で再利用）出土	閃緑岩	210×46×36
32	ライオン頭のセクメト女神座像	新王国時代、第18王朝、アメンヘテプ3世治世（前1388～前1351年頃）	テーベ、アメンヘテプ3世葬祭殿（おそらくムウト神殿で再利用）出土	閃緑岩	253×61×116
33	プタハ神座像	新王国時代、第18王朝、アメンヘテプ3世治世（前1388～前1351年頃）	出土地不詳	石灰岩（頭部修復）	106×41×71
34	コンスのピラミディオン	新王国時代、第18～20王朝（前1550～前1070年頃）	テーベ西岸、ディール・アル＝マディーナ出土	石灰岩	64.4×45.1×37.8
35	アメンヘテプ1世とプタハ神を崇拝するフィのステライア フメス・ネフェルトイリ王妃を礼拝するセティ1世のステラ	新王国時代、第19王朝、セティ1世治世（前1290～前1279年頃）	テーベ西岸、ディール・アル＝マディーナ出土	石灰岩	55×65
36	人型石棺の蓋	新王国時代、第18～20王朝（前1550～前1070年頃）	テーベ西岸出土？	石灰岩、彩色	128×50×19
37	牡羊の頭	新王国時代、第19王朝（前1292～前1186年頃）	テーベ、カルナク、コンス神殿前出土	砂岩	60×110×135
38	カエムウアセト王子の石棺の蓋	新王国時代、第20王朝、ラメセス治世（前1183～前1152年頃）	テーベ西岸、王妃の谷、QV43（セトヘルケブシェフ王子墓）、あるいはQV44（カエムウアセト王子墓）出土	赤色花崗岩	160×110×65
39	イビの石製人型棺の蓋	末期王朝時代、第26王朝、プサメティク1世治世（前664～前610年頃）	テーベ西岸、アサシーフ地区出土	変成硬砂岩	197×62×24
<b>第3章 祈りの軌跡</b>					
40	アメン・ラー神に牡羊の頭部を捧げるベンシェナブの像	新王国時代、第19王朝（前1292～前1186年頃）	テーベ出土	石灰岩、彩色	63×20×47
41	ウセルサテトの耳のステラ	新王国時代、第19王朝（前1292～前1186年頃）	テーベ西岸、ディール・アル＝マディーナ出土	石灰岩	17×14×4.5
42	アメン・ラー神を拝むネブネフェルのステラ	新王国時代、第20王朝（前1186～前1070年頃）	テーベ西岸、ディール・アル＝マディーナ出土	石灰岩	24×16×2
43	アブイフウのステラ	中王国時代、第12王朝、センウレト1世治世（前1956～前1911年頃）	出土地不詳	石灰岩	136.5×77.5×12
44	バキの美しい牡羊のステラ	新王国時代、第19王朝、セティ1世治世（前1290～前1279年頃）	テーベ西岸、ディール・アル＝マディーナ出土	石灰岩	50×25×5
45	家族像	新王国時代、第18王朝、トトメス3世治世（前1479～前1425年頃）	テーベ出土	石灰岩、彩色	32×15.5×19.5
46	二人の女性の像	新王国時代、第18王朝（前1550～前1292年頃）	出土地不詳	石灰岩、彩色	36×19×20
47	ステラを奉納する男性像	新王国時代、第18～20王朝（前1550～前1070年頃）	テーベ西岸、ディール・アル＝マディーナ出土	石灰岩、彩色	27×11×19
48	ステラを奉納するウベンラーの像	新王国時代、第18～20王朝（前1550～前1070年頃）	テーベ西岸、ディール・アル＝マディーナ出土	石灰岩	31.5×14.4×19
49	ハトホル女神の標章を捧げる男性像	新王国時代、第18～20王朝（前1550～前1070年頃）	出土地不詳	石灰岩、彩色	27×9×9
50	牡羊にステラを捧げる男性像	末期王朝時代、第26王朝（前664～前525年頃）	出土地不詳	赤色砂岩	38×14.7×20.5
51	オシリス神の礼拝所を捧げる男性像	末期王朝時代、第26王朝（前664～前525年頃）	出土地不詳	閃緑岩	24×11.5×23
52	女神の頭部を持つアイギス	末期王朝時代、第26～31王朝（前664～前332年）	出土地不詳	青銅	22.5×24×7

No.	作品名	年代	出土地	材質、技法	寸法(cm、H×W×D)
53	ベス神の小像	末期王朝時代、第26～31王朝 (前664～前332年)	出土地不詳	青銅	15×4.5×3.5
54	ナイフと蛇を持つベス神像	末期王朝時代、第26～31王朝 (前664～前332年)	出土地不詳	石灰岩	21×16.5×7
55	木製のアーキトレーズ	新王国時代～末期王朝時代 (前1550～前525年)	出土地不詳	木	17×40×4
56	石灰岩製のアーキトレーズ	ローマ支配時代 (前30～後395年)	出土地不詳	石灰岩	28.5×67×8
57	レネヌウテト女神に捧げられたステラ	新王国時代、第19王朝 (前1292～前1186年頃)	テーベ西岸、ディール・アル＝マディーナ出土	石灰岩、彩色	23.5×16×4
58	有翼の聖蛇に守護された王のカルトゥーシュ	末期王朝時代、第26～31王朝 (前664～前332年)	出土地不詳	木、ガラス象眼	17×11×1
59	青銅製の猫の小像	末期王朝時代、第26～31王朝 (前664～前332年)	出土地不詳	青銅	20 (H)
60	斑岩製のハヤブサ小像	ローマ支配時代 (後2～3世紀頃)	出土地不詳	斑岩	17.5×7.5×16
61	ハヤブサの小像	プトレマイオス時代後期 (前2～前1世紀)	出土地不詳	木、彩色	26.5×8×22
62	トキの小像	プトレマイオス時代後期 (前2～前1世紀)	出土地不詳	木、彩色	23.5×8×24
63	ジャッカルの小像	プトレマイオス時代後期 (前2～前1世紀)	出土地不詳	木、彩色	24.3×7×29.4
64	オシリス神の小像	末期王朝時代、第26～31王朝 (前664～前332年)	出土地不詳	片岩	48×10×16.8
65	イシス女神とホルス神の小像	末期王朝時代、第26～31王朝 (前664～前332年)	出土地不詳	方解石	28 (H)
66	王を守護するイシス女神の像	末期王朝時代、第26～31王朝 (前664～前332年)	出土地不詳	木、彩色	24.5×18
67	カロのステラ	新王国時代、第19王朝、ラメセス2世治世 (前1279～前1213年頃)	テーベ西岸、ディール・アル＝マディーナ出土	石灰岩、彩色	76×55×7
68	イブイのステラ	新王国時代、第19王朝、ラメセス2世治世 (前1279～前1213年頃)	テーベ西岸、ディール・アル＝マディーナ出土	石灰岩	57×38.4×7.4
69	ナキイの葬送用ステラ	新王国時代、第18王朝末期～第19王朝初期 (前1333～前1213年頃)	テーベ西岸、ディール・アル＝マディーナ出土	砂岩、彩色	105×57×15
70	死者の書	プトレマイオス時代～ローマ支配時代 (前332～後395年)	テーベ出土	パピルス	19×303
<b>第4章 死者の旅立ち</b>					
71	タバクエンコンスの人型棺	第3中間期、第21王朝 (前990～前970年頃)	テーベ西岸出土	木、彩色	162.5×45×12
72	タディアセトタヘケレトの人型の内棺の蓋	第3中間期、第22王朝末期 (前850～前750年頃)	テーベ西岸、王妃の谷、QV43 (セトヘルケブシェフ王子墓)、あるいはQV44 (カエムウアセト王子墓) 出土	木 (アカシア、あるいはエジプトイチジク)、プラスター彩色	205×61
73	神殿の庭師メンチュイルデスの人型の内棺	第3中間期、第22王朝末期 (前850～前750年頃)	テーベ西岸、王妃の谷、QV43 (セトヘルケブシェフ王子墓)、あるいはQV44 (カエムウアセト王子墓) 出土	木 (アカシア、あるいはエジプトイチジク)、プラスター彩色	184×52
74	男性により再利用された女性の棺	第3中間期、第22王朝末期 (前850～前750年頃)	テーベ西岸、王妃の谷、QV43 (セトヘルケブシェフ王子墓)、あるいはQV44 (カエムウアセト王子墓) 出土	木 (アカシア、あるいはエジプトイチジク)、プラスター彩色	208×84
75	神殿の庭師ネスコンスウネンキイの人型棺の蓋	末期王朝時代、第25王朝 (前746～前655年頃)	テーベ西岸、王妃の谷、QV43 (セトヘルケブシェフ王子墓)、あるいはQV44 (カエムウアセト王子墓) 出土	木 (アカシア、あるいはエジプトイチジク)、プラスター彩色	190×55
76	メレルの彩色木棺	中王国時代、第11～12王朝、(前2020～前1794年頃)	アシュート、メレル1世の墓出土	木、彩色	60×46×198
77	人型棺の顔	新王国時代、第20王朝 (前1186～前1070年頃)	出土地不詳	木、銅の合金と石を象眼	12×12×6.5
78	女性の人型棺の蓋の上部	新王国時代、第19～20王朝 (前1292～前1070年頃)	ヘリオポリス出土?	テラコッタ	47×44.5×20

No. 作品名	年代	出土地	材質、技法	寸法(cm. H×W×D)
79 人型棺の蓋の上部	末期王朝時代、第26～31王朝 (前664～前332年)	テーベ出土	石灰岩	74×64×29
80 ニアのシャプティ・ボックス	新王国時代、第18～20王朝 (前1550～前1070年頃)	出土地不詳	木、彩色	32×22×15
81 ホルエムウイアのシャプティ	新王国時代、第18～20王朝 (前1550～前1070年頃)	テーベ西岸、ディール・アル＝マディーナ出土	木、プラスター彩色	22.5×6.7×3.8
82 サムウトのオシリス神の姿の小像	新王国時代、第19～20王朝 (前1292～前1070年頃)	出土地不詳	木、プラスター彩色	46×9×11
83 ブタハ・ソカル・オシリス神小像	末期王朝時代、第26王朝 (前664～前525年頃)	出土地不詳	木、プラスター彩色	54×10×10
84 ウアファイブラーのカノボス容器	末期王朝時代、第26王朝 (前664～前525年頃)	メンフィス出土	アラバスター	37 (ca.)×15 (diam.)
85-88 ホルスの4人の息子たちの小像	末期王朝時代、第26王朝 (前664～前525年頃)	出土地不詳	木、彩色	30 (ca., H)
89 木製のバクトラル	第3中間期～末期王朝時代、第21～26王朝 (前1070～前525)	出土地不詳	木、プラスター彩色	9×12.5
90 捕虜の囚を描いたミイラの足の裏	末期王朝時代、第26～31王朝 (前664～前332年)	出土地不詳	カルトナーージュ、彩色	22.5×8.3
91 編み目模様のミイラの足の裏	末期王朝時代、第26～31王朝 (前664～前332年)	出土地不詳	カルトナーージュ、彩色	22.2×8×1
92 枕	第1中間期～中王国時代、第9～12王朝 (前2145～前1794年頃)	アシュート、第1号墓出土	木	20×22×7
93 椅子	新王国時代、第18王朝 (前1550～前1292年頃)	テーベ西岸墓地出土?	木、プラスター彩色、亜麻布、彩色	24×40×40
94 猫の棺	末期王朝時代、第26～31王朝 (前664～前332年)	出土地不詳	木、彩色	25×51×28
95 オベリスクのミニチュア	末期王朝時代、第26～31王朝 (前664～前332年)	出土地不詳	木、彩色	37×10.5×26
96 ガラス象眼細工を施した木製パネル	プトレマイオス時代 (前332～前30年)	テプティニス出土	木、ガラス象眼	17.3×20.6×2.4
97 ブタハ・ソカル・オシリス神像	プトレマイオス時代 (前332～前30年)	アシュート出土	木、プラスター彩色、金箔	47×11×34
98 バー鳥の小像	プトレマイオス時代後期 (前2～前1世紀)	出土地不詳	木、彩色	15×4×15
99 葬送のマスク	ローマ支配時代 (後2～3世紀)	出土地不詳	カルトナーージュ、亜麻布、彩色	64.5×39.4×10.5
100 木棺の破片に描かれた死者を導くアヌビス神	ローマ支配時代 (後1世紀頃)	出土地不詳	木、彩色、金箔	25.2×13.8×3
<b>第5章 再生への扉</b>				
101 ホルエムヘブ墓への入口	新王国時代、第18王朝 (前1550～前1292年頃)	テーベ西岸、シェイク・アブド・アル＝クルナ地区、第78号墓出土	石灰岩	205.5×111.5×11
102 木製の女性像	新王国時代、第18～20王朝 (前1550～前1070年頃)	テーベ出土	木	43×10×25
103 標章持ちの小像	新王国時代、第18王朝末期～第19王朝初期 (前1333～前1213年頃)	テーベ西岸、ディール・アル＝マディーナ出土	木、黄色い顔料	45 (H)
104 子供のミイラ	プトレマイオス時代 (前332～前30年)	出土地不詳	亜麻布、亜麻布とパピルスのカルトナーージュ	94×19×22
105 ハルワの棺とミイラ	第3中間期、第22王朝末期 (前850～前730年頃)	テーベ西岸、王妃の谷、QV43 (セトヘルケプシェフ王子墓)、あるいはQV44 (カエムウアセト王子墓) 出土	(棺) 木、プラスター彩色、(ミイラ) 包帯に包まれた遺骸、(布) 亜麻布、(首飾り) ファイアンス製ビーズ	(棺) 206×67、(ミイラ) 160×35、(布) 140×25、(首飾り) 30×15
106 ウセク形飾り板	末期王朝時代、第26王朝 (前664～前525年)	出土地不詳	木、金箔	10×21
107 イシス女神とネフティス女神の飾り板	末期王朝時代、第26王朝 (前664～前525年)	出土地不詳	木、金箔	10×5.8、10×5.9
108 黄金の葬送の護符	末期王朝時代、第26～31王朝 (前664～前332年)	出土地不詳	金の薄板	1.7×1.1etc.
109 護符のついた首飾り	新王国時代、第18～20王朝 (前1550～前1070年頃)	出土地不詳	紅玉髓、赤碧玉	113 (L)

No. 作品名	年代	出土地	材質、技法	寸法(cm、H×W×D)
110 牡羊の頭的首飾り	第3中間期～末期王朝時代、 第25～26王朝（前746～前525）	出土地不詳	金、ファイアンス	35 (L)
111 黄金の三日月と太陽円盤のある首飾り	末期王朝時代、第26王朝 （前664～前525年）	出土地不詳	金、紅玉髓、ファイアンス	45.5 (L)
112 ロータス文様のファイアンス製容器	新王国時代、第18～20王朝 （前1550～前1070年頃）	出土地不詳	ファイアンス、マンガンの黒	4.4×13 (diam.)
113 ファイアンス製のベクトラル	第3中間期～末期王朝時代、 第21～26王朝（前1070～前525）	出土地不詳	ファイアンス	8.5×10.5
114 スウエムネブウ夫人の小像	新王国時代、第18～20王朝 （前1550～前1070年頃）	テーベ出土	石灰岩、彩色	29.5×9×18
115 ロータスを持つ男の座像	新王国時代、第18～20王朝 （前1550～前1070年頃）	テーベ西岸、ディール・アル＝マディーナ出土	石灰岩、彩色	27×9×14.5
116 メキメンチュウとその妻ネブエムウセクトのステラ	新王国時代、第18王朝（前1550～前1292年頃）	テーベ西岸、ディール・アル＝マディーナ出土	石灰岩、彩色	28.5×20×4
117 ウベクトのステラ	新王国時代、第19王朝（前1292～前1186年頃）	テーベ西岸、ディール・アル＝マディーナ出土	石灰岩、彩色	19.1×12.8×3.4
118 タシェリエンバステトのステラ	プトレマイオス時代（前300～前250年頃）	出土地不詳	木、彩色	58.5×33.5×4
119 葬送用模型船	中王国時代～第2中間期、 第12～13王朝（前1976～前1648年頃）	出土地不詳	木、彩色	38×142×26

## ロボットと美術

No.	作家名	作品名	制作年
<b>■セクション0 ロボット以前一動く「人がた」の夢</b>			
0-1	ルイス・P・セレナンズ	フランク・リードと平原の蒸気人間	1883年
0-2	カルロ・コッローディ	『ピノッキオ あるあやつり人形の冒険』	1904年
0-3	カルロ・コッローディ	『ピノチオ』	1948年
0-4	細川半蔵頼直	『機巧図彙』（レプリカ）	
0-5	七代目玉屋庄兵衛	茶運び	
0-6		盃運びからくり人形	
0-7		オートマトン	
<b>■セクション1 戦前—ロボットの誕生と同時代文化</b>			
1-1	カレル・チャペック	『R. U. R.』各国語版（日本版『人造人間』『ロボット』含む）	
1-2	築地小劇場	《人造人間》舞台写真	1926年
1-3	ウンベルト・ボッチオーニ	空間の中の一つの連続する形	1913年
1-4	石垣栄太郎	鞭うつ	1925年
1-5	ジャコモ・バッラ	輪を持つ女の子	1915年
1-6	東郷育児	帽子をかむった男（歩く女）	1922年
1-7	コンスタンティン・ブランクーシ	ボガニー嬢Ⅱ	1925年
1-8	アレクサンダー・アーキベンコ	《化粧する女》習作	1913年
1-9	萩島安二	日本髪	1938年
1-10	仲田定之助	女の首	1924年
1-11	トゥール・ドナ	ダンス	
1-12	坂田一男	祭壇の男	1926年
1-13		『マヴォ』	1924年
1-14		『人間機械』	1926年
1-15		『松竹座ニュース』	
1-16	矢部友衛	裸婦	1923-24年
1-17	東郷育児	婦人像	1928-35年頃
1-18	ソニア・ドロネー	衣装『ガスで動く心臓』	1923-24年
1-19	エル・リシツキー	《太陽の征服》より	1920-22年
1-20	江口隆哉・宮操子	《物体舞踊》舞台写真	1935年
1-21		ロシア・アヴァンギャルド期のテキスタイルデザイン	1920年代
1-22		《メトロポリス》関連資料	
1-23	前田藤四郎	時計	1932年
1-24	鷹山宇一	機械と虫	1930年
1-25	鷹山宇一	機械と鳥	1930年頃
1-26	鷹山宇一	失題	1946年
1-27	マックス・エルンスト	《流行に栄えあれ、芸術よ墜ちろ》より	1919年
1-28	ハンス・バルメール	人形	1935-37年
1-29	川崎亀太郎	マヌカンC	1940年頃
1-30	ジョルジョ・デ・キリコ	広場での二人の哲学者の遭遇	1972年
1-31	岡本唐貴	ベシミストの祝祭	1924/73年
1-32	河辺昌久	メカニズム	1924年
1-33	花和銀吾	複雑なる想像	1938年
1-34	前田藤四郎	脚と機械（廊下に立つ婦人）	1928年頃
1-35	前田藤四郎	聴覚	1929年
1-36	前田藤四郎	美女と野獣	1930年
1-37	高井貞二	感情の遊離	1932年
1-38	谷中安規	実験室	1931年頃

No.	作家名	作品名	制作年
1-39	岩野勝人	ロボットオブジェ (「エリック」「テレヴォックス」「メトロポリスのマリア」)	2002年
1-40		《學天則》模型および資料写真	
<b>■セクション2 戦後Iー大衆文化の興隆と戦後美術の動向</b>			
2-1	大辻清司	《eyewitness》より バレエ実験劇場「未来のイヴ」舞台風景	1855年/2008年 モダンプリント 制作(三浦和人)
2-2	村岡三郎	鉄板を持つ手	1960年/1978年 再制作
2-3	村岡三郎	あやとり	1960年/1978年 再制作
2-4	中村宏	似而非機械	1971年
2-5	中村宏	《乗物尽絵》より	1970年
2-6	成田亨	ガラモン初稿	1965年
2-7	成田亨	キングジョー決定稿	1967年
2-8	成田亨	ユートム	1968年
2-9	ナム・ジュン・パイク	冥王星人	1993年
2-10	四谷シモン	機械仕掛けの少女1	1983年
2-11	ヤノベケンジ	イエロー・スーツ	1991年
2-12	ヤノベケンジ	ガイガーチェック：ワールドワイドNo. 5	1998年
2-13	荒木博志	Astroboy	1993年
2-14	荒木博志	King of Audio & Goodman speakers	1987-93年
2-15	荒木博志	Chairman	1983年
2-16	山口晃	厩図	2001年
2-17	山口晃	メカごころ 落書き帖 ガンダム編	2007年
2-18	KIMURA	PEACEWALKER	2002年
2-19	真鍋博	ロボット関係各種挿画および収録誌	1961年
2-20	相澤次郎 (日本児童文化研究所)	大型ロボット (カメラマンロボット「太郎」君、ガイドロボット「一郎」君、ラジコンロボット「三郎」君、モデルロボット「五郎」君、スタンプロボット「テツちゃん」)	
2-21	相澤次郎 (日本児童文化研究所)	ミニチュアロボット (「ガイド」「カメラマン」「モデル」)	
2-22	相澤次郎 (日本児童文化研究所)	楽士ロボット (「トロンボーン」「大太鼓」「バイオリン」)	
2-23	相澤次郎 (日本児童文化研究所)	紙製ロボット (「小太鼓」「大太鼓」「パーベル」)	
2-24		旧静岡市立児童会館所蔵ロボット 《カンちゃん》《ロボンタ》	
2-25	手塚治虫	アニメ 《鉄腕アトム》オープニング映像、複製セル画	
2-26	手塚治虫	《鉄腕アトム》直筆原稿、各国語版コミックス	
2-27	手塚治虫	《鉄腕アトム》フィギュア	
2-28	横山光輝	《鉄人28号》イラスト	1960年
2-29		《鉄人28号》超合金モデル	2005年
2-30		アニメ 《機動戦士ガンダム》オープニング映像、各種設定画	
2-31		《機動戦士ガンダム》プラモデル各種	
2-32		《機動戦士ガンダム》HYPER HYBRID MODEL 1/12(「MS-06S ZAKU II」「RX-78-2 GUNDAM」)	
2-33	大河原邦男	《機動戦士ガンダム》イラスト	
2-34	大河原邦男	《装甲騎兵ボトムズ》イラスト	1995年
2-35		《グレートマジンガー秘密基地+マジンガー Z (電動歩行)》	1973/74年
2-36		超合金モデル各種(「マジンガーZ」「アフロダイA」「グレートマジンガー」「ゲッタードラゴン」「ゲッターライガー」「ゲッターボセイドン」「コン・バトラー V」「伝説巨神イデオン」「戦闘メカ・ザブングル」「UFOロボ・グレンダイザー」「大空魔竜ガイキング」「勇者ライディーン」「キングジョー」)	
2-37	小松崎茂	リベットボーイ (モーター/恐竜付)	1970年
2-38	小松崎茂	ガードマンロボット (モーター)	1970年
2-39	小松崎茂	人造人間キカイダー (ゼンマイ)	1972年
2-40	小松崎茂	勇者ライディーン (電動歩行)	1975年

No.	作家名	作品名	制作年
2-41	小松崎茂	超電磁ロボ コン・バトラー V	1976年
2-42	小松崎茂	ジャイアント・ロボット	
2-43	高荷義之	超時空要塞マクロス1/72 可変バルキリー VF-1S	1983年
2-44	高荷義之	《戦闘メカ ザブングル》ボックスアート (「休息」「みんな走れ!」)	
2-45	高荷義之	ゼブルシリーズ ゴルゴラ	1992年
2-46	高荷義之	ジャイアントロボ	2008年
2-47	高荷義之	聖戦士ダンバイン 揺らぐ樹海	1983年
2-48	長谷川政幸	《重戦機エルガイム》ボックスアート	1984年
2-49	長谷川政幸	《棟動戦士ガンダム》ボックスアート (「1/144 グフ」「1/144 フルカラーモデル ガンダム」)	
2-50	根本アートセンター	《伝説巨神イデオン》ボックスアート (「スペシャルデラックス イデオン」「合体ロボット イデオン」)	
2-51	根本アートセンター	魔境伝説アクロバンチ 1/100 デイラノス	1982年
2-52	上田信	《機動戦士ガンダム》ボックスアート (「1/250 ガンダム情景模型 ジャブローに散る」「1/250 ガンダム情景模型 宇宙要塞ア・バオア・クーの戦い」「1/100 リアルタイプ・ザク」「1/60 ゲルググキャノン」)	
2-53	上田信	聖戦士ダンバイン 1/72 ダーナ・オシー	1983年
2-54	上田信	太陽の牙ダグラム コンバットアーマー ダグラム	1982年
2-55	石橋謙一	《機動戦士ガンダム》ボックスアート (「1/144 MS-06R-1AザクII黒い三連星使用機」「1/144 RX-78-1プロトタイプガンダム」)	
2-56	石橋謙一	《戦闘メカ ザブングル》ボックスアート (「1/144ウオーカー・マシン クラブタイプ」「ウオーカー・マシン オットリッチタイプ」)	
2-57	石橋謙一	機甲戦記ドラグナー 1/100 メタルアーマー ドラグナー D-1カスタム	1987年
2-58	開田裕治	機動戦士ガンダム1/100 アッガイ	1982年
2-59	開田裕治	機動警察パトレイバー1/60 イングラム	1989年
2-60	開田裕治	Beginning	1979年
2-61	開田裕治	聖戦士ダンバイン 1/72 ダンバイン	1983年
2-62	開田裕治	《スーパーロボット大戦》ボックスアート (「1/44 ダイゼンガー」「フェアリオンTYPE-G」)	
2-63	加藤直之	LASER SQUAD	1993年
2-64	加藤直之	パーサーカー	2007年
2-65	加藤直之	ダンス	2007年
2-66	鳥居周平	パワードスーツ フィギュア	2010年
2-67	横山宏	《マシーネンクリーガー》イラストレーション各種 (「1/20 陸戦ガンズ」「1/20 クレーテ」「1/20 S.A.F.S.スノーマン」)	
2-68	横山宏	マシーネンクリーガー 1/1 SUPER ARMORED FIGHTING SUIT S・A・F・S	1998年
2-69	天神英貴	超時空要塞マクロス マクロス艦強攻型	2009年
2-70	天神英貴	マクロス ゼロ	2008年
2-71	天神英貴	機動戦士ガンダム MG 1/100 ガンタンク	2009年
2-72	天神英貴	機動戦士ガンダム ザク	2008年
2-73	天神英貴	装甲騎兵ボトムズ 1/20 スコープドッグ (パールゼン・ファイルズ版)	2007年
2-74	天神英貴	機甲装兵アーモダイン	2007年
2-75		《エヴァンゲリオン新劇場版:序》劇中映像、フィギュア (「零号機」「初号機」)	2007年
2-76	デザイン:カトキハジメ、3Dモデリング:森康浩、フィニッシュワーク:有井伸孝	《電腦戦記パーチャロン》ボックスアート (「1/100 MZV-747J テムジン747J」「1/100 HZV-36T-H アファームド・ザ・ハッター」「1/100 TF-14A フェイ・イェン with ビビッド・ハート」「TG-11-Mガラヤカ」)	
2-77		《電腦戦記パーチャロン》プラモデル (「1/100 HZV-747J テムジン747J」「1/100 MZV-36T-H アファームド・ザ・ハッター」「1/100 TF-14A フェイ・イェン With ビビッド・ハート」「TG-11-M ガラヤカ」)	
2-78		《電腦戦記パーチャロン》テムジンフィギュア	
2-79		安田勝寿玩具コレクション	
<b>■セクション3 戦後II-ロボットイメージの現在:ロボティクスからアートまで</b>			
3-1	JST ERATO北野共生システムプロジェクト&山中俊治	《morph3》映像資料	
3-2	山中俊治	《morph3》ドローイング	



No.	作家名	作品名	制作年
3-3	ロボ・ガレージ	MANOI PFO1.	2007年
3-4	ロボ・ガレージ	FT	2006年
3-5	ロボ・ガレージ	ロボ・ガレージ映像資料	
3-6	フラワー・ロボティクス	Posy	2001年
3-7	フラワー・ロボティクス	Palette	2004年
3-8	村上隆	Inochiフィギュア、2009 ジャン、ヴィクター、ボブ、デーヴィット、山本	2009年
3-9	ATR知能ロボティクス研究所、大阪大学	《ジェミノイド》映像資料	
3-10	JST ERATO 浅田共創知能システムプロジェクト	《CB2》映像資料	
3-11	東京大学情報システム工学研究室	隼次	2004年
3-12	奥村雄樹	Can't Get You Out of My Head	2007年
3-13	KEI	《初音ミク》イラスト（「ラファイラスト」「完成イメージ」）	2007年
3-14	浅井真紀	《初音ミク・アペンド（MIKU Append）》フィギュア	2010年
3-15	初音ミク	初音ミクの歌唱（「しろいそら」「思慮するゾンビ」「プラスチック・ガール」）	
3-16		本展オリジナルアニメ	2010年

## 出会えます。あなたの愛する風景

No.	作者名/生没年	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)
<b>あこがれの風景</b>					
1	パウル・ブリル 1554-1626	エルミニアと羊飼いのいる風景	1620頃	キャンヴァス、油彩	74.5×106.7
2	クロード・ロラン 1604/05 ? -1682	笛を吹く人物のいる牧歌的風景	1630年代後半	キャンヴァス、油彩	99.7×133.3
3	ガスパー・デュケ 1615-1675	サビーニの山羊飼	1669-71	キャンヴァス、油彩	68.5×49.5
4	ジャン=ジョゼフ=グザビエ・ビドー 1758-1846	山の見える牧歌的風景	1790年代	キャンヴァス、油彩	81.5×111.7
5	アシル=エトナ・ミシャロン 1796-1822	廃墟となった墓を見つめる羊飼い	1816	キャンヴァス、油彩	81×100
<b>自然賛歌</b>					
6	アールト・ファン・デル・ネール 1603/04-1677	森の風景	1645頃	キャンヴァス、油彩	128.3×160.0
7	ヤン・ファン・ホイエン 1596-1656	レーネン、ライン河越しの眺め	1648	板、油彩	66.0×96.5
8	サルヴァートル・ローザ 1615-1673	川のある山岳風景	1650年代後半	キャンヴァス、油彩	121.0×196.5
9	ヤン・ファン・ケッセル 1641-1680	二人の狩猟者のいる森の風景	1660年代	板、油彩	51.4×82.9
10	ヤーコブ・ファン・ロイスダール 1628/29-1682	小屋と木立のある田舎道	1670年代	キャンヴァス、油彩	39.6×46.0
11	クロード=ジョゼフ・ヴェルネ 1714-1789	嵐の海	1740頃	キャンヴァス、油彩	89.0×167.0
12	リチャード・ウィルソン 1714-1782	リン・ナントルからスノードンを望む	1765-67頃	キャンヴァス、油彩	98.4×125.8
13	ギュスターヴ・クールベ 1819-1877	ピュイ・ノワールの溪流	1865	キャンヴァス、油彩	75.0×90.0
<b>ブーシェとその時代</b>					
14	ユベール・ロバール 1733-1808	ユピテル神殿、ナポリ近郊ボッツオーロ	1761	板、油彩	39.1×43.8
15	フランソワ・ブーシェ 1703-1770	石橋のある風景	1764	油彩、キャンヴァス	56×80
16	ク	水車のある風景	1764	油彩、キャンヴァス	61×78.8
17	マルグリット・ジェラール 1761-1837	鳩とともにいる少女 ★		キャンヴァス、油彩	61.3×50.2
18	ルイ・ガブリエル・モロー 1740-1806	モンマルトル修道院の破壊 ★		キャンヴァスに貼られた紙、油彩	64.5×48
19	ルイ=ジャン=フランソワ・ラグルネ 1725-1805	二羽の鳩を見る浴女 ★	1769	キャンヴァス、油彩	70.2×90.1
<b>小さき画面への愛</b>					
20	アレクサンドル=イアサント・デュスイ 1757-1841	パリ、マドレーヌ大通りの窓からの眺め	1798-1805	板、油彩	20×27
21	ジョン・コンスタブル 1776-1837	ハムステッド・ヒースの木立、日没	1821	キャンヴァスに貼られた紙、油彩	25.2×29.2
22	サミュエル・パーマー 1805-1881	ケント州、アンダーリヴァーのホップ畑	1833-34頃	板、油彩、テンペラ	19.0×26.0
23	テオドル・ルソー 1812-1867	ジュラ地方、草葺き屋根の家	1834頃	キャンヴァスに貼られた紙、油彩	22.9×32.1
<b>芸術への愛—近代の実験</b>					
24	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー 1775-1851	パランツァ、マジョーレ湖	1846-48頃	紙、水彩	36.8×54.0

No.	作者名/生没年	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)
25	ジャン＝バティスト＝カミュー・コロ 1796-1875	メリ街道、ラ・フェルテ＝ス＝ジュアール付近	1862	板、油彩	40.5×54.0
26	ヨーハン＝バルトールト・ヨンキン 1819-1891	オンフルール近郊の街道	1866	キャンヴァス、油彩	58.4×78.4
27	クロード・モネ 1840-1926	ルーアンのセヌ川	1872	キャンヴァス、油彩	49.2×76.2
28	カミュー・ピサロ 1830-1903	ポントワーズ、ライ麦畑とマチュランの丘	1877	キャンヴァス、油彩	60.3×73.7
29	ポール・セザンヌ 1839-1906	ジャ・ド・ブーフアンの大樹	1885-87	紙、水彩、鉛筆	32.5×50.0
30	ポール・シニャック 1863-1935	サン＝トロバ、グリモアの古城	1899	キャンヴァス、油彩	73.0×91.7
31	モーリス・ド・ヴラマンク 1876-1958	小麦畑と赤い屋根の家	1905	キャンヴァス、油彩	60.0×73.0
32	ワシリー・カンディンスキー 1866-1944	《冷たいかたちのある即興》 のための習作	1914頃	紙、水彩、グワッシュ、 鉛筆	33.0×24.0
33	ジョアン・ミロ 1893-1983	シウラナの教会	1917	キャンヴァス、油彩	46.3×55.1
34	パウル・クレー 1879-1940	ホールC. エントランスR 2	1920	厚紙に貼られた洋紙、 油彩	20.0×45.0
35	ハイム・スーチン 1894-1943	カーニュ風景	1923	キャンヴァス、油彩	60.0×72.4

身近な風景／理想の山水－日本近世の絵画－

36	大久保一丘 ?-1859 (?-安政6)	富嶽明暁図	19世紀前半 (江戸後期)	掛幅装	95.2×48.9
37	原在中 1750-1837 (寛延3-天保8)	富士三保松原図	1822 (文政5)	掛幅装	40.9×100.8
38	谷文晁 1763-1840 (宝暦13-天保11)	富士山図屏風	1835 (天保6)	六曲一隻屏風	163.1×363.2
39	山本探川 1721-1780 (享保6-安永9)	宇津の山図	1755-69 (宝暦5-明和6)	二曲一隻屏風	163.5×175.0
40	歌川広重 1797-1858 (寛政9-安政5)	東海道五拾三次(保永堂版) より	1833 (天保4) 頃	大判錦絵	25.2×37.1
41	池大雅 1723-1776 (享保8-安永5)	龍山勝会・蘭亭曲水図 ＜重要文化財＞	1763(宝暦13)	六曲一双屏風	各158.0× 358.0
42	池玉瀾 1727-1784 (享保12-天明4)	溪亭吟詩図	18世紀 (江戸中期)	掛幅装	58.0×125.0
43	呉春 1752-1811 (宝暦2-文化8)	柳陰帰漁図	1783 (天明3)	二曲一隻屏風	161.3×183.0
44	谷文晁 1763-1840 (宝暦13-天保11)	連山春色図	1797 (寛政9)	掛幅装	154.4×91.3
45	浦上玉堂 1745-1820 (延享2-文政3)	抱琴訪隠図	1813 (文化 10) 頃	掛幅装	112.0×62.8
46	浦上春琴 1779-1846 (安永8-弘化3)	兢秀争流図	1830(文政13)	掛幅装	55.6×121.0

日本の情景－明治・大正・昭和－

47	下村観山 1873-1930 (明治6-昭和5) 横山大観 1868-1958 (明治元-昭和33)	日・月蓬莱山図	1900 (明治33) 頃	掛幅装	各98.0× 154.0
48	秋野不矩 1908-2001 (明治41-平成13)	天竜川	1935(昭和10)	額装	43.7×55.0
49	福田平八郎 1892-1974 (明治25-昭和49)	雪庭	1958(昭和33)	額装	56.0×81.0
50	中村岳陵 1890-1969 (明治23-昭和44)	残照	1961(昭和36)	額装	94.5×120.0
51	チャールズ・ワーグマン 1832-1891 (天保3-明治24)	富士遠望図	1876 (明治9) 以降	キャンヴァス、油彩	41.2×76.2
52	ジョルジュ・ピゴ 1860-1927 (万延元-昭和2)	富士(沼津江浦)	1885-1887頃 (明治18-20頃)	板、油彩	24×58

No.	作者名/生没年	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)
53	東城鉦太郎 1865-1929 (慶応1-昭和4)	山家の春	1910(明治43)	キャンヴァス、油彩	40.5×60.5
54	中澤弘光 1874-1964 (明治7-昭和39)	風景 (秋の湖畔)	1919 (大正8)	キャンヴァス、油彩	137×212
55	柏木俊一 1894-1971 (明治27-昭和46)	海と畑と森	1934 (昭和9)	キャンヴァス、油彩	73.0×100.0
56	児島善三郎 1893-1962 (明治26-昭和36)	箱根	1937頃 (昭和12頃)	キャンヴァス、油彩	90.7×115.2
57	須田国太郎 1891-1961 (明治24-昭和36)	筆石村	1938(昭和13)	キャンヴァス、油彩	97.0×145.5
58	赤城泰舒 1889-1955 (明治22-昭和30)	雲 (折原)	1945頃 (昭和20頃)	紙、水彩	38.2×56.7
59	岡鹿之助 1898-1978 (明治31-昭和53)	観測所	1951(昭和26)	キャンヴァス、油彩	65.1×80.3
60	小糸源太郎 1887-1978 (明治20-昭和53)	春雪	1953(昭和28)	キャンヴァス、油彩	83.0×116.0
61	曾宮一念 1893-1994 (明治26-平成6)	毛無連峯	1970(昭和45)	キャンヴァス、油彩	53.0×72.7
62	小林和作 1888-1974 (明治21-昭和49)	秋山	1972(昭和47)	キャンヴァス、油彩	72.8×91.0

No.	作者名/生没年	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	撮影場所
写真が写し取る風景						
63	北井一夫 1944 (昭和19) 年 -	村へ	1974(昭和49)	ゼラチンシルバープリント	25.3×37.7	岡山
64	〃	〃	1981(昭和56)	〃	24.8×37.2	新潟
65	〃	〃	1973(昭和48)	〃	25.2×37.7	宮城
66	〃	〃	1975(昭和50)	〃	25.1×37.4	岩手
67	〃	〃	1977(昭和52)	〃	25.3×37.8	長崎
68	〃	〃	1974(昭和49)	〃	25.3×37.7	秋田
69	〃	〃	1974(昭和49)	〃	37.6×25.4	岡山
70	〃	鳥虫戯画	1994 (平成6)	〃	25.5×37.7	高知
71	〃	〃	1995 (平成7)	〃	25.4×37.7	広島
72	〃	〃	1994 (平成6)	〃	25.3×37.7	滋賀
73	〃	おてんき	1989(平成元)	〃	25.4×37.7	群馬
74	〃	〃	1991 (平成3)	〃	25.5×37.6	岐阜
75	〃	沖縄放浪	1971(昭和46)	〃	19.0×28.9	沖縄
76	〃	〃	1971(昭和46)	〃	18.6×29.2	沖縄
77	〃	〃	1971(昭和46)	〃	19.0×29.2	沖縄
78	〃	〃	1971(昭和46)	〃	18.8×28.9	沖縄
79	〃	〃	1971(昭和46)	〃	18.3×28.2	沖縄
80	〃	〃	1971(昭和46)	〃	19.0×29.2	沖縄
81	〃	三里塚	1971(昭和46)	〃	25.3×37.6	千葉
82	〃	〃	1970(昭和45)	〃	25.8×37.6	千葉
83	〃	〃	1969(昭和44)	〃	37.7×25.3	千葉
84	〃	〃	1971(昭和46)	〃	25.3×37.7	千葉
85	〃	〃	1970(昭和45)	〃	25.7×37.7	千葉

No.	作者名/生没年	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	撮影場所
86	北井一夫 1944 (昭和19) 年 -	1973中国	1973(昭和48)	〃	19.0×29.5	蘇州
87	〃	〃	1973(昭和48)	〃	19.0×29.4	北京
88	〃	〃	1973(昭和48)	〃	19.5×28.9	上海
89	〃	〃	1973(昭和48)	〃	19.0×29.5	蘇州
90	〃	〃	1973(昭和48)	〃	19.5×28.7	北京
91	〃	〃	1973(昭和48)	〃	19.1×27.4	上海
92	〃	〃	1973(昭和48)	〃	19.1×29.5	北京
93	〃	〃	1973(昭和48)	〃	19.5×28.8	蘇州
94	〃	〃	1973(昭和48)	〃	19.0×29.3	北京
95	〃	〃	1973(昭和48)	〃	19.0×29.3	上海
96	〃	〃	1973(昭和48)	〃	19.0×29.5	上海
97	〃	〃	1973(昭和48)	〃	18.5×27.8	北京
98	〃	〃	1973(昭和48)	〃	18.6×29.5	北京
99	森山大道 1938 (昭和13) 年 -	津軽海峡	1980頃 (昭和55頃)	ゼラチンシルバープリント	20.5×39.7	津軽海峡
100	〃	〃	1980頃 (昭和55頃)	〃	20.5×29.6	函館
101	〃	五所川原	1976(昭和51)	〃	27.5×41.1	五所川原(青森)
102	〃	〃	1976(昭和51)	〃	27.6×40.8	五所川原(青森)
103	〃	〃	1976(昭和51)	〃	27.8×41.5	五所川原(青森)
104	〃	〃	1976(昭和51)	〃	27.7×41.5	五所川原(青森)
105	〃	〃	1976(昭和51)	〃	27.5×40.9	五所川原(青森)
106	〃	〃	1976(昭和51)	〃	27.8×41.6	五所川原(青森)
107	〃	東京	1980頃 (昭和55頃)	〃	32.7×40.0	東京
108	〃	〃	1980頃 (昭和55頃)	〃	32.4×40.0	東京
109	〃	〃	1980頃 (昭和55頃)	〃	32.4×40.0	東京
110	〃	〃	1980頃 (昭和55頃)	〃	32.3×40.0	東京
111	〃	〃	1980頃 (昭和55頃)	〃	18.3×27.5	東京
112	〃	〃	1977~79 (昭和52~54)	〃	32.6×40.2	東京
113	〃	〃	1977(昭和52)	〃	40.0×32.6	東京
114	〃	犬の時間	1968(昭和43)	〃	27.1×39.8	東京
115	〃	何かへの旅	1971(昭和46)	〃	28.2×35.2	三沢(青森)

\* 「写真が写し取る風景」の出品作品は全て個人蔵。また、「ブーシェとその時代」の★印がついた3作品の所蔵先は、下記のとおり。  
個人蔵 Private Collection, courtesy of Wildenstein Tokyo Ltd. 他はすべて当館蔵。

# 帰ってきた江戸絵画 ニューオーリンズ ギッター・コレクション展

※出品リストには、作者の生没年を初出のみに記した。また、生没年が不明なものは—で表した。

No	タイトル	作者	生没年	員数	技法	法量 (縦×横×高) cm	時代
1	だるま ず 達磨図	いとうじゃくちゆう むせんじようぜん 伊藤若冲／無染浄善賛	1716-1800	一幅	紙本墨画	109.6×58.8	宝暦期(1751-64) 頃
2	かんざんじつとく ず 寒山拾得図	いとうじゃくちゆう むせんじようぜん 伊藤若冲／無染浄善賛		一幅	紙本墨画	39.9×58.6	宝暦11年(1761)
3	かんざんじつとく ず 寒山拾得図	いとうじゃくちゆう ろしゅうえんしやう 伊藤若冲／廬秀衍鐘賛		双幅	紙本墨画	104.1×29.2	18世紀後半
4	こい ず 鯉図	いとうじゃくちゆう むせんじようぜん 伊藤若冲／無染浄善賛		一幅	紙本墨画	99.5×28	宝暦期(1751-64) 頃
5	げつばい ず 月梅図	いとうじゃくちゆう 伊藤若冲		一幅	紙本墨画	89.3×31.9	寛政12年(1800)
6	つる ず 鶴図	いとうじゃくちゆう 伊藤若冲		一幅	紙本墨画	108.2×36	18世紀後半
7	はくぞう ず 白象図	いとうじゃくちゆう 伊藤若冲		一幅	紙本墨画	120.9×56.8	寛政7年(1795)
8	うじまんぶくじ ず 宇治万福寺図	いとうじゃくちゆう けんざんじん 伊藤若冲／兼山人賛		一幅	紙本墨画	101.6×28.4	18世紀後半
9	にろうじん ず 二老人図	そがしやうはく 曾我蕭白	1730-81	二曲一隻	紙本墨画	169.4×174	18世紀後半
10	かんざんじつとく ず 寒山拾得図	そがしやうはく ぎやうしやうぞうかん 曾我蕭白／堯州宗寛賛		一幅	紙本墨画	30.6×68	18世紀後半
11	らんでいきよくすい ず 蘭亭曲水図	そがしやうはく 曾我蕭白		一幅	紙本墨画	129.2×56.7	18世紀後半
12	つき くも ず 月に雲図	ながさわろ せつ 長澤蘆雪	1754-1799	一幅	絹本着色	52×80.5	寛政(1789-1801) 後期
13	うかい ず 鵜飼図	ながさわろ せつ 長澤蘆雪		襖二面	絹本着色	23×51.7	寛政(1789-1801) 後期
14	つき たけ ず 月に竹図	ながさわろ せつ 長澤蘆雪		一幅	絹本墨画	101.2×36.5	寛政(1789-1801) 後期
15	うし わらべ ず 牛に童図	ながさわろ せつ 長澤蘆雪		一幅	紙本着色	139.7×56	寛政(1789-1801) 前期
16	せきへき ず 赤壁図	ながさわろ せつ 長澤蘆雪		一幅	絹本淡彩	141.5×57	寛政(1789-1801) 後期
17	うずまさまつり ず 太秦祭図	いけのたい が 池大雅	1723-76	一幅	紙本墨画	119.5×57.5	18世紀後半
18	りゅう こ ず 龍虎図	ちやうおうぶんとく 徹翁文徳	-	六曲一双	紙本墨画	各161×334	嘉永2年(1849)
19	くまの ざんげい まん だら ず 熊野参詣曼荼羅図	作者不詳		一幅	紙本着色	152.1×164.5	17世紀前半
20	しすい ず 四睡図	たわら や そうたつ 俵屋宗達	-	一幅	紙本墨画	95.9×51.6	17世紀前期
21	かも あやめ ず 鴨に菖蒲図	たわら や そうたつ 俵屋宗達		一幅	紙本着色	102.9×48.7	17世紀前期
22	しゅん か そう か ず 春夏草花図	わたなべ し こう 渡辺始興	1683-1755	一幅	絹本着色	98.7×37.4	18世紀
23	あさがお ず 朝顔図	たてばやし か げい 立林何昂	-	扇面	紙本着色	18×48	18世紀中期
24	つきなみくさばな ず 月次草花図	なかむらほうちゆう 中村芳中	?-1819	二曲一双(扇 面貼交屏風)	紙本着色	各166.4×183.4	文化期(1804-18) 頃
25	あさひ し きくさばな ず 朝陽に四季草花図	さかい ほういつ か ざんいんましのり 酒井抱一／花山院愛徳賛	1761-1828	三幅対	絹本着色	各104.4×40.9	文政4-11年(1821- 28)
26	しゅうとうそう か ず 秋冬草花図	さかい ほういつ 酒井抱一	1761-1829	一幅	絹本着色	114×44.3	文政(1818-30)中- 後期
27	ほうらいざん ず 蓬莱山図	すず き き かつ 鈴木其一		一幅	絹本着色	109.9×44.9	弘化元-安政5年 (1844-58)頃
28	い せものがたり みそぎ ず 伊勢物語・袂図	すず き き かつ 鈴木其一	1796-1858	一幅	絹本着色	111.4×42.2	弘化元-安政5年 (1844-58)頃
29	あきくさ ず 秋草図	すず き き かつ 鈴木其一		一幅	絹本着色	97×30.8	弘化元-安政5年 (1844-58)頃
30	べにかえで ず 紅楓図	さかい ほう 酒井鶯蒲	1808-1841	一幅	絹本着色	115.6×41.4	文政(1818-30)後 期-天保(1830-44) 中期

No	タイトル	作者	生没年	員数	技法	法量 (縦×横×高) cm	時代
31	いちょうつきぎ 銀杏に月図	さかいおうほ 酒井鶯蒲		一幅	絹本着色	109.5×32.6	文政(1818-30)後 期-天保(1830-44) 中期
32	りんぶず 輪舞図	かみさかせつ か 神坂雪佳	1866-1942	六曲一隻	紙本金地着色	76.9×230.2	明治(1868-1912) 末-大正(1912-26) 初頃
33	あきくさばなず 秋草花図	かみさかせつ か 神坂雪佳		一幅	絹本着色	129.5×70	大正(1912-26)後 期
34	ももよぐさ 『百々世草』	かみさかせつ か 神坂雪佳		三冊	多色摺木版	各29.8×22	明治42-43年刊 (1909-10)
35	たけずたな 竹図棚	かみさかせつ か 神坂雪佳			木・漆/ 金蒔絵	61.8×69.5×40.4	大正7年(1918)
36	だるま 達磨図	はくいんえかく 白隠慧鶴	1685-1769	一幅	紙本墨画	130.8×55.2	宝暦期(1751-64)
37	ほていず 布袋図	はくいんえかく 白隠慧鶴		一幅	紙本墨画	97×28.5	宝暦(1751-64)後 期-明和(1764-72) 初期
38	かんのんず 観音図	はくいんえかく 白隠慧鶴		一幅	紙本着色	44.2×13.9	宝暦期(1751-64)
39	はまぐり 観音図	はくいんえかく 白隠慧鶴		一幅	紙本墨画	87.5×26.8	宝暦期(1751-64)
40	しちふくじんず 七福神図	はくいんえかく 白隠慧鶴		一幅	紙本墨画淡彩	57.8×89.4	宝暦(1751-64)後 期-明和(1764-72) 初期
41	だんせんず 団扇図	はくいんえかく 白隠慧鶴		一幅	紙本墨画	32.7×44.7	宝暦期(1751-64)
42	いちふじにたかさ 一富士二鷹三なすび図	はくいんえかく 白隠慧鶴		一幅	紙本墨画	54.4×156	宝暦期(1751-64)
43	とく(徳)しよ 「徳(徳)」書	はくいんえかく 白隠慧鶴		一幅	紙本墨書	117.3×55.2	明和(1764-72)初 期
44	てんしよひやくじゆ 篆書百寿	はくいんえかく 白隠慧鶴		一幅	紙本墨書	124.1×54.3	明和4年(1767)
45	ころろず 五老図	いけのたいが 池大雅		一幅	紙本墨画 (指頭画)	128.3×28.4	寛延元年(1748)
46	だるま 達磨図	まるやまおうきよ 円山応挙	1733-95	一幅	紙本墨画	72.7×29.1	18世紀後半
47	だいとうこくし 大燈国師図	しゆんそうじゆ 春叢紹珠	1751-1839	一幅	紙本墨画	120×55	19世紀前半
48	あくびほていず 欠伸布袋図	せんがいぎほん 仙厓義梵	1750-1837	一幅	紙本墨画	29.5×48.4	19世紀前半
49	りゅうず 龍図	やまおかてつしゅう 山岡鉄舟	1836-88	一幅	紙本墨画	44.5×60.3	19世紀後半
50	だるま 達磨図	なかほらなんてんぼう 中原南天棒	1839-1925	一幅	絹本墨画	92.2×40.6	大正6年(1917)
51	たくはつそうぎょうれつず 托鉢僧行列図	なかほらなんてんぼう 中原南天棒		双幅	紙本墨画	各129.5×30	大正13年(1924)
52	たくはつそうぎょうれつず 托鉢僧行列図	なかほらなんてんぼう 中原南天棒		一幅	紙本墨画	65.5×31.5	大正12年(1923)
53	まつざくらりゅうすいず 松に桜流水図	作者不詳		六曲一隻	紙本金地着色	150.1×356.9	17世紀初
54	ぼくちくず 墨竹図	やなぎさわきえん 柳沢淇園	1704-58	一幅	絹本墨画	101.6×31.75	18世紀
55	らんず 蘭図	いけのたいが かんてんじゆ 池大雅/韓天寿賛		一幅	紙本墨画	119×41.5	18世紀後半
56	うしず 牛図	まるやまおうきよ 円山応挙		一幅	紙本墨画	19×47.3	18世紀後半
57	まつとらず 松に虎図	げんき 源琦	1747-97	一幅	絹本着色	94.2×34.5	寛政7年(1795)
58	ざくらからすず 桜に鴉図	げんき 源琦		一幅	絹本着色	125.1×57.1	寛政7年(1795)
59	ぐんかくず 群鶴図	わたなべなんかく 渡辺南岳	1767-1813	二曲一隻	紙本金地着色	169×181	寛政8年(1796)
60	そうろくず 双鹿図	こしゆん 呉春	1752-1811	一幅	絹本着色	42.6×68.8	安永6年(1777)
61	そうあず 双鴉図	きばいてい 紀棟亭	1734-1810	一幅	紙本墨画	110.5×28.5	18世紀末-19世紀 初

No	タイトル	作者	生没年	員数	技法	法量 (縦×横×高) cm	時代
62	すいりゅうしらぎぎず 翠柳白鷺図	やまもとばいいつ 山本梅逸	1783-1856	一幅	紙本着色	131.1×55.6	19世紀前半
63	しきくまばなず 四季草花図	やまもとばいいつ 山本梅逸		六曲一双	紙本着色	167.2×372	19世紀前半
64	ふじまつくらず 富士に松桜図	たにぶんちよう 谷文晁	1763-1841	一幅	絹本着色	56×94	19世紀前半
65	なはなちようず 菜の花に蝶図	たにぶんちよう 谷文晁		一幅	紙本着色	100.6×27	19世紀前半
66	くまばなず 草花図	つばきちんざん 椿 椿山	1801-1854	三幅対	絹本着色	各37×26.5	弘化4年(1847)
67	つきよやなぎれんかず 月夜柳に蓮花図	つばきちんざん 椿 椿山		一幅	絹本着色	156.9×84	嘉永5年(1852)
68	さんすいず 山水図	うんこくとうえき 雲谷等益	1591-1644	双幅	紙本墨画	117.5×50	17世紀前半
69	ふじせいぎようず 富士清暁図	にわかげん 丹羽嘉言	1742-86	一幅	絹本淡彩	28.4×85.2	明和9年(1772)
70	ふじみほず 富士三保図	いけのたいが 池 大雅		一幅	紙本墨画	28.5×61.3	18世紀後半
71	こけいず 湖景図	いけのたいが 池 大雅		六曲一隻	紙本着色	143.7×353.4	18世紀後半
72	せいこさんすいず 西湖山水図	いけのたいが 池 大雅		一幅	紙本墨画	82.9×19.2	宝暦2年(1752)頃
73	さんすい いなだず 山水に稲田図	いけのたいが 池 大雅		一幅	紙本墨画	131.2×43	18世紀後半
74	ゆういさんすいず 幽意山水図	とときばいがい 十時梅屋	1749-1804	一幅	紙本墨画	154.5×83	享和2年(1802)
75	かきさんすいず 夏景山水図	よさぶせん 与謝蕪村	1716-83	一幅	絹本淡彩	63.5×44.3	明和9年(1772)
76	しゅんけいさんすいず 春景山水図	よさぶせん 与謝蕪村		一幅	絹本淡彩	37×50.6	安永6-天明3年 (1777-83)
77	かんざんこうりよず 寒山行旅図	よさぶせん 与謝蕪村		一幅	紙本淡彩	119.5×30.5	安永6-天明3年 (1777-83)
78	しゅうとうさんすいず 秋冬山水図	よこい きんこく 横井金谷	1761-1832	一幅	紙本淡彩	159.4×83.7	文化7年(1810)
79	さんすいず 山水図	おかだはんこう 岡田半江	1782-1846	扇面	紙本淡彩	18.4×59.3	19世紀前半
80	かふくきんしょうず 火伏金生図	うらかみぎよくどう 浦上玉堂	1745-1820	一幅	紙本墨画	26.3×29.8	文化11年(1814)
81	しゅんうんもこず 春雲模糊図	うらかみぎよくどう 浦上玉堂		一幅	絹本淡彩	45×33.7	文化(1804-18)後期
82	さんすいず 山水図	たにぶんちよう 谷文晁		六曲一双	紙本金地墨画	各174×352.2	文政11年(1828)
83	しゅうけいさんすいず 秋景山水図	たにぶんちよう 谷文晁		一幅	紙本墨画	53.5×96	寛政7年(1795)
84	さんすいず 山水図	かめだぼうさい 亀田鵬斎	1752-1826	双幅	紙本淡彩	右174.5/左173.5 ×95.2	文化7年(1810)
85	さんすいず 山水図	ふじもとてつせき 藤本鉄石	1817-63	一幅	紙本着色	194.2×119.8	安政5年(1858)
86	さんすいず 山水図	ふくだこどうじん 福田古道人	1865-1944	一幅	紙本墨画	137.5×67.3	大正2年(1913)
87	さいうんじょう ぱくうんじょう 彩雲帖・白雲帖	ふくだこどうじん 福田古道人		二帖	絹本着色/ 絹本墨画	各32×40.3	20世紀前半
88	らくちゅうらくがいず 洛中洛外図	でん と さ だいじょうげん 伝土佐大掾 元庸		六曲一双	紙本金地着色	各166.4×373.4	17世紀後期
89	げんじものがたり ゆうがお うきふね ず 源氏物語(夕顔・浮舟) 図	作者不詳		六曲一隻	紙本金地着色	153.3×376	17世紀
90	はなみゆうらくず 花見遊楽図	作者不詳		六曲一隻	紙本着色	97.2×261.2	享保期(1716-36)
91	たちびじんず 立美人図	たきざわしげのぶ 滝沢重信	-	一幅	紙本着色	103.5×43	享保(1716-36)前期
92	いろこず 色子図	かわまたつねゆき 川又常行	1677?-?	一幅	紙本着色	87.6×26.4	享保(1716-36)後期-寛保期(1741-44)
93	のうりようびじんず 納涼美人図	かわまたつねまさ 川又常正	-	一幅	紙本着色	37.8×56	寛延-宝暦期 (1748-64)



No	タイトル	作者	生没年	員数	技法	法量 (縦×横×高) cm	時代
94	えんそうかんじょ 円窓官女図	ちょうぶんさいえいし 鳥 文斎栄之	1756-1829	一幅	絹本着色	82.6×28.7	寛政(1789-1801) 後期
95	のうりょうびじんず 納涼美人図	うたがわとよひろ 歌川豊広	1765?-1829	一幅	絹本着色	99.5×27	文化(1804-18)前期
96	さんばしびじんず 棧橋美人図	うたがわよしひろ 歌川芳広	-	一幅	絹本着色	71×26.5	文化期(1804-18)
97	びじんみたてしのうこうしょうず 美人見立土農工商図	うたがわくにさだ 歌川国貞	1786-1864	双幅	絹本着色	各125.5×54.1	天保(1830-44)後期
98	かものがわのうりょうず 鴨川納涼図	やまぐちそけん 山口素絢	1759-1818	一幅	絹本着色	50.1×71.6	18世紀後半-19世紀前半
99	すずかとうげやどぎず 鈴鹿峠宿り木図	やまぐちそけん 山口素絢		一幅	絹本着色	107×42.2	18世紀後半-19世紀前半
100	ふみよげいしやず 文読む芸者図	ぎおんせいとく 祇園井特	1755?-1823	一幅	絹本着色	113×41.4	享和(1801-04)- 文化(1804-18)前期
101	じろうじんず 二老人図	よさぶそん 与謝蕪村		双幅	紙本淡彩	各128.3×56	安永6-天明3年 (1777-83)
102	おくほそみちず 奥の細道図	よさぶそん 与謝蕪村		扇面	紙本淡彩	18.1×48.1	安永6-8年 (1777-79)頃か
103	へいけものがたりまつよい 平家物語(待宵の小侍従)図	こしじゆうず 呉 春		一幅	紙本着色	122×28.5	18世紀後半
104	つれづれくさ 徒然草(第三十一段)図	こしじゆうず 呉 春		一幅	紙本着色	115.9×28.3	18世紀後半
105	ぶんじんさくがず 文人作画図	たちばらきやうしよ 立原杏所	1785-1840	一幅	紙本墨画	29.5×31	文化3年(1806)
106	ゆうりふうぞくず 遊里風俗図	とみたけいせん 富田溪仙	1879-1936	六曲一双 (貼交屏風)	紙本淡彩	各126.0×35	昭和初期頃か
107	ひょうたんさけさんか 瓢箪と酒賛歌	かめだぼうさい 亀田鵬斎		一幅	紙本墨画	129.5×47	文政3年(1820)

\*No.106は、2月23日～3月6日の間、未展示。

## 収蔵品展

### New コレ しずおか

平成22年 4月1日～5月16日

No.	作者名	作品名
<b>「日本画の名品」</b>		
1	雲谷等顔	春夏山水図<重要文化財>○
New 2		武蔵野図屏風 ▲
New 3	久隅守景	蘭亭曲水図屏風
New 4	狩野永岳	四季耕作図屏風
5	中山高陽	白梅に錦鶏図
6	石田幽汀	群鶴図屏風
7	長澤蘆雪	牡丹孔雀図
<b>「静岡ゆかりの作家たち」</b>		
1	徳川慶喜	風景
2	平木政次	富士 ▲
3	五姓田義松	富士 ▲
4	川村清雄	波
5	曾宮一念	工部大学
6	曾宮一念	自画像
7	曾宮一念	風景
8	曾宮一念	種子静物
9	曾宮一念	スペインの野
10	曾宮一念	毛無連峯
11	栗原忠二	セントポール
12	栗原忠二	ロンドン郊外
13	和田英作	富士 ▲
14	柏木俊一	海と畑と森
15	青木達弥	薄
16	北川民次	風景
17	鳥戸繁	静かな漁港
18	鳥戸繁	社頭残雪
New 19	中村 宏	車窓篇 TYPE4
New 20	中村 宏	早来迎機・1
New 21	中村 宏	鉄道ダイアグラム E
New 22	柳澤紀子	水邊の庭 I (前期)

New 23	柳澤紀子	水邊の庭 II (前期)
New 24	柳澤紀子	水邊の庭 III (前期)
New 25	柳澤紀子	水邊の庭 IV (前期)
New 26	柳澤紀子	水邊の庭 V (前期)
New 27	柳澤紀子	水邊の庭 VI (後期)
New 28	柳澤紀子	水邊の庭 VII (後期)
New 29	柳澤紀子	水邊の庭 VIII (後期)
New 30	柳澤紀子	水邊の庭 IX (後期)
New 31	柳澤紀子	水邊の庭 X (後期)
New 32	柳澤紀子	水邊の庭I '01
New 33	二見彰一	版画集『お茶のひとつとき』
New 34	二見彰一	版画集『コーヒー・クインテット』

### 「昭和40年代生まれの作家たち」

1	石田徹也	飛べなくなった人
2	石田徹也	無題6
New 3	正木 隆	狭山9月
New 4	正木 隆	造形01-14
5	小西真奈	浄土2 ○
6	嵯峨篤	Repose/009-017 *
New 7	小谷元彦	SPI 'Beginning' ( The Whorl of Lanugo 01)
New 8	小谷元彦	SPI 'Beginning' ( The Whorl of Lanugo 02)
New 9	小谷元彦	SPI 'Beginning' ( The Whorl of Lanugo 03)
10	小谷元彦	胸いっぱいのお愛を
11	加藤泉	無題 ○
12	加藤泉	無題 *

### 名品コーナー

1	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川
2	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女
3	ポール・シニャック	サン＝トロペ、グリモアの古城

※“New”は新収蔵作品です。  
 ※○は寄託品、\*は個人所蔵作品です。  
 ※▲は富士山の絵画です。

富士山の絵画2010

平成22年 5月25日～7月19日

No.	作者名	作品名
1	式部輝忠	富士八景図
2	狩野派	伊豆三津長浜より富嶽を望む図
3	狩野山雪	富士三保松原図屏風
4	狩野探幽	富士山図
5	中山高陽	八州勝地図 ○
6	墨江武禪	芙蓉峯細見之図
7	山口素絢	富嶽図
8	岸駒	芙蓉峰図
9	狩野栄信	富士三保清見寺図（雪舟画模本）□
10	横山華山	清見湯富士図
11	大岡雲峰	日金山富嶽眺望図
12	岡田半江	洋人富士山遠望図 ○
13	狩野永岳	富士山登龍図
14	ジュリアン・オピー	ひな菊の咲く国道300号からの富士山の眺め ○

名品コーナー

左	森一鳳	氷室の節供図 ▲
中	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景
右	石川欽一郎	駿河湾 ▲

※○は寄託品、□は一時預かり品です。  
※▲は富士山の絵画です。

水のある風景

平成22年 7月21日～9月12日

No.	作者名	作品名
1	狩野永納	蘭亭曲水図屏風
2	狩野探信守政	井手玉川・佐野渡図屏風
3	狩野探信守道	井出玉川・大堰川図屏風
4	吉村孝敬	李白観瀑・子猷訪戴図屏風
5	福田半香	周茂叔愛蓮図
6	山本琴谷	無逸図
7	都路華喬	松風村雨図屏風◇
8	速水御舟	芍薬図◇
9	鍋木清方	朝顔日記

10	中村岳陵	婉膩水韻
11	徳岡神泉	雨
12	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より

名品コーナー

左	難波田龍起	ミクロの世界
中	リチャード・ウィルソン	リン・ナントルからスノードンを望む
右	和田英作	富士▲

※◇は寄託品です。  
※▲は富士山の絵画です。

大きい絵

平成22年 9月14日～11月7日

No.	作者名	作品名
1	草間彌生	無題
2	モーリス・ルイス	ベス・アイン
3	ジョアン・ミッチェル	湖
4	今井俊満	東方の光 □
5	田中敦子	1985A
6	清川泰次	天と地と - 5 6
7	木下佳通代	93 - CA791
8	岡田謙三	時
9	李禹煥	風と共に □

名品コーナー

左	宋紫石	富嶽図 ▲□
中	ジュリアン・デュブレ	農場の風景 □
右	岡田岡岡もしくはオカイン	小児

※□は寄託品です。  
※▲は富士山の絵画です。

静物と人物

平成22年11月9日～平成23年1月30日

No.	作者名	作品名
1	チャールズ・ワーグマン	女性 横浜
2	ラファエル・コラン	想い
3	石川欽一郎	婦人像
4	太田喜二郎	帰り路（樵婦帰路）
5	曾宮一念	自画像

6	恩地孝四郎	裸形のくるしみⅢ
7	恩地孝四郎	裸形のくるしみⅠ
8	恩地孝四郎	裸形のくるしみⅡ
9	恩地孝四郎	キリストとマリア
10	恩地孝四郎	母と子
11	恩地孝四郎	人体
12	鶴田吾郎	余の見たる曾宮君
13	赤城泰舒	ギターを弾く少年
14	岡田岡因もしくはオカイン	小児
15	北川民次	タスコの祭
16	北川民次	雑草の如くⅢ（裸婦）
17	宮本三郎	農婦
18	海老原喜之助	かぜ
19	林武	女
20	川村清雄	静物写生
21	小出楢重	静物
22	岸田劉生	静物（リーチの茶碗と果物） ◇
23	里見勝蔵	静物
24	曾宮一念	種子静物
25	熊谷守一	ほたるぶくろ
26	香月泰男	白椿
27	香月泰男	茶の実
28	森村泰昌	批評とその愛人（1）～（7）

#### 名品コーナー

左①	青木夙夜	富嶽寒村図 ◇▲
左②	司馬江漢	駿河湾富士遠望図 ▲
中	ファン・グリス	果物皿と新聞
右	長谷川潔	南仏風景

※展示期間は、左①11/9～12/26、左②1/2～1/30  
 ※◇は寄託品です。  
 ※▲は富士山の絵画です。

#### イマジネーションの彼方へ

平成23年 2月1日～3月31日

No	作者名	作品名
1	アルブレヒト・デューラー	放蕩息子
2	ジャック・デ・ゲインⅡ世	「四大元素（全4点）」より
3	ヘンドリック・ホルツイウス	オケアヌス
4	ヘンドリック・ホルツイウス	テテュス
5	パウル・ブルル	エルミニアと羊飼いのいる風景
6	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景
7	クロード・ロラン	エウロペの掠奪
8	ジョヴァンニ・ベネデット・カステリオーネ	ジョヴァンニ・ベネデット・カステリオーネの天才
9	ステーファノ・デッラ・ベッラ	パルナッソス（哲学者の岩山）
10	サルヴァトーレ・ローザ	イアソンとドラゴン
11	ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ	「カプリッチ」より
12	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	「エジプトへの逃避」より
13	ジャン・ヴィクトル＝ベルタン	ディアナと水浴するニンフのいる古典的風景
14	ジャン・ヴィクトル＝ベルタン	ナルキッソスのいる古典的風景
15	アシル＝エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼い
16	ジョン・マーティン	ミルトン作『失樂園』より
17	ウジェーヌ・ドラクロワ	ゲーテ作『ファウスト』より
18	ロドルフ・プレスダン	エジプト逃避途上の休息
19	エドワード・ムンク	ヴァンパイア
20	ケル＝グザヴィエ・ルーセル	「風景」より
21	エルンスト・バルラッハ	「神の変容」より
22	パブロ・ピカソ	ダヴィデとバテシバ
23	エリック・デマジエール	想像の街Ⅱ

#### 名品コーナー

左①	狩野探幽	富士山図 ▲
左②	狩野探幽	富士・育王山・径山寺図 □ ▲
中	ハイム・スーチン	カーニユ風景
右	小糸源太郎	春雪

※展示期間は、左①2/1～3/6、左②3/8～4/3  
 ※□は寄託品です。  
 ※▲は富士山の絵画です。

## 移動美術展

### 川根本町移動美術展

#### 心にしみる風景－富士山と静岡ゆかりの作家たち

No.	作者名	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)	備考
1	鈴木慶則	非在のタブロー (キリコによる)	1967(昭和42)	キャンヴァス、油彩、木	101.8×82.0×8.0, イーゼル251.2×85.4	
2	前田守一	遠近のものさし	1967(昭和42)	木、塗料	65.8×499.7×4.3cm (広げた状態)	
3	飯田昭二	Half and Half	1969(昭和44)	鳥かご、ピンポン球、鏡	19.3×20×20.1	
4	飯田昭二	Half and Half	1969(昭和44)	鳥かご、木、鏡	19.4×20×20.2	
5	歌川広重	不二三十六景より	1852(嘉永5)	紙、木版、色摺	17.8×25.0ほか	
6	歌川貞秀	大日本富士山絶頂之図	1857(安政4)	紙、木版、色摺(三枚続)	各37.8×25.7	
7	歌川芳幾	富士山北口女人登山之図	1860(万延1)	紙、木版、色摺(三枚続)	各36.0×25.1	
8	横山大観	富士山	1950-55 (昭和25-30)頃	絹本着色	58.7×73.7	
9	近藤浩一路	富士山	1955(昭和30年)頃	紙本墨画	65.1×72.2	
10	平木政次	富士	1897(明治30)	キャンヴァス、油彩	44.0×67.0	
11	五姓田義松	富士	1905(明治38)	キャンヴァス、油彩	46.8×101.5	
12	川村清雄	風景	1920年代 (大正末-昭和初)	キャンヴァス、油彩	53.0×80.3	
13	和田英作	富士	1918(大正7)	キャンヴァス、油彩	60.6×80.2	
14	石川欽一郎	駿河湾	1939(昭和14)頃	絹、水彩	53.0×64.5	
15	小林清親	東京新大橋雨中図	1876(明治9)	紙、木版、色摺	24.2×35.8	
16	小林清親	海運橋 (第一銀行雪中)	1876(明治9)	紙、木版、色摺	24.4×36.5	
17	小林清親	高輪牛町朧月景	1879(明治12)	紙、木版、色摺	24.5×36.7	
18	小林清親	橋場の夕暮	1880(明治13)	紙、木版、色摺	23.8×35.0	
19	小林清親	神田八雲神社暁	1880(明治13)	紙、木版、色摺	24.2×35.9	
20	小林清親	浅草夜見世	1881(明治14)	紙、木版、色摺	24.8×36.3	
21	柏木俊一	道	大正時代	キャンヴァス、油彩	37.5×45.5	
22	栗原忠二	セントポール	1916(大正5)頃	キャンヴァス、油彩	80.0×100.0	
23	川村清雄	波	1913頃-27 (大正2頃-昭和2)	キャンヴァス、油彩	60.6×152.0	
24	青木達弥	薄	1941(昭和16)	キャンヴァス、油彩	116.8×91.0	
25	高島達四郎	伊豆下田港	1976(昭和51)	キャンヴァス、油彩	53.0×65.3	
26	中村岳陵	かきつばた	1954(昭和29)	絹本着色	60.0×73.7	
27	中村岳陵	写生画 より	1964(昭和39)	紙本着色	24.7×33.7	
28	山口源	能役者	1958(昭和33)	紙、木版	86.5×47.0	
29	山口源	湧玉池	1945(昭和20)	紙、木版	24.5×18.1	
30	小泉癸巳男	神宮外苑絵画館	1935(昭和10)	紙、木版	30.5×40.3	

No.	作者名	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)	備考
31	小泉癸巳男	冬の猿橋	1938-41 (昭和13-16)	紙、木版	32.8×25.9	
32	中川雄太郎	巴川の夕景	1931(昭和6)	紙、木版	19.2×28.4	
33	北川民次	風景	1944(昭和19)	キャンヴァス、油彩	72.8×60.8	
34	北川民次	メキシコの女	1956(昭和31)	紙、リトグラフ	37.0×32.0	
35	北川民次	母子像	1957(昭和32)	紙、リトグラフ	44.5×33.5	
36	北川民次	瀬戸十景 より	1937(昭和12)	紙、リノカット	11.1×11.2	
37	曾宮一念	麦秋	1941(昭和16)	キャンヴァス、油彩	72.8×91.0	
38	曾宮一念	スペインの野	1968(昭和43)	キャンヴァス、油彩	73.0×91.0	
39	中村宏	車窓篇 TYPE 4	1977-90 (昭和52-平成2)	キャンヴァス、油彩	130×162	
40	中村宏	早来迎機・1	1988(昭和63)	キャンヴァス、アクリル	112×162	
41	柳澤紀子	水邊の庭Ⅰ	1998(平成10)	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ペランアルシュ紙に雁皮刷り	60.0×105.0	
42	柳澤紀子	水邊の庭Ⅷ	2002(平成14)	エッチング、メゾチント、アクワチント、ルーレット、手彩色、ペランアルシュ紙に雁皮刷り	50.0×102.5	
43	石田徹也	社長の傘の下	1996(平成8)	板、アクリル	103.0×145.6	
44	石田徹也	SLになった人	1995(平成7)	紙、アクリル	85.8×60.7	
45	石田徹也	引き出し	1996(平成8)	キャンヴァス、アクリル	59.4×42.0	
46	石田徹也	(無題1)	1995(平成7)頃	板、アクリル	72.8×103.0	
47	小池一誠	No.1 石	1969(昭和44)	石	約130×110×40 (展示した状態で)	
48	澤田政廣	カルラ	1973(昭和48)	ブロンズ	135×50×40	
49	金沢健一	音のかけら2	1987(昭和62)	鉄、ゴム	3.2×150.0×150.0	
50	オーギュスト・ロダン	考える人	1880 (铸造1920以前)	ブロンズ	37.2×28.6×23.6	
	伊藤若冲	《樹花鳥獸図屏風》高精細複製画	(原本) 18世紀(江戸中期)	(原本) 紙本着色	右 137.5×355.6 左 137.5×366.2	※参考出品

## 島田市博物館移動美術展 静岡県立美術館コレクション 日本画の400年～狩野派から現代絵画まで

No.	作者名	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)	備考
1	狩野探幽	瀟湘八景 より 山市晴嵐/洞庭秋月	1662-74 (寛文2-延宝2)	絹本墨画淡彩	各28.4×70.0	前期 山市晴嵐/後期 洞庭秋月
2	狩野周信	蓮池鷺図	17世紀末-18世紀初 (江戸前期)	絹本着色	95.2×38.5	
3	狩野典信	山水図	1762-80 (宝暦12-安永9)	絹本墨画金泥	118.0×44.1	
4	狩野栄信	春秋山水花鳥図	1802-16 (享和2-文化13)	絹本着色	各125.7×76.4	

No.	作者名	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)	備考
5	狩野永納	三教図	1652(承応1)	絹本着色金泥	141.1×78.5	
6	狩野永良	親子犬図	18世紀半ば (江戸中期)	絹本着色	39.5×70.8	
7	狩野永岳	三十六歌仙歌意図屏風	1830-67 (文政13-慶応3)	紙本着色金雲	各152.0×357.0	前期 右隻/ 後期 左隻
8	福田半香	溪山真楽図	1844(弘化1)	紙本墨画着色	150.5×70.9	
9	平井顕斎	山水図	1856(安政3)	紙本墨画淡彩	175.5×97.8	
10	椿椿山	花卉図	1844(天保15)	紙本淡彩	174.0×97.1	
11	山本梅逸	花卉竹石図	1833(天保4)	絹本着色	145.1×71.2	
12	中林竹洞	傲董源山水図	1834(天保5)	絹本墨画	132.0×42.6	
13	岡本秋暉	花鳥図	1860(万延1)	絹本着色	122.2×47.3	
14	富岡鉄斎	蜀國棧道図	1905(明治38)頃	絹本着色	172.7×96.0	
15	川村清雄	風景	1920年代頃 (大正末期-昭和初期)	キャンヴァス、油彩	53.0×80.3	
16	小林清親	海運橋 (第一銀行雪中)	1876(明治9)	紙、木版、色摺	24.4×36.5	前期
17	小林清親	東京新大橋雨中図	1876(明治9)	紙、木版、色摺	24.2×35.8	前期
18	小林清親	大川端石原橋	1880(明治13)	紙、木版、色摺	24.6×36.4	前期
19	小林清親	大伝馬町大丸	1881(明治14)	紙、木版、色摺	23.6×34.7	前期
20	小林清親	東京両国百本杭暁之図	1879(明治12)	紙、木版、色摺	24.4×36.0	後期
21	小林清親	御茶の水雪	1880(明治13)	紙、木版、色摺	24.6×36.4	後期
22	小林清親	本所御蔵橋	1881(明治14)	紙、木版、色摺	24.8×37.0	後期
23	小林清親	駿河湖日没の富士	1879(明治12)	紙、木版、色摺	右36.5×24.7* 左36.6×24.7	後期
24	和田英作	富士	1918(大正7)	キャンヴァス、油彩	60.6×80.2	
25	佐伯祐三	ラ・クロッシュ	1927(昭和2)	キャンヴァス、油彩	52.5×64.0	
26	曾宮一念	毛無連峯	1970(昭和45)	キャンヴァス、油彩	53.0×72.7	
27	北川民次	瀬戸十景 より (6) ろくろを回す男 (7) 山のなかの窯場	1937(昭和12)	紙、リノカット	11.1×11.2	
28	北川民次	風景	1944(昭和19)	キャンヴァス、油彩	72.8×60.8	
29	秋野不矩	たむろするクーラー	1984(昭和59)	紙本金地着色	94.5×294.0	
30	中村岳陵	磯	1965(昭和40)	絹本着色	72.8×100.0	
31	野島青茲	工房	1943(昭和18)	紙本着色	172.0×106.6	
32	鐔木清方	朝顔日記	1939(昭和14)	紙本淡彩、画帖装(十段)	詞書 24.2×33.2 ほか 絵 24.6×33.7 ほか	前後期場面替 え
33	香月泰男	冬畠	1965(昭和40)	キャンヴァス、油彩	90.9×60.6	
34	香月泰男	みもざと猫	1960年代-70年代 (昭和35-40年代) 頃	キャンヴァス、油彩	18.5×14.0	
35	香月泰男	茶の花	不詳	キャンヴァス、油彩	19.5×15.0	

No.	作者名	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)	備考
36	鳥海青児	はにわ	1958-59 (昭和33-34)	キャンヴァス、油彩	45.5×33.5	
37	鳥海青児	張家口	1939(昭和14)	キャンヴァス、油彩	41.0×53.0	
38	浅井忠	雲	1903-07 (明治36-40)	紙、水彩	28.5×44.3	
39	石川欽一郎	岡山の海岸	不詳	紙、水彩	24.2 x 32.8	
40	吉田博	籠坂	1894-99 (明治27-32)	紙、水彩	34.5×51	
41	吉田博	街道	1901-03 (明治34-36)	紙、水彩	32.7×49.5	
42	高松次郎	These Three Words	1970(昭和45)頃	紙、シルクスクリーン	63.0×26.5	
43	山口長男	脈	1968(昭和43)	合板、油彩	182.2×182.2	
44	石田徹也	飛べなくなった人	1996(平成8)	板、アクリル	103.0×145.6	
45	鈴木慶則	非在のタブロー リスク	1968(昭和43)	ミクスト・メディア (キャンバス、油彩ほか)	125.3×189.5×21.5	
46	オーギュスト・ ロダン	考える人	1880 (铸造1920以前)	ブロンズ	37.2×28.6×23.6	



## 関係法規

### ■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(昭和60年12月23日静岡県条例第38号)

改正 平成元年3月29日条例第43号

平成3年3月19日条例第2号

平成4年3月25日条例第14号

平成8年3月28日条例第11号

平成11年3月19日条例第16号

平成13年7月24日条例第45号

平成15年3月12日条例第2号

平成17年7月15日条例第49号

平成22年3月26日条例第23号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

### 静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例 (趣旨)

第1条 この条例は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 美術の振興を図り、もって県民の文化の発展に寄与するため、静岡県立美術館（以下「美術館」という。）を静岡市に設置する。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(観覧料)

第3条 美術館に展示されている美術品を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第4条 知事は、美術館に収蔵されている美術品について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術品の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の承認には、美術館の管理のために必要な限度において条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(特別観覧料)

第5条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

(使用の承認)

第6条 県民ギャラリー又は講堂（以下「県民ギャラリー等」という。）を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

2 前項の承認には、県民ギャラリー等の管理のために必要な限度において、条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の不承認)

第7条 知事は、次の各号の一に該当するときは、県民ギャラリー等の使用を承認しないことができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めるとき。
- (2) 管理及び運営上支障があると認めるとき。
- (3) その他その使用を不相当と認めるとき。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の承認の取消し等)

第8条 知事は、第6条第1項の承認を受けた者（以下「使用者」という。）が次の各号の一に該当するときは、その承認を取り消し、又は使用を制限することができる。

- (1) 前条各号に掲げる理由が生じたとき。
- (2) 第6条第2項の規定により付された条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他不正の手段により使用の承認を受けたとき。

2 前項の場合において、使用者に損害を生ずることがあっても、県はその賠償の責めを負わない。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用料)

第9条 県民ギャラリー等を使用しようとする者は、別表第3に定める額の使用料を前納しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

(観覧料等の不還付)

第11条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(職員)

第12条 美術館に事務職員その他の必要な職員を置く。  
(協議会の設置)

第13条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、美術館に静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(協議会の委員)

第14条 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、15人以内とする。

2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(委任)

第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

(一部改正〔平成3年条例2号・17年49号〕)

**附 則**

この条例は、昭和61年1月1日から施行する。ただし、第3条から第16条までの規定は、同年4月1日から施行する。

**附 則 (平成元年3月29日条例第43号)**

- 1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

**附 則 (平成3年3月19日条例第2号)**

- 1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行の際現に改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けている者は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けた者とみなす。

**附 則 (平成4年3月25日条例第14号)**

- 1 この条例は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

**附 則 (平成8年3月28日条例第11号)**

- 1 この条例は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

**附 則 (平成11年3月19日条例第16号)**

- 1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

**附 則 (平成13年7月24日条例第45号)**

この条例は、平成13年10月1日から施行する。

**附 則 (平成15年3月12日条例第2号)**

この条例は、平成15年4月1日より施行する。

**附 則 (平成17年7月15日条例第49号)**

この条例は、公布の日から施行する。

**附 則 (平成22年3月26日条例第23号)**

この条例は、平成22年4月1日より施行する。

別表第1 (第3条関係)

(一部改正〔平成22年条例23号〕)

(1) 常設展示

利用区分	観覧料
個人	300円
団体	1人につき 200円

- 備考 1 個人とは、満15歳以上の者であって、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。
- 2 団体とは、20人以上をいう。
- 3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減額し、又は無料とすることができる。

(2) 企画展示

1,500円を限度として知事はその都度定める額

別表第2 (第5条関係)

利用区分	特別観覧料
模写	1点1日につき 2,000円
模造	1点1日につき 2,000円
撮影	1点1回につき 4,000円
熟覧	1点1日につき 1,000円
原板使用	1点1回につき 3,000円

別表第3 (第9条関係)

(一部改正〔平成元年条例43号・4年14号・8年11号・11年16号・13年45号・15年2号〕)

(1) 県民ギャラリー

利用区分	使用料	
	10時から17時30分まで	
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	16,950円
	県民ギャラリーB	12,750円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,300円
	県民ギャラリーB	8,500円

(2) 講堂

使用料		
午前	午後	全日
10時から12時30分まで	13時から17時30分まで	10時から17時30分まで
7,550円	13,650円	21,200円

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(平成3年3月26日静岡県規則第24号)

- 改正 平成5年3月25日条例第13号
- 平成6年3月10日条例第5号
- 平成9年3月28日条例第51号
- 平成12年3月31日条例第17号
- 平成13年7月24日条例第59号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則をここに制定する。

## 静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年静岡県条例第38号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間及び休館日)

第2条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、美術館の長（以下「館長」という。）が特に必要と認める場合には、開館時間を変更し、又は休館日に開館し、若しくは休館日以外の日に休館することができる。

(1) 開館時間 午前10時から午後5時30分まで。  
ただし、入館時間は、午後5時までとする。

(2) 休館日

ア 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日にあたるときは、その翌日以降の最初の休日でない日）

イ 12月27日から翌年の1月3日までの日

（一部改正〔平成9年規則51号・13年59号〕）

(観覧手続)

第3条 常設展示又は企画展示を観覧しようとする者は、条例第3条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、館長が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

(特別観覧手続)

第4条 条例第4条第1項に規定する特別観覧をしようとする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(県民ギャラリー等の使用手続)

第5条 条例第6条第1項に規定する県民ギャラリー等を使用しようとする者は、あらかじめ、様式第2号による県民ギャラリー等使用承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、県民ギャラリー等の使用を承認したときは、県民ギャラリー等使用承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(使用の制限)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

(1) 館内の風紀若しくは秩序を乱し、又は設備を損傷するおそれのある者

(2) 館内の諸規程に違反し、又は管理運営上支障があると認められる者

(3) その他館長の指示等に違反した者

(譲渡等の禁止)

第7条 第4条第2項又は第5条第2項の規定による承認を受けた者（以下「使用権利者」という。）は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。（原状回復）

第8条 使用権利者は、その使用を終わったときは、速やかに、県民ギャラリー等を原状に復しななければならない。条例第8条第1項の規定により使用の承認の取消し等の処分を受けたときも、同様とする。（損害賠償）

第9条 美術館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、美術館の施設若しくは設備を損傷し、又は美術品等を亡失し、若しくは損傷したときは、その損害を賠償しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 条例第10条の規定による観覧料等の減免は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免する額は、当該各号に定める額とする。

(1) 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(2) 前号に規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときに現に付き添って介護をしている者（障害者1人につき1人に限る。）が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(3) 70歳以上の者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(4) 70歳以上の者が企画展示を観覧する場合 観覧料（団体に利用する場合の観覧料が定められている場合であって当該観覧料の適用を受けるときは当該観覧料をいい、観覧料が2以上定められている場合にあつては一般の観覧料（小学校就学の始期に達するまでの者並びに小学校、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者に適用される観覧料以外の観覧料をいう。）をいう。）の2分の1の額（当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額）

(5) 幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として常設展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(6) 幼稚園、小学校又は中学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として企画展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(7) その他館長が特別の理由があると認める場合 館長が別に定める額

2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ

め、様式第3号による観覧料等減免申請書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第4号までに規定する者が常設展示若しくは企画展示を観覧するとき、又は前項第7号に該当する場合であって館長がその必要がないと認めるときは、この限りでない。

3 館長は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(一部改正〔平成5年規則13号・9年51号・12年17号・20年19号〕)

(観覧料等の還付)

第11条 条例第11条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

(1) 観覧者、特別観覧者又は県民ギャラリー等の使用者の責めに帰することができない理由により観覧、特別観覧又は県民ギャラリー等の使用ができなくなったとき。

(2) その他館長が特別の理由があると認めるとき。

2 観覧料等の還付を受けようとする者は、観覧券又は様式第4号による特別観覧料(使用料)還付申請書を館長に提出しなければならない。ただし、前項第1号に規定する理由に該当する特別観覧料及び県民ギャラリー等使用料の還付については、この限りでない。

(委任)

第12条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

**附 則**

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

**附 則 (平成5年3月25日規則第13号)**

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

**附 則 (平成6年3月10日規則第5号)**

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

**附 則 (平成9年3月28日規則第51号)**

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

**附 則 (平成12年3月31日規則第17号)**

1 この規則は、平成12年4月1日から施行する。  
 2 この規則の施行の際改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の様式(以下「旧様式」という。)により提出されている申請書は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の相当する様式により提出された申請書とみなす。

3 この規則の施行の際旧様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

**附 則 (平成13年7月24日規則第59号)**

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

**附 則 (平成20年3月31日規則第19号)**

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

様式第1号(第4条関係)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

(一部改正〔平成6年規則5号・12年17号〕)

特別観覧承認申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所

氏名

電話番号

次のとおり特別観覧の承認を受けたいので、申請します。

美術品の名称		作者名		点数	
特別観覧の目的					
区分	模写 模造 撮影 熟覧 原板使用				
日時	年 月 日 時 分 から 年 月 日 時 分 まで				
内 訳	模 写	点	日	円	合 計    円
	模 造	点	日	円	
	撮 影	点	回	円	
	熟 覧	点	日	円	
	原板使用	点	回	円	
備 考					

様式第2号(第5条関係)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

(一部改正〔平成6年規則5号・12年17号〕)

県民ギャラリー等使用承認申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕

氏名 〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕

次のとおり県民ギャラリー等の使用の承認を受けたいので、申請します。

展覧会、講演等の名称		
展覧会、講演等の内容		
使用区分	県民ギャラリー(A・B)講堂	
使用期間	年 月 日( ) 時 分から 年 月 日( ) 時 分まで 日間	
入場料等の徴収の有無	有・無	円
主催者名		
連絡責任者及び電話		
後援者名		

(注)展覧会、講演等の詳細な内容を記載した書類を添えてください。

様式第3号（第10条関係）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

（一部改正〔平成6年規則5号〕）

観覧料等減免申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕

氏名 〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕 印

次のとおり観覧料等の減免の承認を受けたいので、申請します。

減免申請の区分	観覧料	特別観覧料	使用料
申請の理由			
日 時	年 月 日 ( ) 時 分から 年 月 日 ( ) 時 分まで		
観覧人員			人
県民ギャラリー等使用の場合は、推定入場人員			人
責任者氏名			
責任者電話番号			
観覧料等			円
減免申請額			円

様式第4号（第11条関係）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

（一部改正〔平成6年規則5号〕）

特別観覧料  
使用料 還付申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕

氏名 〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕 印

次のとおり特別観覧料の使用料の還付を受けたいので、申請します。

特別観覧承認書等の年月日及び文書番号	
還付を受けようとする理由	
還付を受けようとする金額	円

（静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則第10条の表中に掲げる特別の理由及び別に定める額の範囲について）

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第10条の表中「その他館長が特別な理由があると認めるとき。」は、次の表の左欄に該当する場合とし、同条の表中「減免する額」は次の表の右欄に掲げる額とする。

観覧料等を減免する場合	減免する額
大学等の教員、美術館等の学芸員及びその他の研究者が学術研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
小学校、中学校、高等学校及び特殊教育諸学校の教諭が教科研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
新聞社及び出版社等が掲載する記事のために特別観覧する場合であって、美術館の宣伝に役立つと認められるとき。	特別観覧料の全額
静岡県立美術館と実質共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の全額
静岡県立美術館と名義共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の2分の1に相当する額
その他館長が特別な理由があると認めるとき。	館長が別に定める額

附 則

この規程は、平成3年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館県民ギャラリー利用規程

（目的）

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12条に基づき、県民ギャラリーの管理を適正に行うため、次のとおりこの規程を定める。

（利用範囲）

第2条 県民ギャラリーは、美術に関する展覧会を開催する場合に利用できる。

2 美術に関する展覧会であっても、収益を目的とする場合は利用できない。

（使用期間）

第3条 使用期間は、原則として1週間（月曜日13時～翌週月曜日12時30分）を単位とし、引き続き使用する場合は最大4週間とする。

2 使用期間は、搬出入を含めて10時から17時30分までとする。

（申込期間）

第4条 申込期間は使用希望する月の6ヶ月前の1日から15日とする。ただし、使用希望日が月をまたがる場合は、使用開始月の申込とする。

2 2週間以上の使用で優先使用を希望する場合は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

使用希望月	申 込 期 間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日～10月15日	前年9月1日～9月15日
5月	前年11月1日～11月15日	前年10月1日～10月15日
6月	前年12月1日～12月15日	前年11月1日～11月15日
7月	1月1日～1月15日	前年12月1日～12月15日
8月	2月1日～2月15日	1月1日～1月15日
9月	3月1日～3月15日	2月1日～2月15日
10月	4月1日～4月15日	3月1日～3月15日
11月	5月1日～5月15日	4月1日～4月15日
12月	6月1日～6月15日	5月1日～5月15日
1月	7月1日～7月15日	6月1日～6月15日
2月	8月1日～8月15日	7月1日～7月15日
3月	9月1日～9月15日	8月1日～8月15日

(申込方法)

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。

(設備取り付け等)

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

(物品等の販売)

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

2 展示品の販売は、一切許可しない。

(展示品等の管理)

第8条 使用期間中の展示品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

(現状回復義務)

第9条 搬出時には、搬入した作品をすべて搬出すると共に、施設等を現状に復し、美術館職員の点検を受けなければならない。残留された物品等に関しては、美術館職員は一切責任を負わない。

(職員の立ち入り)

第10条 管理上必要があると認めるときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年10月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成15年4月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成21年4月1日より施行する。

## ■静岡県立美術館専門委員設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の美術品収集等専門的事項を適切に処理するため、美術館に静岡県立美術館専門委員（以下「委員」という。）を置く。

(職務)

第2条 委員は次に掲げる事項について意見を述べる。

- (1) 美術品の選定に関すること。
- (2) その他美術に関する専門的事項に関すること。

(組織)

第3条 委員は6名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要があるときは、美術館長は臨時委員を委嘱することができる。

3 美術品の選定については、物件ごとに3人以上の委員又は臨時委員とする。

(委嘱)

第4条 委員及び臨時委員は美術に関する専門的知識を有する者の中から美術館長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。

- 2 委員は再任することができる。
- 3 臨時委員は当該特別事項の調査が終了したときは退任するものとする。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和61年10月1日から施行する。

2 静岡県立美術館顧問設置要綱（昭和57年9月1日施行）及び静岡県立美術館資料選定委員設置要綱（昭和57年9月1日施行）は廃止する。

## ■静岡県立美術館協議会設置要綱

静岡県立美術館協議会設置要綱をここに制定する。

### 静岡県立美術館協議会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館の運営を円滑に進めるため、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。（協議会の委員）

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、知事が任命する。

- 2 委員の定数は、15人以内とする。
- 3 委員の任期は、2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は、再任されることができる。

(協議会の会長等)

第3条 協議会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は会務を総理し、会議の議長となる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 5 会長及び副会長とともに事故があるとき、又は会長及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員がその職務を代理する。

(協議会の会議)

第4条 協議会は、会長が招集する。

- 2 協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(協議会の庶務)

第5条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

#### 附 則

- 1 この要綱は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 第2条第1項の規定にかかわらず、この要綱施行の際現に県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例(昭和60年12月23日条例第38号)第13条に規定する静岡県立美術館協議会の委員に任命されている者は、協議会の委員に任命されたものとみなす。
- 3 前項の規定により協議会の委員に任命されたものとみなされた者の任期は、平成4年7月31日までとする。

#### 附 則

この要綱は、平成20年12月17日から施行する。

### ■静岡県立美術館資料評価委員会要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館に収蔵する資料を適正に評価するため、静岡県立美術館に資料評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(職務)

第2条 委員会は、委員6人で組織する。

- 2 委員会は、別表にある者をもってこれに充てる。
- 3 委員会に会長及び副会長を置く。
- 4 会長には文化・観光部長、副会長には、部長代理をもってこれに充てる。
- 5 会長は、会務を総理する。
- 6 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会は、会長が招集する。

(専門評価員)

第4条 委員会に、専門委員会を置く。

- 2 専門評価員は、美術館長がこれを委嘱する。

3 専門評価員は、物件ごとに3人以上とする。

- 4 専門評価員は、会長の求めに応じて個々に独立して物件の価格評価を行い、評価の結果を会長に報告するものとする。
- 5 専門評価員は、静岡県立美術館の専門委員を兼ねることができない。
- 6 専門評価員は、任務が終了したときは解嘱されるものとする。

(庶務)

第5条 委員会に関する庶務は、静岡県立美術館において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

#### 附 則

この要綱は、平成3年9月1日から施行する。

#### 附 則

この要綱は、平成7年4月1日から施行する。

#### 附 則

この要綱は、平成10年4月1日から施行する。

#### 附 則

この要綱は、平成11年4月1日から施行する。

#### 附 則

この要綱は、平成12年4月1日から施行する。

#### 附 則

この要綱は、平成13年4月1日から施行する。

#### 附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

#### 附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

別表

文化・観光部長	部長代理	文化学術局長
文化政策課長	美術館副館長	

### ■静岡県立美術館協議会傍聴要領

1 傍聴する場合の手続

- (1) 会議の傍聴を希望する方は、会議の開催予定時刻までに、受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室してください。
- (2) 傍聴の受付は先着順で行います。定員になり次第、受付を終了します。

2 傍聴に当たって守るべき事項

傍聴者は次の事項を守ってください。

- (1) 会議開催中は、静粛に傍聴すること。発言、拍手その他の方法による可否の表明等をしないこと。
- (2) 会場内での飲食、喫煙はしないこと。
- (3) 会場内での写真撮影、録画、録音等を行わないこと。

いこと。ただし、会長の許可を得た場合はこの限りではない。

(4) その他、会議の支障となる行為はしないこと。

### 3 秩序の維持

(1) 傍聴者は係員の指示に従ってください。

(2) 傍聴者が2の規定に違反したときは、退場していただく場合があります。



## 組織・名簿

### ■事務分掌

#### 総務課

- (1) 職員の人事及び服務に関すること
- (2) 職員の福利厚生及び保健に関すること
- (3) 監査に関すること
- (4) 文書の収受発送に関すること
- (5) 公印の管守及び機密に関すること
- (6) 予算・決算その他会計事務に関すること
- (7) 美術品及び物品の購入に関すること
- (8) 財産及び物品の管理に関すること
- (9) 美術館協議会に関すること
- (10) 他課の所管に属さないこと

#### 学芸課

- (1) 美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示に関すること
- (2) 展覧会の企画及び開催に関すること
- (3) 美術品及び美術に関する資料の利用についての指導助言に関すること
- (4) 美術に関する専門的、技術的な調査研究に関すること
- (5) 美術に関する普及及び創作活動の指導助言に関すること
- (6) 美術に関する講演会及び講習会等の開催に関すること
- (7) 前各号に掲げるもののほか、美術に関する専門的事項に関すること

	館長	副館長	総務課	学芸課	計
常勤		1人	8人	11人	20人
非常勤	1人			3人	4人

### ■美術館協議会

廣田 隆行	静岡市立葵小学校長
渡邊 憲章	静岡県立金谷高等学校長
江崎 善三郎	静岡県文化協会長
西村 美佳孝	フリースクール「空」代表
石川 たか子	(株)丸伸代表取締役社長
松井 純	静岡新聞社・静岡放送社長
坂本 雅子	東海大学短期大学部教授
岡田 恭子	資生堂アートハウス館長
立田 洋司	静岡県立大学大学院教授
杉澤 教人	(株)大志建設代表取締役
谷口 せい子	静岡県観光顧問
北條 博厚	県立美術館友の会会長
田村 孝子	グランシップ館長
広瀬 純一	NHK静岡放送局長

### ■専門委員

木村 重圭	甲南女子大学教授
坂本 満	お茶ノ水女子大学名誉教授 金沢美術工芸大学客員教授
潮江 宏三	京都市立芸術大学教授
建畠 哲	京都市立芸術大学学長
山梨 絵美子	東京文化財研究所企画情報部 近現代視覚芸術研究室長
河野 元昭	秋田県立近代美術館長

### ■資料評価委員

出野 勉	静岡県文化・観光部長
君塚 秀喜	静岡県文化・観光部部長代理
下山 晃司	静岡県文化・観光部理事(文化担当)
宇佐 美稔	静岡県文化・観光部文化学術局長
後藤 淳	静岡県文化政策課長
神尾 好行	静岡県立美術館副館長

### ■職員

館長	芳賀 徹
副館長	神尾 好行
学芸部長	小針 由紀隆
総務課長	佐野 玲子
総務班長代理	稲葉 寿久
主任査	三輪 恵一
主任査	池澤 栄誠
主任査	内田 稔子
管理班長代理	古橋 智裕
主任査	野仲 修
主任査	石川 芳弘
学芸課長	飯田 真幸
上席学芸員	南 美幸
上席学芸員	堀切 正人
上席学芸員	新田 建史
上席学芸員	川谷 承子
上席学芸員	村上 敬
主任査	伴野 潤
主任査	鈴木 雅道
主任学芸員	泰井 良
主任学芸員	石上 充代
学芸員	福士 雄也 (京都国立博物館へ派遣)

### ■非常勤嘱託員及び臨時事務員

非常勤嘱託員	岡村 あさ乃
	佐野 成美
	志田 亜莉沙

## 歳入・歳出決算

### ■歳入決算

単位：千円

項 目	金 額
美術館観覧料	19,259
共催展収入	57,203
県民ギャラリー等使用料	5,338
財産売払・貸付・運用収入	3,586
助成金等	407,820
その他	38,659
計	531,865

### ■歳出決算

単位：千円

項 目	金 額
人件費	189,505
管理費	289,899
運営費	56,411
施設管理費	233,488
事業費	102,314
企画展事業費	78,977
常設展事業費	4,856
資料・普及事業費	18,481
館藏品取得費	12,400
施設整備費	426,271
基金積立	1,088
計	1,021,477

## 建築・設備概要

### ■建築概要

区分	本館	ロダシオン館
所在地	静岡市駿河区谷田53番2号	同左
敷地	県文化センター内(約120,000㎡)	同左
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上2階建 建築面積：6,624.07㎡ 延床面積：9,238.51㎡	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)、2階建 建築面積：2,391.25㎡ 延床面積：3,024.36㎡
仕上	外壁：湿式磁器炉器質無釉タイル貼 屋根：緑青銅板大和葺アスファルト断熱防水 床：花崗岩高熱粗面仕上、タイルカーペット、 長尺塩化ビニールシート貼、フローリング 壁：安山岩「由良赤石」半磨仕上	外壁：花崗岩ジェットバーナー仕上、タイル貼、 タイル打込PC板、吹付タイル 屋根：カラーステンレス葺、トップライト (アルミ、複層ガラス) 床：タイルカーペット 壁：大理石、インド砂岩、クロス貼 天井：石綿吸音板、クロス貼、アルミルーバー
工期	昭和59年3月～昭和60年8月	平成4年3月～平成5年11月

### ■施設概要

区分	本館	ロダシオン館
電気設備	受変電設備 受電電圧6,600V60Hz 変圧器1φ 300KVA、3φ400KVAモールド型	受変電設備 受電電圧6,600V60Hz 変圧器1φ 280KVA、3φ350KVA 契約電力 700KW
	発電設備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、 1,800rpm出力300KVA 3φ3W6,600V	発電設備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、 1,800rpm出力200KVA 3φ3W220V
	太陽光発電設備 10KW×2台	
	蓄電池設備 キュービクル式直流電源装置、 充電サイリスタ全自動整流器	蓄電池設備 屋外キュービクル式直流電源装置
弱电設備 舞台調光、舞台音響、ITV監視、入館 者表示、映像資料(ビデオ)、電話、 放送、電気時計、テレビ共聴	弱电設備 ITV監視、入館表示、ハイビジョン、 電話、放送、トイレ呼出表示、調光、 テレビ共聴	
防災、防犯設備 警備センター集中監視複合盤(自火報、 防排煙)、防犯非常錠制御盤、防災ア ンプ(180W)、ITV監視装置、地図式 表示版	防災、防犯設備 同左	
空気調和設備	熱源機器 直焚吸収冷温水発生機(150USRT、 40USRT)、温水焚吸収冷温水機 (30USRT)、空気熱源回収型スクリュー 式ヒートポンプ冷凍機(150USRT)、 プレート式熱交換機(396,300Kcal/h)	熱源機器 直焚吸収冷温水発生機(80USRT) 2基、蒸気ボイラー(250Kg/h)2基、 空冷チラーユニット(4.39USRT) プレート式熱交換機(86,000Kcal/h)
	蓄熱層 冷温水槽550㎡・55㎡、 ソーラー用20㎡	冷温水クッションタンク 5㎡ 冷水クッションタンク 1㎡
	ソーラーパネル 平板型672枚	
	空気調和機 収蔵庫3系統、展示室2系統、県民 ギャラリー1系統、その他4系統及 びパッケージ型1台、ファンコイル ユニット46台、他空冷ヒートポンプ パッケージエアコン、ルームエアコン	空気調和機 収蔵庫3系統、展示室4系統、全熱 交換機(3台)

区 分	本 館	ロ ダ ン 館	
衛生設備	排煙機	ロビー系統他3系統3台	
	給水設備	受水槽30㎡(二槽式)、高架水槽12㎡(二槽式)	
昇降機設備	排水設備	公共下水道に放流	
	消火設備	展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋内消火栓	
	身障者用	油圧式11人乗750kg	
	荷物用	油圧式3,000kg	
		排煙機	メイン展示室他2系統4台
		給水設備	空調用自動給水装置受水槽 5㎡
		排水設備	公共下水道に放流
		消火設備	展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋外消火栓
		身障者用	油圧式23人乗1,500kg

## ■建設工事費

	本 館	ロ ダ ン 館
建 築	3,802,838 千円	3,415,995 千円
外 構	397,162	—
プロムナード	173,300	—
周辺環境整備	—	268,509
合 計	4,373,300	3,684,504

## ■諸室概要

### ■本館

#### 実技室 (114㎡)

絵画彫刻等実技を伴う学習の場となる。その利用は、通年毎週3～4日の自由工房と不定期に行う技法セミナーや実技講座、ワークショップ等である。

#### 図書閲覧室 (約20席)

当館は図書資料の整備にも力を入れているが、これを一般の人々にも利用していただくことと設けられたものである。

学芸の書庫と隣接している。

閲覧室には、2台の端末が設置されており、パソコンを使った美術鑑賞ができるようになっている。

#### レストラン (80席 198㎡)・カフェ (39席 36.7㎡)

レストラン「エスタ」及びカフェ (ロダン) は、日本平ホテルが運営している。

#### ミュージアムショップ

展覧会図録、絵ハガキ、館蔵品目録等の美術館の刊行物、美術書等を販売する場所で、2階ロビー内にある。静岡市内の書店3社による共同経営の形をとっている。

## 諸室の配置

機能性を最重点に考慮して、学芸関係諸室の配置を考えた。まず、学芸員室と図書室が近いこと、次に搬入、収蔵、展示活動に便利な場所に学芸員室が配置されていることなどである。当然、写真撮影室や燻蒸室も学芸員室を中心として配置され、機能性を重視している。

#### 展示室 (7室 1,777㎡)

展示室は2階にあり、連続した7つの部屋から構成され、一部を常設展、一部を企画展とし、企画展の規模によって、自由に部屋を間仕切りして使用している。

展示室は、すべて壁付固定ガラスケースが配されている。また、このケースのすべての前面に移動パネルを設置できるようになっている。これにより全室ガラスケース展示が可能であり、逆に全室パネル展示も可能となる。自由に展示構成が考えられ、部屋の雰囲気が一変する。

このガラスケースには、ケース上部に三本、下部に一本の無紫外線蛍光灯があり、壁ごとに調光可能となっている。

また、パネル展示の場合には、このパネルに均一な照明がなされるよう、ライティング・ダクトが天井に配置してある。あわせて、こちらも壁ごとに調光できるようになっている。

#### 県民ギャラリー (2室 490㎡)

県民の創作活動の発表の場として、個展やグループ展に利用できる。上記展示室同様、可変照明設備、移動展示パネルが設けられている。

### 講堂 (262席 305㎡)

来館者のオリエンテーション、講演会、映画会、小音楽会等、多目的に利用できる。

スライド映写機2台、16mm映写機2台を常備し、調光、音響調整の設備がある。

### 講座室 (約30席 71㎡)

美術に関する講座を行う。常設展では展示室ごとに各学芸員がテーマを持って各担当の展示をしているので、それに関連した内容の講座を行っている。企画展開催中は担当学芸員が企画展に関する講座を通常行っている。

スライド映写設備、音響設備がある。

### 託児・授乳室 (12.5㎡)

乳幼児を同伴しているため、十分に美術鑑賞ができない人の利便を図り、より多くの人に芸術文化に親しむ機会を提供するよう、託児・授乳室を開設した。

託児室 毎週土、日曜、祝日

11時～16時

(2時間を限度)

授乳室 開館日全て

10時～17時30分まで

(夜間開館日は20時まで)

## ■ロダン館

### ロダンフロア (1,461㎡)

高さ20m天井部にはトップライトを設け、十分な自然光を取り入れることにより室内でありながら、さながら広場のような印象を与えるよう工夫されている。また、高低差のあるスキップ・フロアはあらゆる角度から鑑賞が可能であり、その周囲には高齢者や車椅子利用者が自由に移動できるよう、スロープを巡らしてある。冬季には空調による暖房に加え、電気ヒーター及び温水による床暖房も行っている。

### 展示室1 (98㎡)、展示室2 (149㎡)

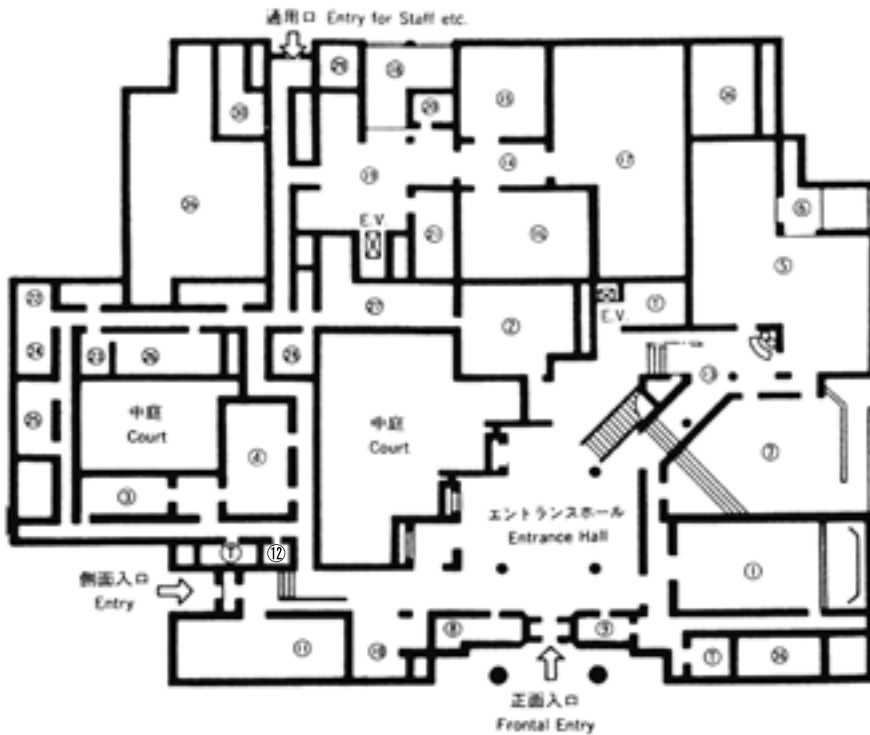
ロダンに関する様々な情報を提供する部屋として、1階エントランスホールの両側に設けられている。構造的には、ロダンフロアと異なり天井高は標準的で、暖房は空調のみである。展示室1には、地獄門の铸造過程の写真パネルやブロンズの製造過程を示す模型及びロダン写真資料(CD-ROM)検索システムが設置されている。また、展示室2にはロダン以前の彫刻等が展示されている。

### ブリッジ・ギャラリー (276㎡)

本館とロダン館を接続するための通路を兼ねたブリッジ状の展示室で、ロダン以降、現代までの彫刻13点が展示されている。

■平面図  
■本館

1階 First Floor



- ① 講堂 Auditorium
- ② 図書閲覧室 Library
- ③ 講座室 Lecture Room
- ④ 実技室 Atelier
- ⑤ 県民ギャラリー Gallery for Lending
- ⑥ ギャラリー搬入口 Delivery Room
- ⑦ 展示テラス Terrace for Sculpture
- ⑧ ボランティア室 Volunteer's Room
- ⑨ ロッカールーム Cloak Room
- ⑩ カフェ Cafe

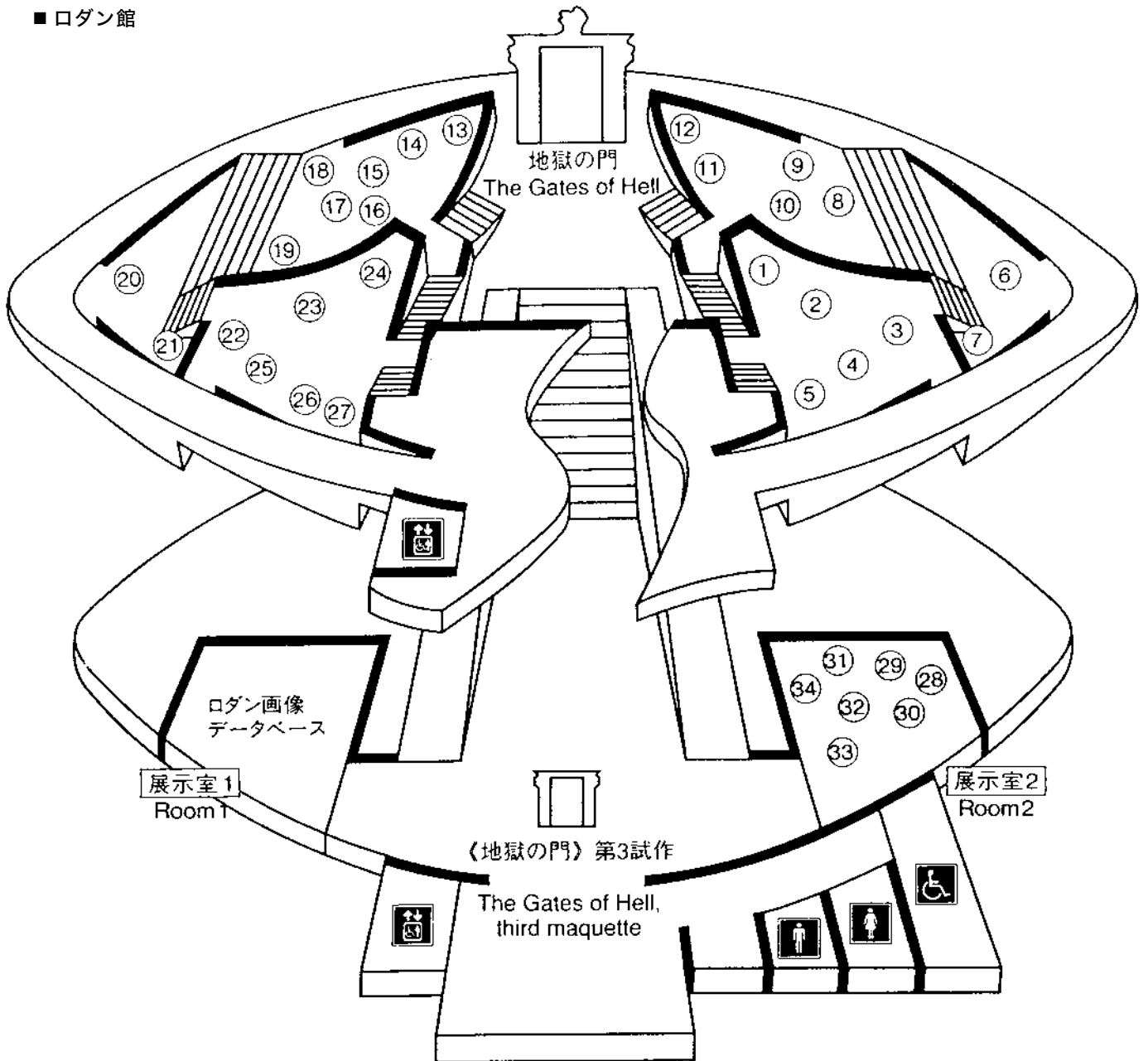
⑪ (次頁へ)

2階 Second Floor



- ⑪ レストラン Restaurant
- ⑫ 託児・授乳室 Nursery
- ⑬ ギャラリー前ロビー Lobby
- ⑭ 収蔵庫前室 Storage Front
- ⑮ 収蔵庫1 Storage (1)
- ⑯ 収蔵庫2 Storage (2)
- ⑰ 収蔵庫3 Storage (3)
- ⑱ 搬入口 Delivery Room
- ⑲ 荷受室 Packing Room
- ⑳ 燻蒸室 Fumigation Room
- ㉑ 写真撮影室 Photo Studio
- ㉒ 館長室 Director's Room
- ㉓ 副館長室 Vice-Director's Room
- ㉔ 応接室 Reception Room
- ㉕ 会議室 Council Room
- ㉖ 事務室 General Affairs Section
- ㉗ 学芸員室 Curatorial Section
- ㉘ 修復室 Restoration Room
- ㉙ 警備員室 Guards Room
- ㉚ 中央監視室 Central Monitor Room
- ㉛ 常設展示室 Gallery for Permanent Collection
- ㉜ 企画展示室 Gallery for Loan Exhibition
- ㉝ ラウンジ Lounge
- ㉞ ミュージアムショップ Museum Shop
- ㉟ 機械室 Machinery Room
- ㊱ ブリッジ・ギャラリー Bridge Gallery
- ㊲ トイレ W. C.
- E. V. エレベーター Elevator

■ ロダン館



ロダン, A

- ① 《カレの市民》ジャン・デール
- ② 《カレの市民》ジャン・ド・フィエンス
- ③ 《カレの市民》ピエール・ド・ヴィッサン
- ④ 《カレの市民》ジャック・ド・ヴィッサン
- ⑤ 《カレの市民》アンドリュウ・ダンドル
- ⑥ 《カレの市民》ユスターシュ・ド・サン＝ピエール
- ⑦ 《カレの市民》第一試作
- ⑧ ホイッスラーのためのミューズ
- ⑨ 裸のバルザック
- ⑩ バルザックの頭部
- ⑪ 永遠の休息の精
- ⑫ 《永遠の休息の精》のトルソ
- ⑬ 《影》のトルソ
- ⑭ バオロとフランチェスカ
- ⑮ フギット・アモール
- ⑯ 《影》の頭部
- ⑰ 壺をもつカリアティード
- ⑱ シベール
- ⑲ 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者  
女のケンタウロスと女のトルソ  
女のケンタウロスとイリスのためのトルソ
- ⑳ 考える人

- ㉑ バッカス祭
- ㉒ 《ラ・フランス》習作
- ㉓ バスティアン＝ルパージュ
- ㉔ ヴィクトリア・アンド・アルバートと  
呼ばれる女のトルソ
- ㉕ クロード・ロラン
- ㉖ ボードレールの頭部
- ㉗ 花子のマスク

展示室2

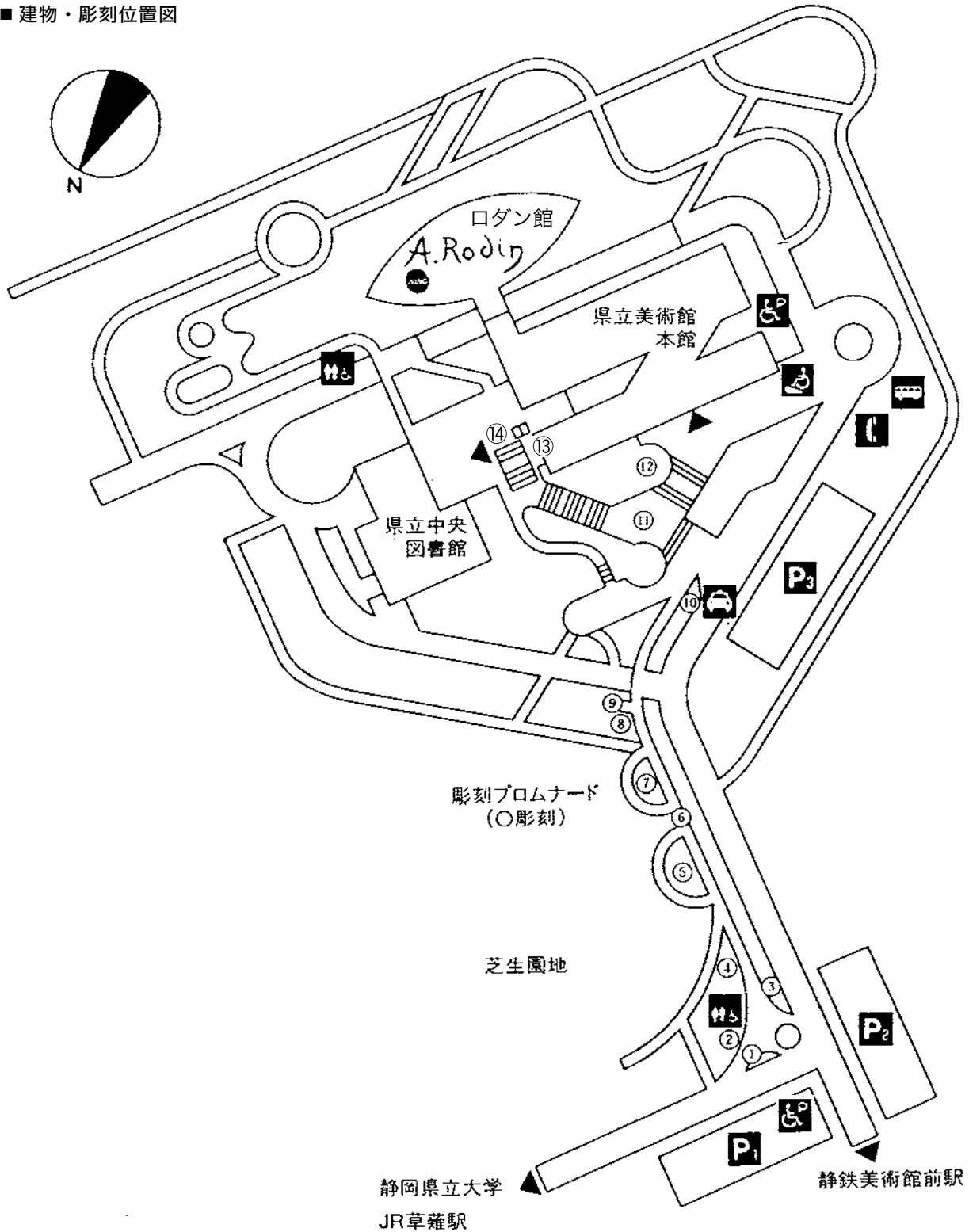
- ㉘ カルポー, J.B. / ナボリの漁師の少年

- ㉙ カリエ＝ベルーズ, A.E. /  
ニンフを連れ去るサテュロス
- ㉚ ロダン, A. / パラの髪飾りの少女
- ㉛ カルポー, J.B. / 悲しみの聖母
- ㉜ ダルー, A.J. / 乳を与えるパリの女
- ㉝ フレミアエ, E. / 蛇使い
- ㉞ バリー, A.L. / ライオンと蛇

ブリッジ・ギャラリー

- ① ゴーギャン, P. / オヴィリ
- ② バルラッハ, E. / 読書する僧たちⅢ
- ③ ムーア, H. / 横たわる人体
- ④ レームブルック, W. / 女のトルソ
- ⑤ ジャコメッティ, A. / 横たわる女
- ⑥ アーキベンコ, A. / 《化粧する女》習作
- ⑦ ブランクーシ, C. / ボガニー嬢Ⅱ
- ⑧ リブシツ, J. / 母と子
- ⑨ ロッソ, M. / 病める男
- ⑩ プールデル, E.A. / アポロンの首
- ⑪ プールデル, E.A. / ロダンの肖像
- ⑫ マイヨール, A. / 《イル・ド・フランス》  
のトルソ
- ⑬ クローデル, C. / 波

■ 建物・彫刻位置図



- ① 杉村孝《しゃくじんシリーズによる》
- ② J. ロザティ《アークII》
- ③ 舟越保武《杏》
- ④ 山口牧生《四角柱と丸い石》
- ⑤ 清水九兵衛《地簪》
- ⑥ 掛井五郎《蝶》
- ⑦ 大西清澄《涛の塔》
- ⑧ 鈴木久雄《風化儀式V-相関体》
- ⑨ 佐藤忠良《みどり》
- ⑩ 柳原義達《道標・鳩》
- ⑪ T. スミス《アマリス》
- ⑫ G. リッキー《四つの旋回する斜線-菱形II》
- ⑬ 増田幸雄《風に吹かれて》
- ⑭ 内田晴之《異・空間》



## 利用案内

■開館時間 午前10時～午後5時30分  
(入館は午後5時まで)

[夜間開館] 7・8月の企画展期間中の毎週土曜日、  
午後8時まで開館(入館は午後7時30分  
まで)

■休館日 毎週月曜日(但し、祝日・振替休日の場  
合は開館し、翌日休館) / 年末・年始 /  
その他展示替等のための休館日

### ■収蔵品展観覧料

観覧料 / 一般300円(団体200円)  
 / 大学生以下・70歳以上の方は無料

### ■企画展観覧料

展覧会名	一般	70歳以上
伊藤若冲 -アナザーワールド-展	1,100円 <900円>	500円 <400円>
トリノ・エジプト展	1,200円 <1,000円>	600円 <500円> ※高校生・ 大学生含む
ロボットと美術	900円 <700円>	400円 <300円>
あなたの愛する風景	600円 <400円>	300円 <200円>
ニューオーリンズ ギター・コレクション展	1,000円 <800円>	500円 <400円>

\* <>内は団体(20名以上)及び前売料金

\* 中学生以下及び、身体障害者手帳、療育手帳、精神  
障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は、企画  
展、収蔵品展とも無料でご覧いただけます。(高校  
生・大学生は、収蔵品展は無料、企画展は展覧会に  
よって有料・無料となります。)

### ■施設使用料

(1) 県民ギャラリー

利用区分		使用料 10時～17時30分
入場料を 徴収する場合	県民ギャラリーA	16,950円
	県民ギャラリーB	12,750円
入場料を 徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,300円
	県民ギャラリーB	8,500円

(2) 講堂

使用料		
午前	午後	全日
10時～12時30分	13時～17時30分	10時～17時30分
7,550円	13,650円	21,200円

交通案内 JR「草薙駅」から静鉄バス「県立美術館  
行き」で約6分

静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分

JR「静岡駅」南口からタクシー約20分

美術館所在地 〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

電話番号 総務課 (TEL) 054-263-5755

〃 (FAX) 054-263-5767

学芸課 (TEL) 054-263-5857

〃 (FAX) 054-263-5742

美術館友の会事務局 054-264-0897

ミュージアムショップ 054-264-8926







平成22年度  
静岡県立美術館年報

編集・発行：静岡県立美術館 ©

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53-2 TEL 054(263)5755

印刷：松本印刷株式会社

〒421-0303 静岡県榛原郡吉田町片岡 2210



Annual Report of  
Shizuoka Prefectural Museum of Art, 2010

Edited and Published by Shizuoka Prefectural Museum of Art ©

Printed by MATSUMOTO Printing Co.,Ltd., Shizuoka

Printed in Japan 2011